大正十五年九月一日發行(每月一回一日發行)

建築と社會

(第九輯第九號)

第九輯
第九號

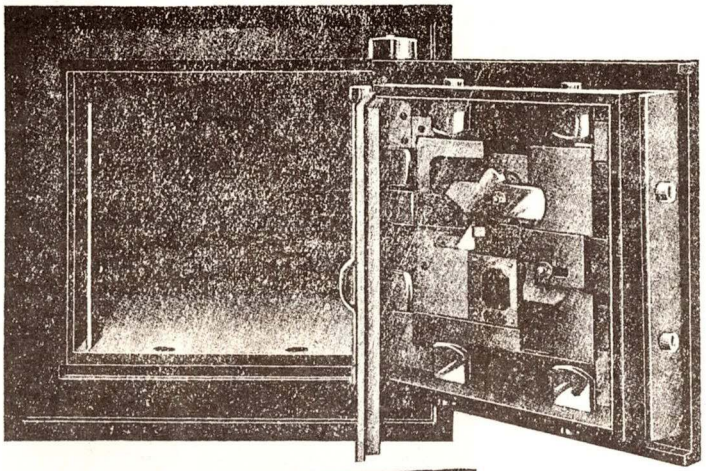
日本建築協會
大正十五年九月一日

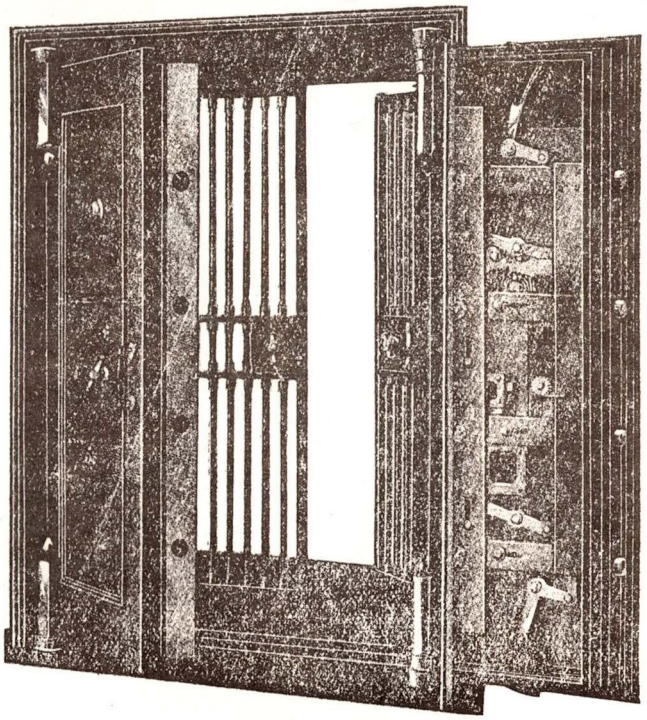
OTANI SAFE DOOR

向上へ

躍進又躍進！

需要製産ヲ超ヘ
純質名聲ヲ超ユ
卓超セルル大谷金庫ノ技術
御採用アランコトヲ





東京 新富町
京都 松原通
大阪 淀屋橋
神戸 楠町六

移轉廣告

新營業所

大阪市北區中之島二丁目江商ビルディング四階

電話本局（長一八八一番　一八八三番
一八八二番

日米板硝子株式會社
同　大阪販賣店

（舊營業所　大阪市西區阿波堀通一丁目）

製品解說

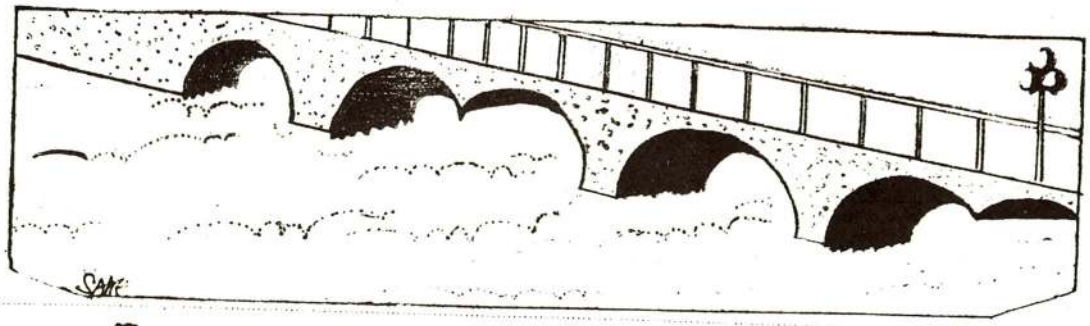
製造方法　世界最新コールボーン式自働連續板狀伸延製造法ト稱シ幅六呎ノ板硝子ヲ長サ無限ニ連續製出ス

特　徵　精密ナル機械ノ標準ト硬化作用ニヨリ板面ハ反リ歪ミ無ク厚サ整等ニシテ質强靱ナルヲ以テ破損ノ虞少シ

厚　味
二十四オンス品　並板（十六オンス）ニ比シ二倍ノ破壞强度及耐久力ヲ有スルヲ以テ學校病院工場會堂ビルディング等ノ高級建築及シヨウウインドウ用トシテ最適品ナリ
三十四オンス品　汽車電車等ノ窓硝子トシテ賞用セラル

加工品　摺　結霜　春霞

和洋建築窓、家具等ニ使用シテ頗ル優美ナリ



口繪

■江商ビルディング

外觀
東玄關口
會議室
營業室

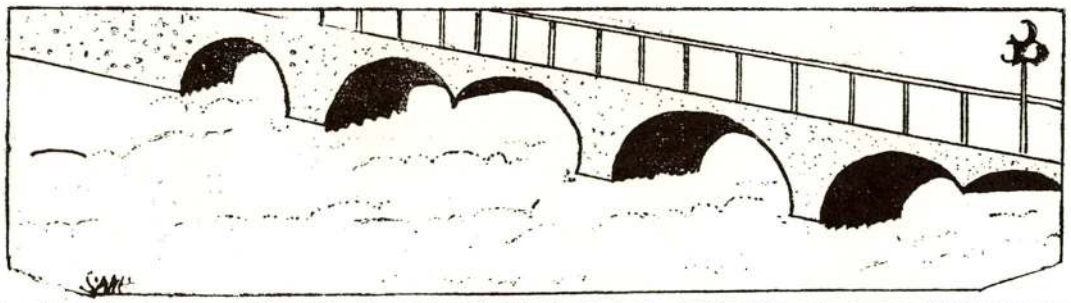
■江商ビルディング平面圖

地階
壹貳階
參階以上

中挿み

◇主婦の氣轉で
◇ごく經濟に出來る窓掛
◇建築創造時代
◇茶の間の裝飾
◇住宅

▼建築家と社會政策家……（一）
▼震火災三週に莅んで……（二）
▼下層階級住宅政策の確立……紫安新九郎（四）
▼共同建築組合法案に就いて……岡崎早太郎（六）
▼觀て來た歐米都市……木南正宣（一四）
▼改造途上の我建築……甲斐逸士（一八）
▼獨逸地方の都市（二）……姪夢哀生（三）



九輯第九號目次

▼五十年前の米國建築界(一)……葛野壯一郎…(二六)

▼建築美に就いて……石本喜久治…(三六)

▼近世劇場構造(二)……Edward Bernard Kinsila 池田谷久吉譯…(三八)

▼繩黒餘事……南信…(四二)

◇◇◇

建築は藝術なりや、將た非藝術なりや難解の岐路に立てる吾等、敢て諸賢の御指導に質す……松浦助…(四五)

附錄

ゼネバ國際聯盟建築に關する懸賞設計の綱領並に規定

▼江商株式會社本社ゴーショービルディング新築工事概要……(五〇)

▼俳壇——短夜蝸……齋藤溪舟選…(五一)

▼俳話——建築家と句……溪舟…(五三)

▼日本建築協會々報……

新革之料材「壁」



特許　專賣

アサダセメント、プラスター

特長
- ○施工迅速　○色澤高尚
- ○安全堅固　○工費低廉
- ○耐濕耐火　○防錆防腐



特許　專賣

アサダ・白色ポートランド・セメント

特長
- ○高尚ナル純白色
- ○強力甚大、膨脹龜裂ノ虞ナシ
- ○緩結性ニシテ使用容易
- ○凡テノ性狀普通「セメント」同等以上

乞御試用

專賣所

兵庫縣飾磨港

飾磨化學工業株式會社

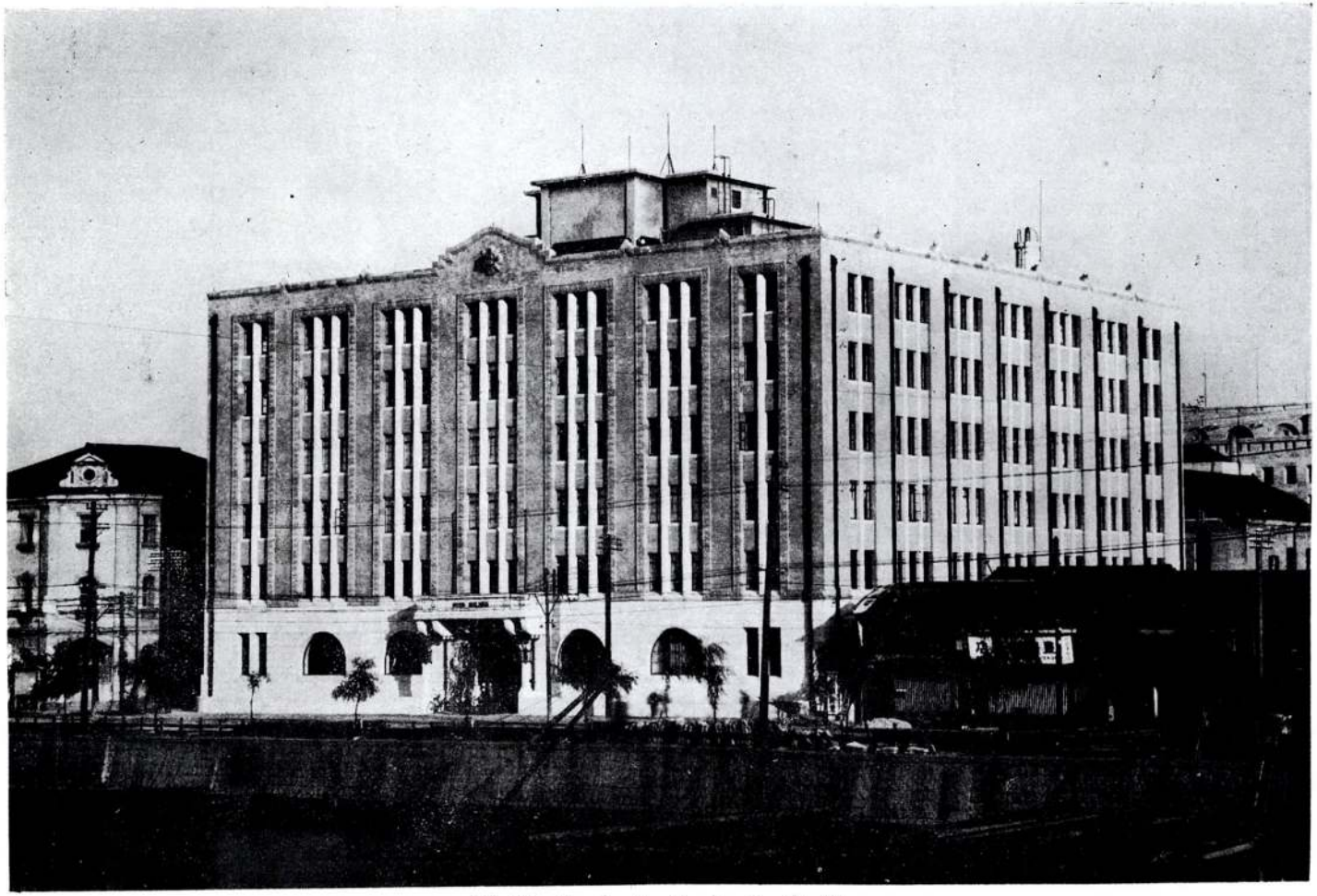
東京販賣所

東京市日本橋區本町三丁目
山口ビルヂング五階

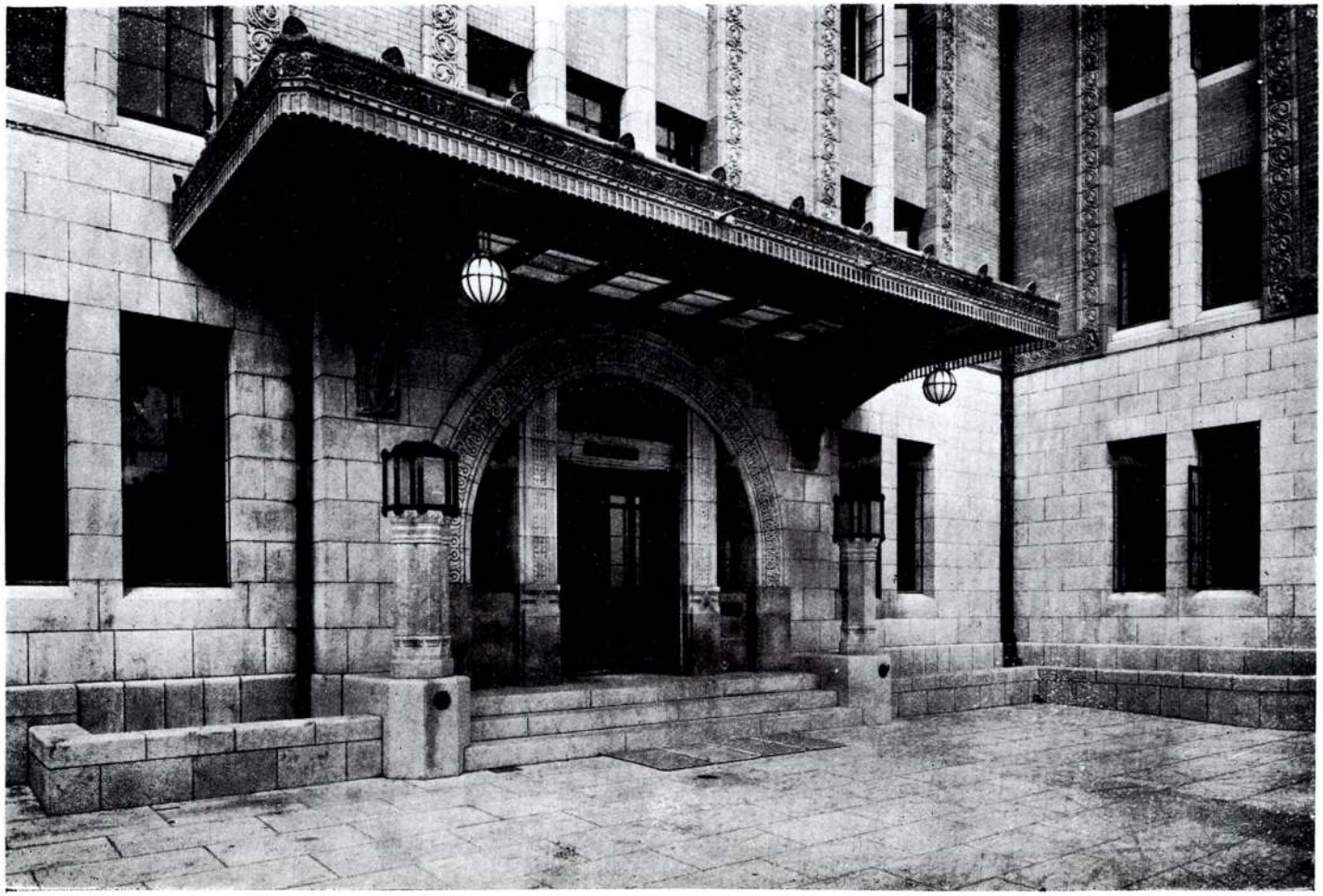
建興社

電話飾磨（六一〇六一番）

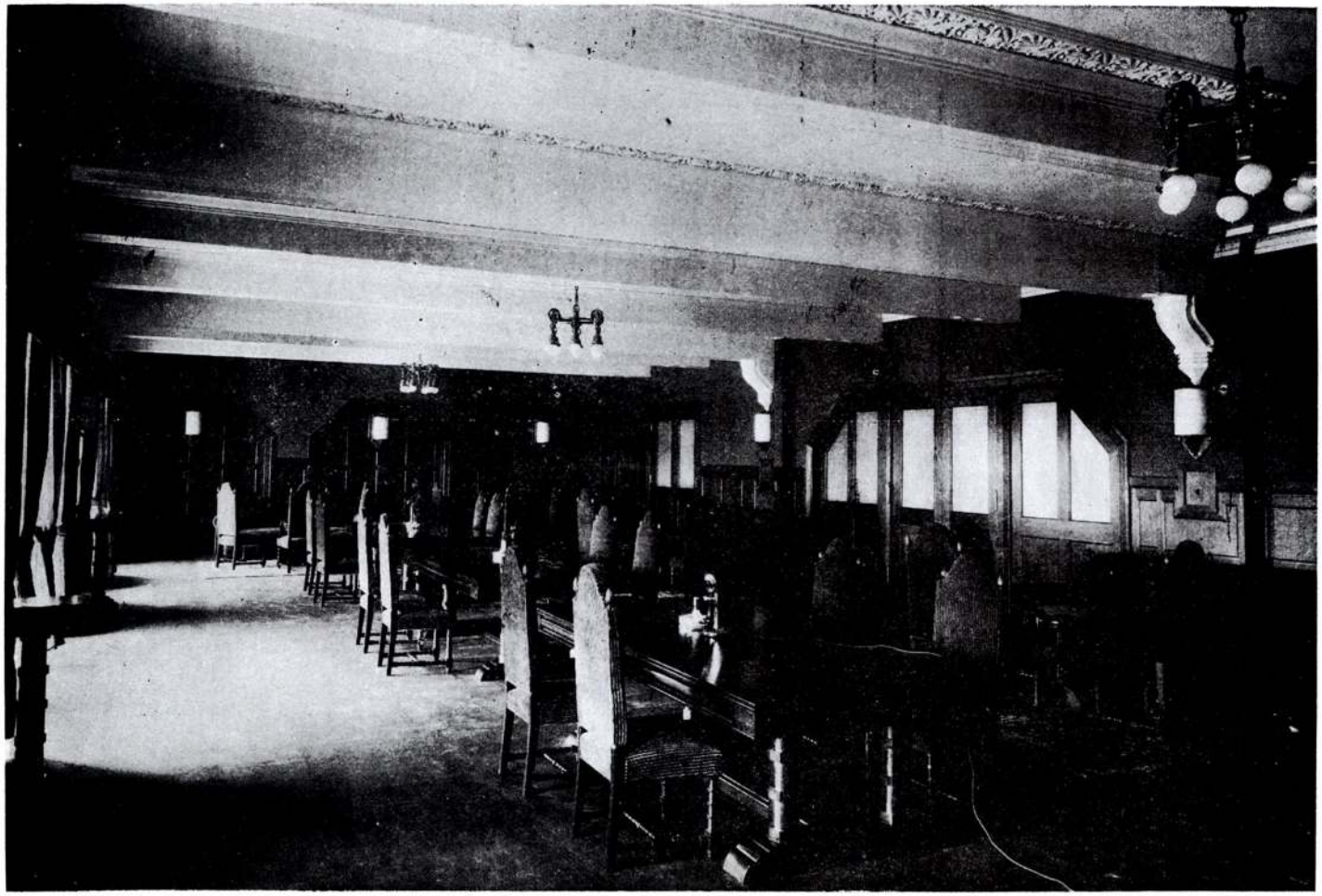
電話大手（自九七五七番 至五七九番）



江商ビルディングノ外観
——大阪市北區中之島二丁目——



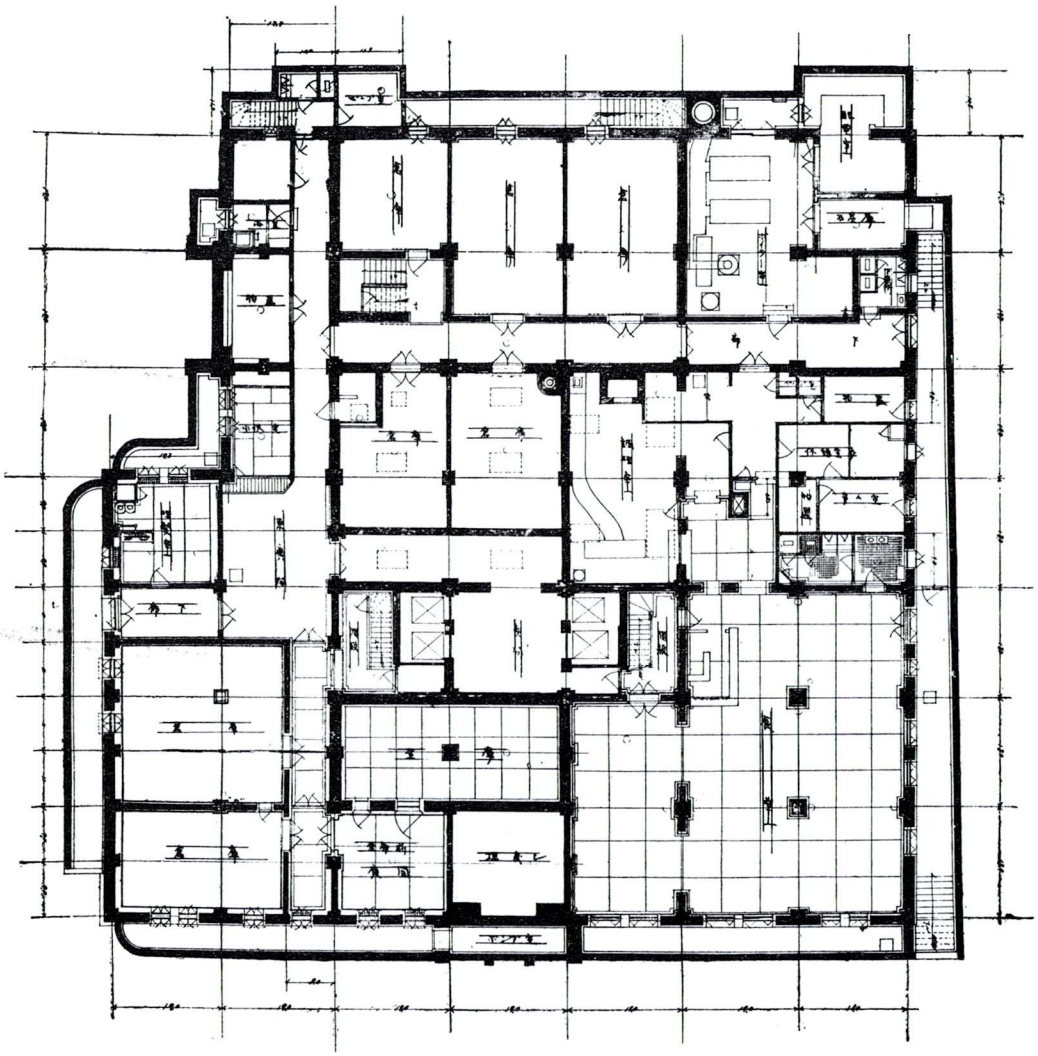
江商ビルデイング東玄關（會社專用）



江商ビルデイング　(會社會議室)

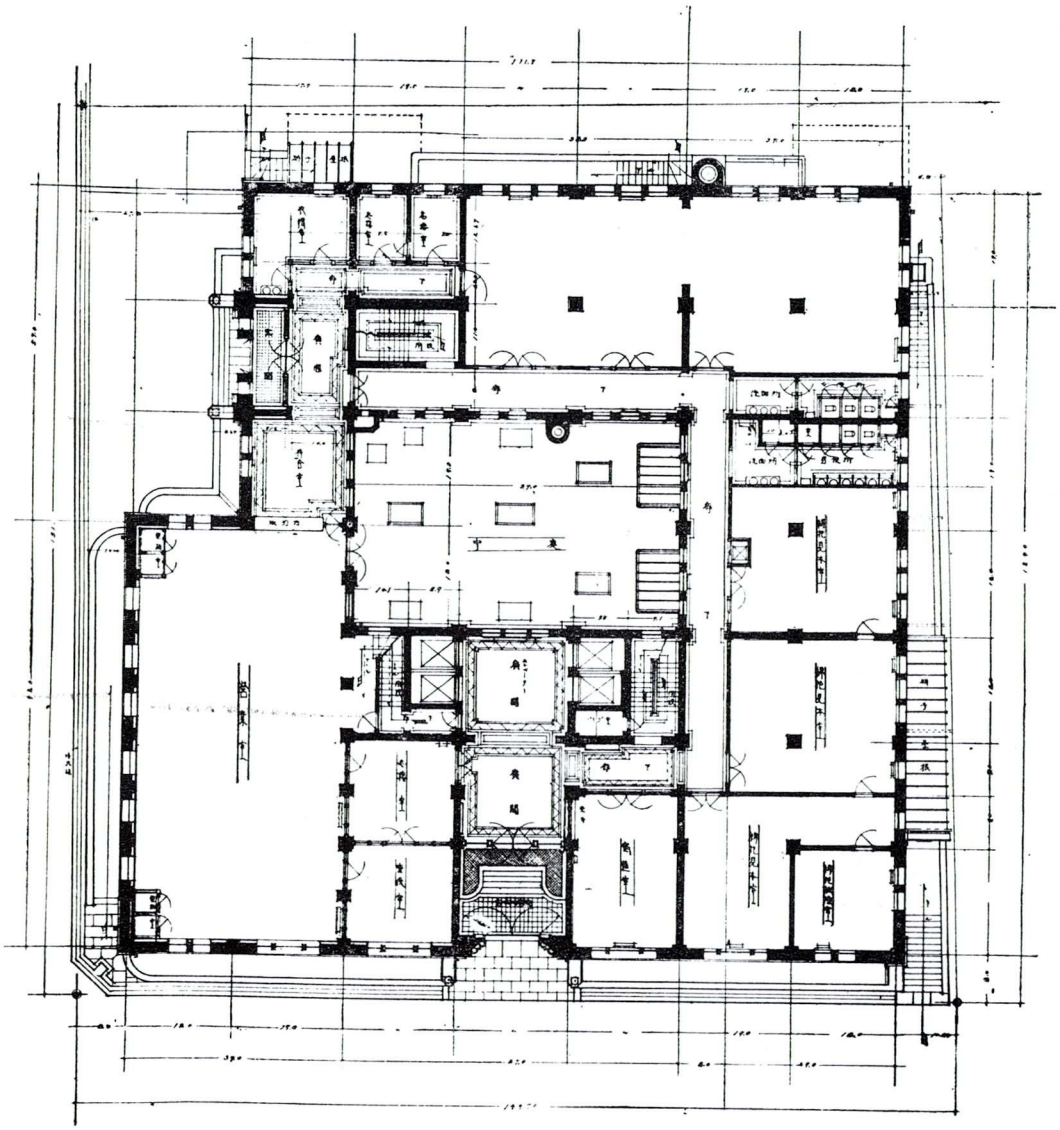


江商ビルデイング（會社營業室）



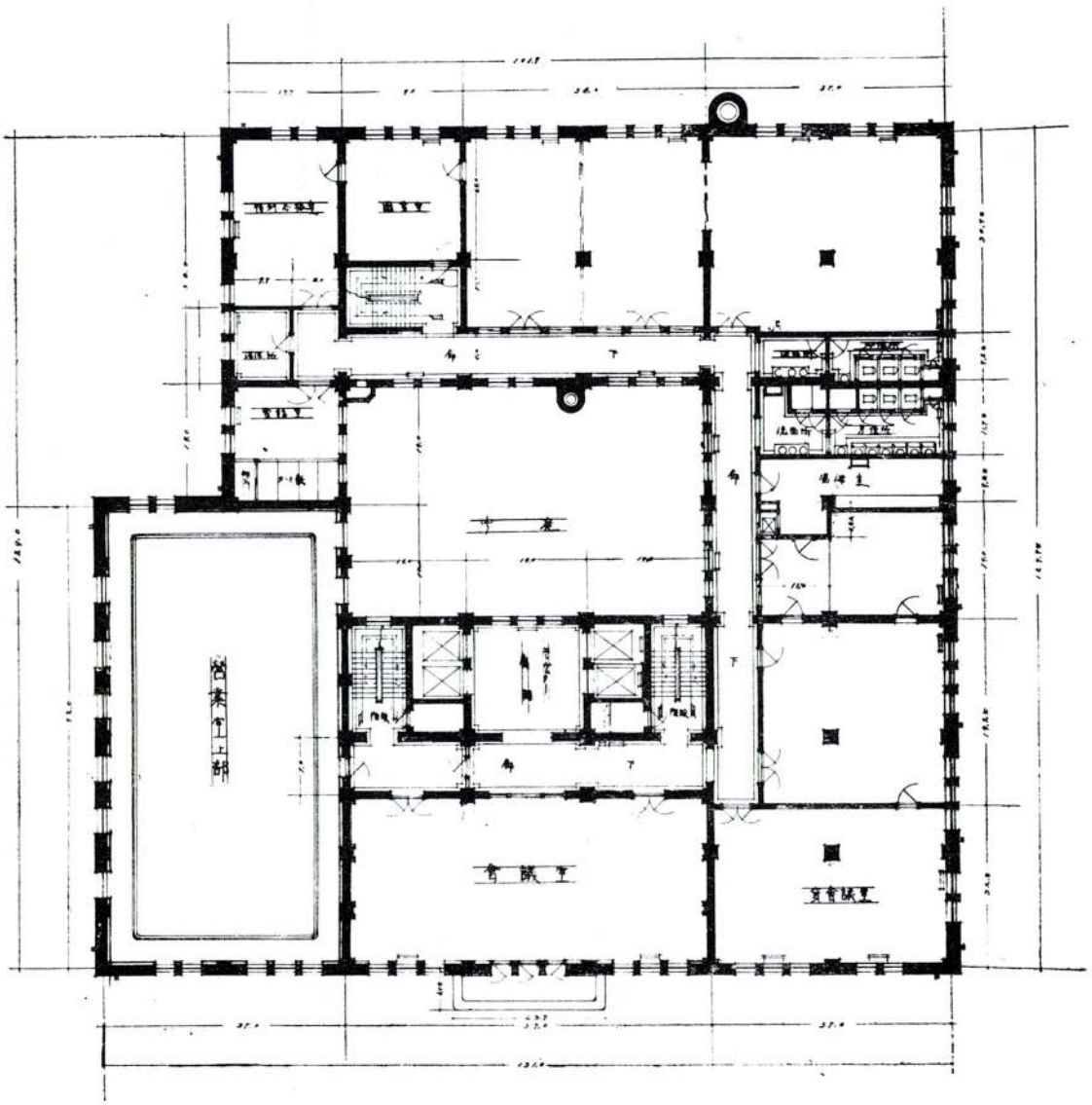
江商ビルデイングの平面圖

——地　階——



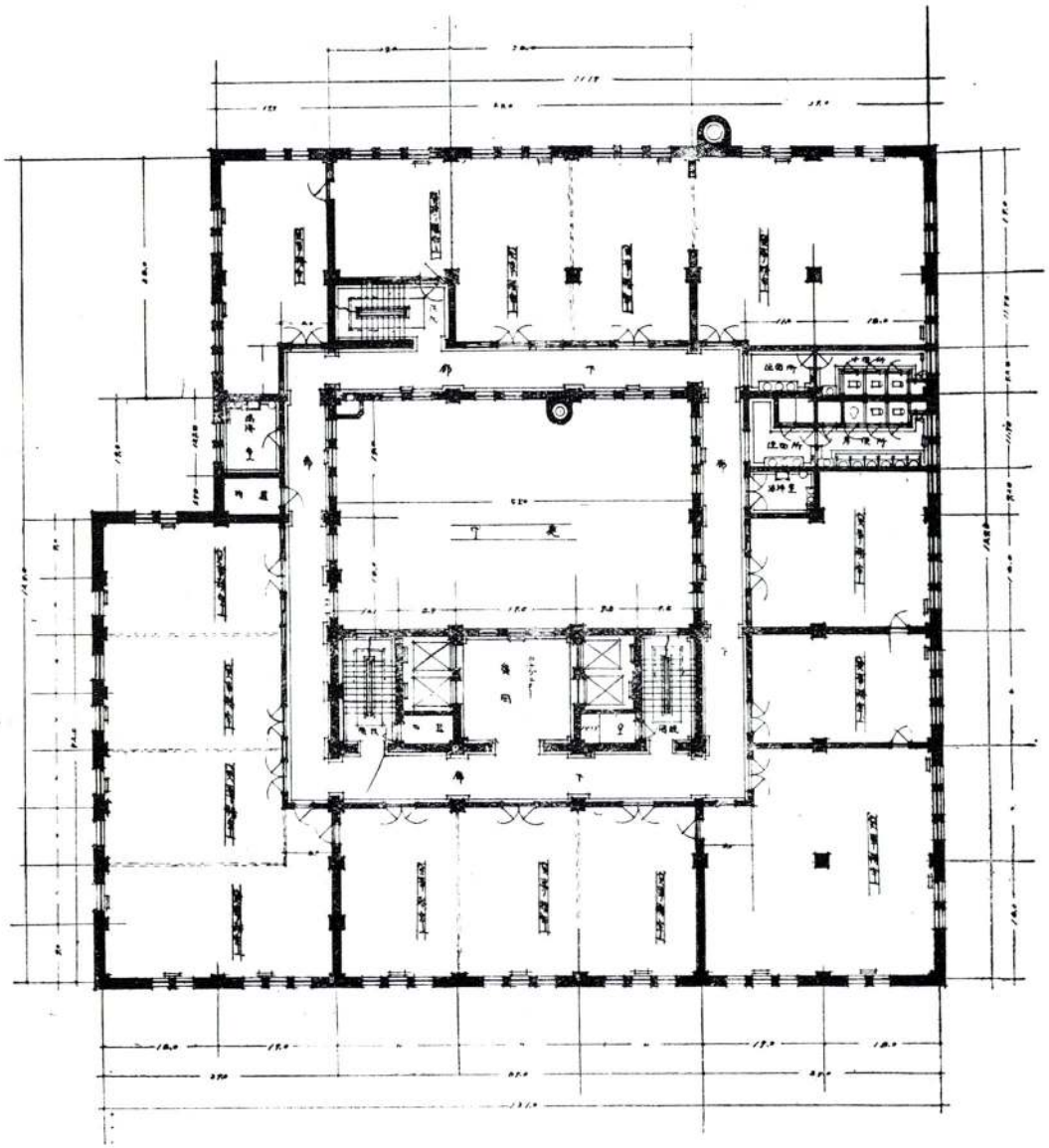
江商ビルデイングヶ平面圖

——壹　階——



江商ビルデイングス平面圖

——階　貳——



江商ビルデイングの平面圖

——參階以上——

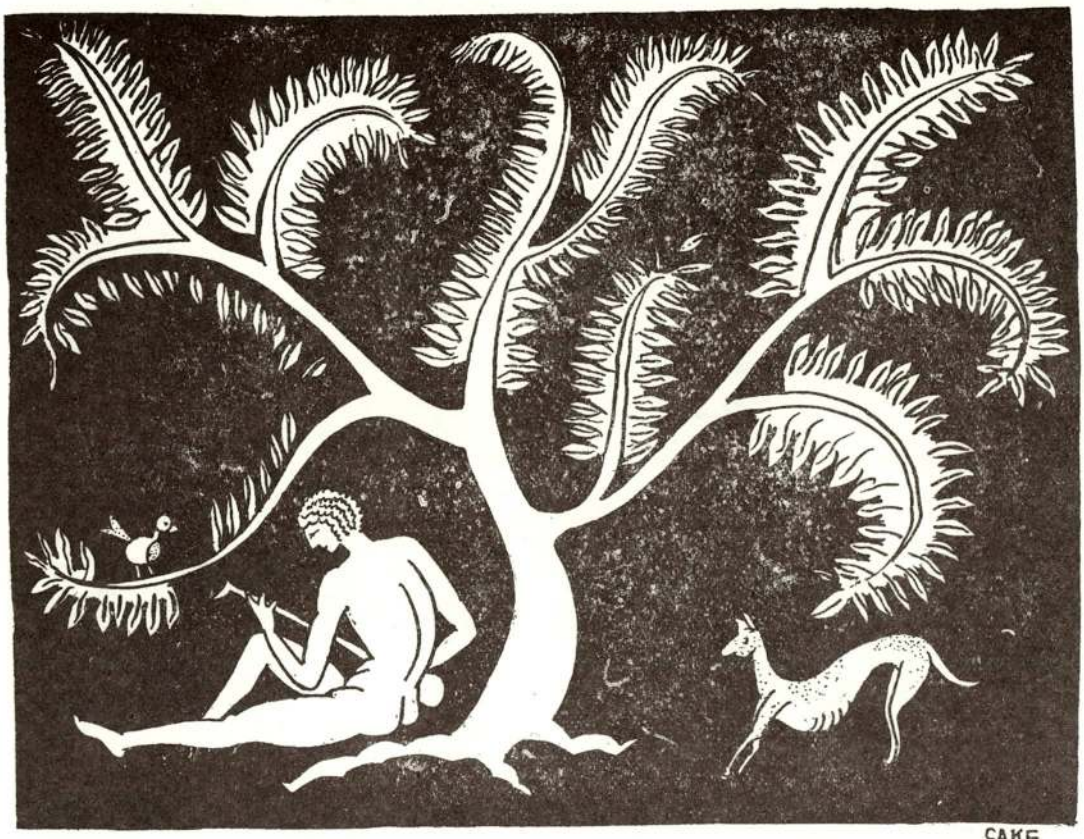
「ゼネヴア國際聯盟建築に關する懸賞設計の綱領並に規定」頒布

右綱領及び規定の佛文及び英譯をゼネヴア國際聯盟より當協會へ寄贈されしを以て右日本譯を附錄として本誌卷末に添附せり。

尙ほ別に右を增刷し置きたるを以て一部實價五拾錢(送料とも)にて分與することとせり。御入用の方は此の際至急申し込まれたし。

但し代金は當協會振替口座大阪三九九七五番へ御拂込みを便宜とす。

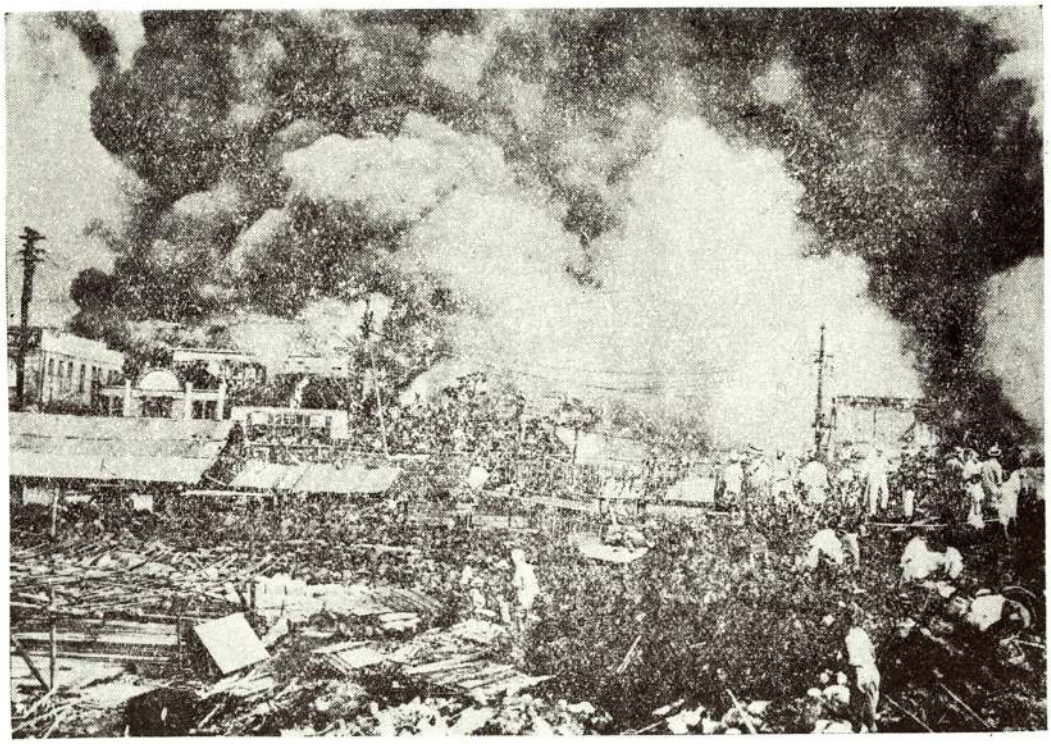
日本建築協會



建築家と社會政策

建築家は、藝術家であると同時に科學者である。彼れの腦裡に畫く一線一劃は、當に一種の理想主義者(Idealism)であつて、その作物の社會性を如實に具現する處に於て彼れは亦一種の現實主義者(Pragmatism)である。而して、彼れは「學」に立脚すると共に「術」に自己を創造する。蓋し、築建家ほど、複雜な性格の所有者はあるまい。等しく科學者としても彼れの科學は、ほんとうに建築學を解する限りに於て、彼れは氣象學者であり、地震學者であり、光學者であり、機械學者であり、數學者であり、物理學者であり、等、等である。又その綜合的應用の能力は、當さしく一種の政策家である。殊に近代の建築は、對社會性の增々緊密なる關係に於て、彼れは、必他面に、社會政策家であられねばならぬ。都市問題の交涉を多く建築に有つてゐる關係に觀れば、建築家の視界は須らく社會の全般に透徹しなければならぬ筈である。一點一劃の問題は自らその時、處あり、是が建築家の全豹ではあるまい。

(江邨)

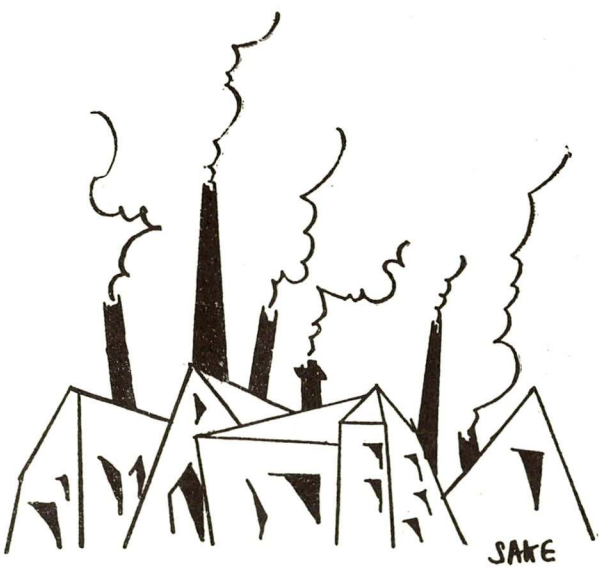


震火災三週年に莅んで

「九月一日午前十一時五十八分！」——大正十二年のそれは永劫に徂きて亦回へらず。されど、我等日本國土の歴史には、恐らく盡未來この一句を深く刻みて、劫遠にその頁を留むるであらう處の、關東大震火災は、その瘡痍全く癒へずして、夙くも茲に思ひ出多き三週年を迎へた。突如日本國土と我等國民に臨んだ斯の天譴は、其事の我震火災史を空ふする程のものであつたそれだけ我國民の恐怖と嚴肅なる氣持ちは、國を擧げて深甚なるものがあつた。數知れぬ酸鼻の事實、癒し難い無量の損害、それは、恐らくまだ幾歳月の永い間、まざ〳〵と新しい意味を喪はないであらう。さるに、人心は既に夙くも斯の事實に倦んだ。我が有史以來、然り二十數世紀を綴り來つて、空前なる震火災史の頁を、斯の絶大な悲慘事にて誌るされたときを距る僅に幾十ケ月の今、國民の眞面目なる省察は夙くも薄らぎ、その試練に對する敬叡の態度は既に亡びんとしてゐる。約言すれば彼等は斯の往時の大事實を忘れんとしてゐるのだ。就中、建築



技術の一大試金石であつて、我建築家の得た斯の一大活學問は爾來今に到り果して何ものを具現したであらうか。殊に、建築政策上の問題に於て、何を獲得したであらうか。震災三週年の今、我等は、國民の餘りに健忘的なるを、衷心より愁へざるを得ない。所謂國亡びて山河在りの獨逸國民が、國力の恢復に營々たる眞劍さは、災後の我國民に於ても學ぶべき態度であらねばならぬ。倫敦大火後の復興的努力は、獨り倫敦市民の問題ではなかつた。桑港震害後の新建は、亦亞米利加國民の等しく擔つたそれであつた。關東震火災の厄事を以て、曾つては一地方的の出來事と觀ずして、一時は日本國民の頭上に臨んだ汎日本の禍厄として自ら戒めた。然るに、今は三週年の回事に方りて國民の冷淡さを觀よ！。事古りし歷史の頁を繰るにも勝した閑却視を眺めよ！。またうたてき限りではないか。——我等は、靜に懷ひを新にして、悲しくも尊き幾多の犧牲に今更らに心よりの同情を寄せると俱に、斯の與へられし尊嚴なる啓示を何處までも有意義に役立てねばならぬ。殊に、是に負ふ處多かりし我建築界は、此の三週年に方りて、一段と懷ひを新にすべきではあるまいか。（大正十五年九月一日稿＝郊邨）



下層階級住宅政策の確立

▼偶々不良住宅整理問題の擡頭に際して

紫安新九郎

觀過を容さざる二つの問題

輓近我國に於ては都會集中の情勢益々著しく、殊に歐洲大戰中は經濟界が空前の好景氣を呈したるより其最も甚しきを見たのであるが、都會、殊に我大阪市は經濟上に於て我國の工業商業を代表する大都會であり、從て勞働者の集中せることも恐らくは全國に於て冠たるものであらうと認められる、此勞働者の生活狀態は衛生上より觀察するも其都市の繁榮に影響すること少からぬものがある、然るに此勞働者の生活狀態に就いて府市當局者に於ても相當に注意を拂ひ居ることゝは信ずるも、是と云つて擧ぐるに足るだけの施設が從來ないやうに思はれる、斯の問題は一面には都市の問題であると共に、一面には人道上の問題であると自分は信じて居る、この事由よりして自分は三四年前斯の問題に就いて自分の意見を日本建築協會發刊の「建築と社會」誌上に公にしたことがある英國なぞでは斯の住宅問題に就いて最善の努力を拂つて居るやうであるが、我國に於ては從來政府に於ても、亦大都市に於ても之に關する施設に缺けて居つたと云ふことは甚だ遺憾なことである。

自分は平素斯樣なる意見を懷いて居る、我國近年の情勢を見ると、貧富の懸隔が益々甚しくなるやうに思はれる、是は國家問題としても、社會問題としても識者の大に心を傾けな

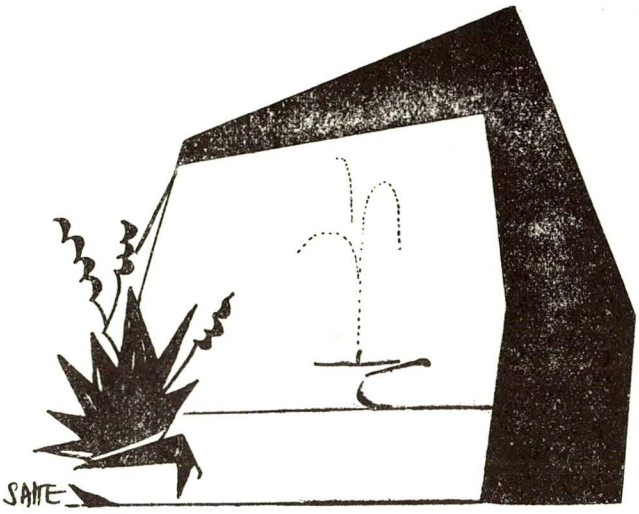
ければならぬことであつて、而も中產階級が漸次其堅實性を失ふやうに思はれる、此二つのことが特に著しく自分の眼に映ずるのであるが、前者に就いては、世の中の不安、或は社會の階級鬪爭的各種の出來事は此貧富の懸隔が益々甚しくなると云ふことに多く其端を發するやうに考へられる、又後者の中產階級が漸次堅實性を失つて來ると云ふことも政治家、宗教家を首め世の先覺者が最も注意しなければならぬことのやうに感じて居る、而して是は獨り日本のみに限つたことではないが、何れの國に於ても上層階級は多く豪奢に耽つて腐敗し易く、下層階級は其生活狀態よりして動もすれば墮落する傾向を有し、此兩者の中間に在る所謂中產階級なるものが最も堅實性を保つたものであつて、是が國家の柱石となるべきものであると自分は信じて居る、然るに此國家の柱石となるべきものが漸次其堅實性を失つて來ると云ふことは非常に虞るべきことゝ言はなければならぬ、先般英國に起つた全國總同盟罷工の如き、一時英國をして暗黑の世界とならしめた觀があり、革命以上の大事件であると思はれた、而も猶ほ其情勢が極度までに及ばずして喰ひ止め得たと云ふことは、是は確に英國に於ける中產階級が堅實なる資質を有つて居つた賜物であらうと自分には思はれる。

そこで一面には此中產階級の堅實性を益々涵養することに努むると共に、一面には下層階級の生活狀態を漸次ヨリ良く改善して、此貧富の懸隔の益々甚しくなると云ふ傾向を緩和して行くと云ふことが最も大切なことゝ思ふ、之に就いては國家の力を以て少くとも六大都市に對して下層階級に對する住宅問題の施設を爲さしめると云ふことが最も緊要なことであらうと信ずる、而して其施設を爲す負擔に就いては國と其都市が分擔すると云ふことが宜からうと思ふ。

下層階級住宅政策の先驅

要するに此下層階級の生活狀態に就いて意を用ひないと、獨り思想上に惡影響を及ぼすのみならず、衛生狀態の宜しきを得ないとよりして、流行病、傳染病等を誘發蔓延せしむると云ふやうなことが往々にして見受けられるのであるから、此施設をヨリ良くすると云ふことは經濟上より云ふも、大切なことである、殊に大阪市の如きは商工業の大都會であるが一度びペストやコレラと云ふやうなものが發生する時には商工業上に與へる打擊と云ふものは非常なものであると言はなければならぬ、從つて物質的に失ふ損害と云ふものは餘程莫大なものがあらうと思ふ。

現政府に於ても從來の當局者に比較すれば、最も斯の點に意を注いだるものと見え、當春の第五十一議會に生計調査に關する豫算を提出した、是は全體我國民は何程の經費があれば、人らしき生活を維持して行くことが出來るかと云ふことを調査するのであるし、又此次の議會に於て此住宅問題に就いて必ずや何等かの施設を爲すものと自分共は信ずる點がある、此二つの問題は現政府が銳意力を致さんとする社會政策の問題として最も見るべきものでなからうかと信じて居るのであつて、自分等不肖ながら政治家を以て自から任じ、常に民衆即ち國民多數の幸福を如何にすれば期し得るかと云ふことを心掛けて居る者から觀察すれば、此現政府の施設は確かに貧富のために共存共榮を謀るものであつて之れに對して双手を擧げて贊成したいと思ふ。



共同建築組合法案に就いて

岡崎早太郎

一　立法の目的と施行區域
二　土地區劃整理無意義の裏書
三　過小敷地の母躰は土地の公用徴收
四　都市計畫が共同建築の基調
五　立法は須らく全國を對象とせよ
附　共同建築組合法案要項

立法の目的と施行區域

今年一月―三月頃の政治季節に名題のやうな運動が勃興し可なり強烈な活動振りが續けられた。吾人亦興味を以て刮目し心私かに之が成功を期待した。しかも天の時未だ到らざりし乎、將た人の和を得ざりしと謂ふ乎、帝國議會の開會中には遂に法律案の提出すら見ることが出來ず、吾人共鳴者をして聊か拍子抜の慨なきを得ざらしめた。のみならず爾來數ヶ月の久しき間として聲なく、漫ろに提唱者の健在をさへ疑はしむるに至つたことは、誰でも冷熱その度を異にするの甚しきに驚いたであらう。さり乍ら斯かる施設が眞に時代の要求であり、その聲明が社會の輿論であつたとすれば其の原因が滅却せざる限り、自ら復活し　繼續し、遂には所期の効果を收め得べく彼岸に達する時期が到來するであらう。吾人が絕

わず其の成行に注目し、如何かして之が成立を見むと熱中する亦その必要を痛感せしが故に外ならない。然も吾人はこの運動を繼續し、そが成功を期する爲には今少しく其の對象物を擴大し、其の唱道者を增加し、更に必要の範圍と理由の闡明に努むる所なくてはならぬと思ふ。

所謂共同耐火建築奬勵運動提唱者の宣言に左の一節がある

『復興事業ノ根幹タル土地區劃整理實施ノ結果、路線ハ整理セラレルガ新タニ造成セラルベキ建築敷地中ニハ、耐火構造建物ノ建築ニ適セザル過小敷地ガ實ニ少ヶナイ。シカモ東京横濱兩市ニ於テハ既ニ防火地區ハ指定セラレ、耐火建築ハ强制セラレルコトニナツテ居ル。而シテ防火地區內ノ之等過小敷地ニ耐火建築ヲ實現セシメントスルニハ共同建築ノ方法ニ依ルノ外ハナイ。云々』

この宣言で見ると共同建築組合法施行の區域は東京横濱二市內の防火地區であり、これが制定の目的は土地區劃整理の產むだ過小建築敷地の救濟、利用に局限してある。從て東京横濱二市以外は勿論、假令二市の區域內でも防火地區以外の土地や、他の原因から出來た同樣な狀態にある土地の救濟、利用には此の良法を適用することは可能ないと謂ふことになる。要するに其の施行範圍が狹隘に失し、其の對象が單的に過ぎる觀なきを得ない。これが即ち問題であり、且つ難題であらう。

土地區劃整理無意義の裏書

元來土地區劃整理は土地の用途に從ひ其の利用を增進すべく適當な建築敷地を造成するのが唯一の目標であり、これを措て他に土地區劃整理はなき筈だ。彼の民有地一割を無償にて道路に供用せしむるが如きは建築第一主義の目的を達する手段の一種であつて、土地區劃整理本來の目的でないことは今更特に說明する迄もなき所である、即ち住居地域に在りては住宅向の家屋を建て得べく、商業地域に在りては商店用の建築を爲すに足るべく、工業地域に在りては工場的の施設に耐へ得べく、同時に各種地域內の防火地區に在りても亦その用途に相應しき、實用的にして且つ經濟的なる耐火構造の建築を造設するに支障なからしむべく建築敷地を造成し、供給しなくてはならない。これが土地區劃整理の事業であり、眼目である。然るに折角苦辛慘憺の末に行はれ、若くは今後も引續き行はれむとしつゝある土地區劃整理の施行は、民有地一割を無償にて道路敷地に供用せしむる爲に、路線の整理は出來るが、地域、地區に相當する建築敷地の造成が完全に出來ず、之が經濟的利用に付ては更に特別法の制定を要すと謂ふに至つては、所謂佛を造つて魂を入れぬと謂ふ諺と異ならない。斯くの如きは畢竟するに、土地區劃整理は民有地一割を罹災民から沒收することを企圖し、之を實行する以外には何の得る所なく、寧ろ無益有害の施爲であつたと謂ふ批難に對し、有力なる裏書を與ふる所以ではあるまい乎。

顧みれば過去に於て、將た現在に於て、特別都市計畫…復興事業…の權威と、生彩と、意義とは實に茲に存するまで唱道せられ、宣傳せられたものは土地區劃整理である。然るに其の唱道と宣傳を裏切り、剩さへ斯業の不徹底と、無意義とに對し、完膚なきまでに深刻な攻擊を加へ、遂にはこれが根底を覆さむ慨れある宣言を前提とする共同建築組合法案を突

き付け、之が提出を求むる如きは、其の理由と、動機に於て少からず無理がある。復興局の當局者が、斯かる自殺的法案の提出に躊躇逡巡する、必ずしも理由なしと謂ふことは可能ない。

過小敷地の母體は土地の公用徴收

土地區劃整理事業の産むだ過小敷地の利用と救濟を共同建築組合法制定理由の一に算ふること必ずしも不可ではあるまい。しかも唯一無二の招牌とするには物足らない觀がある。東京、横濱の二市が震災にも罹らず、既設市街内の區劃整理も行はざりし以前から耐火構造の建築に適しない小劃敷地は無數に散在したからである。否、進歩せる頭腦の所有者たる建築家は夙に茲に着眼し之が提唱を怠らなかつた事實がある『都市建築の經濟は建築それ自身と土地の經濟と相俟ちて一個の經濟をなすのである。而して建築そのものも少くとも三階以上五六階に達せざれば床坪に對しての工費を平均して低下する譯にはゆかない。又面積も地坪二百坪以上に達せざれば工費に無駄の多き憾がある』（片岡博士著現代都市の研究三三八頁―三三九頁）と謂ふ如きが夫れだ。

吾人は博士片岡氏が斯かる論斷をなしたればとて、一も二もなく之に共鳴し、一宅地面積の最低限度は斷じて二百坪を下るべからずと極論する者ではない。然も建築界に耆宿、長老を以て自ら居る同博士が斯く斷定する以上は、少くも採りて以て耐火建築物敷地の面積を定むるに方り之が標準とするに於て必ずしも二致なしとする者である。而して我國都市の宅地を通觀して所謂標準面積たる二百坪を保有するものありや如何。

吾人は不幸にして我都市の宅地の規劃と沿革とを知らない然れども其の街路割と宅地の區劃とに鑑み、豫め一定の設計を樹て、その計畫に基き市街を形成せしものなることは之を類推することが可能る。蓋し建設以來幾多の春秋を經過し、その間、自由處分に放任したる結果として、土地の區劃、形狀大に紊亂したる結果あらむも、要するに創業當時の規模小に失し、今現に其の型體を保存するものと雖も尚ほ現代建築樣式の要求に副ふものは頗る稀有なるを免れない。加之市街宅地の面積を狹小にし、その形狀を紊亂せしに付ては更に大なる原因がある。輓近社會及び經濟の進歩に伴ひ、時代の要求に因る形而下的施設の實現が夫れだ。所謂文明的施設の實現には必ず土地の公用徴收が隨伴する、即ち我法制に於て土地を收用し得る事業の種類を掲ぐれば實に左の如きものがある。（土地收用法第二條）

一　國防其ノ他軍事ニ關スル事業。
二　官廳又ハ公署建設ニ關スル事業。
三　敎育・學藝又ハ慈善ニ關スル事業。
四　鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、市場、電氣裝置、瓦斯裝置、又ハ火葬場ニ關スル事業。
五　衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防、其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國、府縣、市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業。

土地を收用し得る施設に付ては他の特別法令にも規定を存し、必ずしも上記の夫れのみではない。而して之等の施設が

都市の區域内で行はるゝときは、自由勝手に所要の地積を切取するに於て何等憚るを要しない。然も殘地の位置、形狀、面積の如何は勿論、之が利用方法の如きは毫も顧慮することを要せざる規定である。斯かる强制的處分の遺せる畸形若は不整の小地積が、全國都市の到る所に散在し、建築物敷地の構成上至大の障害を釀しつゝあるは吾人が常時目擊する事實であつて、東京、横濱二市に於ける防火地區内に在る過小敷地の如きは、眞個九牛の一毛に過ぎないではあるまい乎。然るに故らに、この小目標を擇びて、彼の大標的を無視する如きは業に既に事の本末、輕重を轉倒せる觀を免れないのである。

都市計畫が共同建築の基調

都市施設の完備が土地の公用徵收を伴ひ、公用徵收が至る所に畸形、不整の小地積を遺して、建築物敷地の構成に至大の障害を加へて停止する所なき事實は既に指摘した所である然るに今や所謂公用徵收を全國的に强制せらるゝことゝなつた。都市計畫法適用都市の指定が夫れだ。由來都市計畫法は東京、京都、大阪、横濱、神戸及び名古屋の六市を對象として制定された制度であつた。夫れが大正十二年（勅令第二七六號）に札幌市以下の二十五市を、同十三年（勅令第一三九號）に富山市を、同十四年（勅令第三二號）に佐世保市以下の十五市を、同十五年三月（勅令第一一號）に西宮戸畑の二市を加へて既に四十九の多きに達して居る。然るに更に旭川市以下二十餘市を加へむとする廟議ありと聞く。斯くて徹底的に都市計畫の執行を强制せらるゝ都市は實に七十の多きを算する日も遠くはあるまい。而して都市計畫法の要求する事業の中土地の收用を許すもの概目左の如きである。

一、道路、廣場、河川、港灣、公園（都市計畫法第十六條）

二、鐵道、軌道、運河、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠物、墓地、火葬場、塵埃燒却場（都市計畫法施行令第二十一條）

要するに單に事業の概目としては土地收用法の規定する夫れと大同小異である。否寧ろ適用範圍の狹き憾なきを得ないが而かも前者は斯かる事業執行の爲には土地の收用が可能るとの謂ふ原則を定めたのみに止まるから、必然的にその實現があるとは限らない。從て建築敷地の統一、利用の方法を講ずる必要はあつても、焦眉、頭燃の急を救ふ程度の問題でないとも謂ふことが可能る。之に反し、後者に至ては積極的に其の施設の實行を强制するが故に、事業著手に先ち建築敷地の構成及び利用を容易ならしむべく豫めその途を開き、土地所有者等に諒解せしめ置くの要がある。而して都市計畫法適用都市の大多數が第一著に手を染めむとする事業は、その總てが揃ひも揃ふて街路の新設又は擴築であるから、將來出來る街路の兩側には、彌が上にも收用殘地たる、畸形、不整の過小劃地が羅列若は點在する結果を來し、所謂路線の整理は出來ても、街路に直面する土地には耐火構造の建築はおろか、尋常普通の木造家屋すら建築不能の狀態を活現することゝならう。吾人が將に產れむとする共同建築組合法の適用區域を東京、横濱二市の防火地區内のみに局限せず、少くも都市計畫法、市街地建築物法の適用ある都市の全部ぐらい迄擴張せむと望む理由の一は、法令施行に因る產物として、近く全國的に出現せむとする、這般土地の統一、利用及び救濟を茲に求めむとする趣旨に外ならないのである。

立法は須らく全國を對象とせよ

所謂共同建築組合の提唱者は專ち東京、横濱二市の防火地區を對象とし、恰もこの二市のみが防火建築を強制せらるゝかの如く吹聽し、力說する所あるも、市街地建築物法に依り防火地區を指定せられ、耐火建築を強制せられある都市は必ずしも二市のみではない。京都、大阪、神戸及び名古屋の四市は所謂二市と相前後して防火地區が指定せられ、現に耐火建築の強制を受け、否頻りに耐火建築の實現に努めつゝあると同時に、過小劃地の不統制に苦楚を嘗めつゝある。その他都市計畫法の適用ある札幌市以下四十餘の中小都市も亦茨城縣の土浦町と共に、既に市街地建築物法適用區域として指定せられ、近く本年十月一日から其の施行を見ることゝなつた關係もあれば、防火地區の指定の如き、次で興る問題ではあるまい乎。加之未だ市街地建築物法の適用なき都市と雖も、現に都市計畫法の適用があり、又は近くその適用を受くべき關係にある都市に對し、天災地禍の防衛上市街地建築物法の適用を見るべきは事理當然の順序ではない乎。

觀じ來れば京都、大阪、神戸及び名古屋市の如きは最早問題でなく、その以下の中小都市と雖も耐火建築の必要もあり建築物敷地の統制亦等閑に附すべきでない。只二市とこれ等多數の都市とその趣を異にする點を擧ぐれば、一は癸亥の震災に遭遇せるも、他は幸に其の厄を免れた前者は震後の復興に沒頭し亦他を顧みる遑なきに反し、後者は他日の震禍襲來に處すべく、之が豫防的準備に忙殺せられて居る。二市は燒跡に規矩の井然たる市街を建設すべく土地の區劃整理を行ひつゝあるも、他の都市は燒けざるが故に之を行ふに餘地なく諸般の都市計畫事業の產むだ過小劃地の整理、統制を他に求むべく、苦心焦慮しつゝあるに止まり、耐火建築物の强制、建築物の敷地としての過小劃地に對する統制の急を要する點に於いて、大に逕庭する所なく、寧ろ比較的急を感ずる者は土地の區劃整理を行ひ得ざる後者でないかと謂ふことも可能る。

共同建築の實現に關しては吾人亦その要を痛感し、敷地の統一、資金の吸集、建築の執行、建築物の管理方法等に付考慮、研究したことは一再に止まらない。然るに圖らざりき、之が實現を企圖し、法律制定論の提唱に遭遇せしは、宛然大旱の慈雨に遭遇したる類にして、吾人は衷心よりこの提唱者に對し深甚の敬意を表する者である。さり乍ら吾人が毎時之が對象として考慮した事項は、主として土地所有者が任意になせし、分合處分が產むだ過小劃地、公用徵收から生じた不整形の殘地、その他建築に不適當な小地積の整理、統一及び利用に加ふるに、公用徵收に依り土地も家屋も收用せられ、行くに地なく、棲むに家なく、剩へ父祖傳來の營業をさへ喪失した者の救濟を以てした。而して所謂震災跡地に行ふた土地區劃整理から來た過小劃地の如きは夢想にだも爲さなかつた。勿論這般の過小劃地の出來も、要するに多數の土地所有者、借地權者等に對し、公平に土地の分配を敢行した結果であつて、特別の必要に因り、故意に過小敷地を造成した所以ではないから、之を糾合して共同建築を爲さしむるは土地區劃整理の目的に背く譯ではあるまい。從てこれ等の土地を統一して、共同建築を爲さしむる亦都市の復興上、なさねばな

らぬ重要事業の一であらう。或はこの新事實を提げ、これを標題として宣傳し、依て舊來の主張に乘り換え、以て新しきを好む天下の好奇心に投ずる亦好個の一策かも知れない。而かも一面に於て當然、偉大なるべき對象を貧弱ならしむる嫌があり、同時に土地區劃整理の無意義、不徹底てふ、隱れたる缺陷を曝露する導火線となる危險も免れない。これ吾人が斯かる權道を以てせむことを躊躇する所以である。

冀くば建築學會と云はず、市政調査會と云はず、苟も都市の建築改善に意を留むる上は、所謂共同建築組合法制定の目的と、適用區域に關し、更に吾人の所見を斟酌し、再度の考慮を拂はれむことを。茲に兩會協同の成案に對し、聊か卑見を附して高教を仰ぐと云爾。

大正十五年六月二十七日稿

(附)共同建築組合法案要項(讀者の記憶を新にする爲特に全文を掲ぐ)

第一、本法ニ於テ借地權ト稱スルハ借地法ニ於ケル借地權ヲ謂フ ‖原案‖(原案。東京市政調査會及建築學會の成案)

第二、本法ニ於テ土地ノ使用權ト稱スルハ土地ノ所有權ニシテ更ニ借地權ノ設定ナキモノヲ謂ヒ、借地權ニ付更ニ借地權ノ設定アル場合ニ於テハ最終ノ借地權ヲ謂フ ‖原案‖

第三、井同建築組合ハ法人トス ‖原案‖

第四、都市計畫區域内ノ一圍ノ土地ノ使用權者共同シテ耐火構造ノ建物ヲ建築スル場合ニ於テハ該土地ノ使用權者ハ本法ニ依リ共同建築組合ヲ作ルコトヲ得 ‖變更‖

前項一圍ノ土地ノ使用權カ都市計畫區域外ニ亘ル場合其ノ部分ヲ包含スルコトヲ適當トスルトキハ之ヲ編入スルコトヲ得 ‖變更‖

前項ノ場合借地權ハ都市計畫區域内借地權ト看做ス(附 一參照) ‖變更‖

第五、第四ノ使用權者ノ土地ニ接續シタル土地ノ使用權者其ノ土地ニ單獨ニテ耐火構造ノ建物ヲ建築スルコトヲ著シク不適當トスルトキハ共同建築組合ノ設立ニ加入スルコトヲ得、前記土地カ都市計畫區域外ニ亘ル場合亦同シ ‖變更‖

都市計畫事業ノ執行ニ因リ第四ノ使用權者ノ土地ノ附近ニ於テ土地又ハ土地ノ使用權ヲ收用セラレタル者ハ現ニ土地ノ使用權ヲ有セスト雖モ其ノ收用ニ因リ取得シタル補償金ノ全部ヲ提供シテ組合ノ設立ニ加入スルコトヲ得 ‖新案‖

前二項ノ場合ノ加入ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス ‖變更‖

第六、組合ノ建築スヘキ建物ノ敷地ニ編入スルニ非サレハ共同シテ建物ヲ建築スルニ著シク不適當ナル土地ニ付使用權ヲ有スル者ハ組合ノ設立ニ加入スルコトヲ要ス、但シ組合ノ設立ニ加入スルコトニ因リテ其ノ使用權者ノ利益カ不當ニ害セラルヘキトキハ此ノ限ニ在ラス ‖原案‖

第七、第六ノ場合組合ニ加入スルコトヲ欲セサル土地所有權者ハ設立組合又ハ組合員タルヘキ者ニ對シ土地所有權ヲ移轉シ又ハ借地權ヲ設定シテ組合ノ設立ニ加入セサルコトヲ得 ‖原案‖

組合ニ加入スルコトヲ欲セサル借地權者ハ設立組合又ハ組合員タルヘキ者ニ對シ借地權ヲ讓渡シテ組合ノ設立ニ加入セサルコトヲ得 ‖原案‖

前二項ノ場合ニ於テ設立組合ハ買取義務ヲ負擔ス ‖原案‖

第八、組合成立スルトキハ從來組合員ノ有スル借地權ハ組合之ヲ取得ス、第五ノ第二項ニ依リ提供シタル金錢ニ付亦同シ ‖追加‖

組合員土地所有者ナルトキハ耐火構造ノ建物ノ所有ヲ目的トシテ組合ニ對シ借地權ヲ設定シタルモノト看做ス ‖原案‖

第九、第八ニ依リ組合ノ取得スル借地權及金錢ハ當該組合員(第二項ノ場合ハ土地所有者)ノ出資ト看做ス ‖變更‖

第十、組合カ組合員ノ有スル借地權ヲ取得シタルトキハ其ノ借地權ノ存續期間ハ總テ組合設立ノ日ヨリ三十年トス ‖原案‖

第十一、借地權者組合ニ加入スル場合ハ土地所有者ノ承諾ヲ要セス但シ之ニ通知スルコトヲ要ス（借地權者カ更ニ借地權ヲ設定シタル場合ハ後ノ借地權者ハ先ノ借地權者ニ、先ノ借地權者ハ土地所有者ニ通知スルヲ要ス） ‖原案‖

第十二、土地所有者ハ賃貸借ノ登記ヲ爲ササル場合ト雖モ最後ノ五年分ノ借賃ニ付總テノ權利ニ優先シテ組合ノ建物ノ上ニ先取特權ヲ有ス ‖原案‖

第十三、組合ノ建築シタル建物ニ付組合員ノ使用シ得ヘキ部分ノ割當及其ノ條件ハ組合員ノ出資ニ應シ當該組合員ノ希望及從來組合員ノ有シタル土地又ハ借地ノ位置ヲ參酌シテ之ヲ定ム ‖原案‖

第十四、組合員ハ其ノ使用シ得ヘキ建物又ハ建物ノ部分ヲ賃貸スルコトヲ得 ‖原案‖

第十五、組合ノ建築スヘキ建物ノ敷地ト爲ルヘキ土地ニ存スル建物ノ賃貸人ハ其ノ賃貸借ニ期間ノ定アル場合ト雖モ借家法第三條ノ規定ニ依リ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得 ‖原案‖

第十六、組合カ建物ヲ建築スル爲現ニ存スル建物ヲ除却シタル場合ニ於テ其ノ建物ノ借主ハ他ノ者ニ優先シテ組合ノ建築シタル建物ノ一部ヲ賃借スルコトヲ得、但シ賃借スルコトヲ得ヘキ部分ハ貸主タリシ組合員ノ使用シ得ヘキ建物ノ部分トス ‖原案‖

前項ノ場合賃借人ハ當該組合員ニ對シ賃借ノ申出ヲナスコトヲ要ス ‖原案‖

前項ノ申出ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス ‖原案‖

第十七、建物除却ノ爲建物所有者及借主ノ受クヘキ損害ハ組合ニ於テ負擔スルコトヲ要ス ‖原案‖

第十八、組合員死亡シタルトキハ其ノ相續人之ニ代リテ組合員トナル ‖原案‖

組合員ハ禁治產ノ宣告ヲ受クルモ之ニ因リテ組合ヲ脫退セス ‖原案‖

第十九、組合員ノ責任ハ有限トス ‖原案‖

第二十、組合員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合ハ該組合員ニ對シ其ノ持分ヲ組合ニ讓渡スヘキコトヲ請求スルコトヲ得 ‖原案‖

（一）出資拂込ノ義務ヲ怠リタルトキ

（二）組合ノ定ムル建物使用條件ニ違反シタルトキ

前項請求アリタル場合該組合員ハ其ノ持分讓渡ノ義務ヲ負擔ス ‖原案‖

第二十一、組合員其ノ持分ヲ喪失シタルトキハ組合ヲ脫退ス ‖原案‖

第二十二、組合員出資拂込ノ完了前組合ヨリ建物又ハ建物ノ部分ノ所有權テ讓受ケタルトキハ組合ハ組合員ヲシテ未拂込出資金額ニ付其ノ所有權ノ上ニ抵當權ヲ設定セシムルコトヲ得、但シ組合員ハ他ノ抵當物件ヲ提供スルコトニ依リテ前記抵當權ノ設定ヲ免ルルコトヲ得 ‖原案‖

第二十三、組合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ市長ニ建物ノ建築其ノ他組合事務ノ執行ヲ委託スルコトヲ得 ‖新案‖

第二十四、內務大臣必要アリト認ムルトキハ市街地建築物法第十三條ノ規定ニ依リ指定セラレタル防火地區內ノ土地又ハ之ニ接續スル一定ノ土地ヲ指定シ本法ノ規定ニ依リ組合ヲ設立シ耐火構造ノ建物ノ建築ヲ土地使用權者ニ命スルコトヲ得 ‖新案‖

前項ノ場合ニ於テ土地使用權者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ內務大臣ハ都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ市長ヲシテ土地使用權者ニ代ハリ組合ノ設立、建物ノ建築其ノ他組合ノ事務ヲ執行セシムルコトヲ得 ‖新案‖

第二十五、第二十三、及第二十四ノ規定ニ依リ要スル費用ハ組合ノ

負擔トス ‖新案‖

第二十六、組合ト組合員トノ間ニ於ケル建物其ノ用地ノ移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス ‖原案‖

第二十七、本法ノ實施ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム ‖原案‖

第二十八、本法施行ノ期日及區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム ‖原案‖

附一、都市計畫區域內ノ土地ニ付契約ヲ以テ設定セラレタル借地權ハ左ノ各號ニ該當スル場合ト雖モ其ノ期間ハ耐火構造ノ建物ヲ建築シタルトキヨリ三十年ト看做スヘキコト、但シ借地權ノ殘存期間之ヨリ長キトキハ其ノ期間ニ依ルコト ‖變更‖

(一)堅固ノ建物以外ノ建物ノ所有ヲ目的トスルトキ

(二)建物ノ種類及構造ヲ定メサルトキ

前項ノ場合ニ於テ地代又ハ借賃カ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス借地契約當事者ハ契約條件ノ變更ヲ請求スルコトヲ得ヘキコト

‖原 案‖

附二、共同建築組合法ニ依ル共同建築組合ノ設立維持、解散ニ關シ當事者間ノ爭ヲ調停スル爲調停機關ヲ設置スヘキコト ‖原案‖

主婦の氣轉で
涼しい窓掛け
ごく經濟に出來る

レースは舶來物の方が喜ばれ、英國の物が今我國には澤山來て居ります、幅は三四尺で、ヤール八九十錢から三圓位迄あります、一寸變つた物としては、ウールレースと云つて、細い毛絲を織込んだ物、ヤール六七圓から十圓位、マトラスレースと云つて、赤や青や色々な色で模樣を織出した物がありますが、これは洗濯がきかず、保ちがよくありません

又昨年頃より色變りのレースが、ぽつ〳〵流行し出して來ました、これは春、夏、秋と使はれまして、汚れ目がたちません、値段は一ヤール一圓六十錢位です、白いレースは稍あかれ氣味かと思はれますが、何といつても夏は矢張り白い方が涼味があります、部屋の壁が無地か、縞ならばレースは模樣物、反對に壁が模樣ならレースは縞物を選びます

一體窓掛は、ブラインドを取付け、それからレースをかけ、更に厚地のカーテンをかけるのが本來で、夏になつても非常に立派な物ですと其の儘置いてもよいのですが、さう云ふ時にはレースは細い柄の物を使ひ、夏になつて涼味を求める爲に厚いカーテンを取る樣な時は荒い華やかな模樣の物をつけます

絹紬や、ふじ絹は日本製の物でヤール一圓五六十錢位ちぢみ等も此頃では內地で舶來品に劣らぬ樣な物が出來ます、ヤール四十錢もすれば可成りな品が求められ、洗濯もきゝますし、隨分德用です

むづかしいお客間等はさて置いて、居間や食堂等ならば、かふ云ふ物は必ず專門家の手にまかせなければならないと云ふ譯の部ではないのですから、少し家庭の婦人達が手と頭と働かせたら、隨分經濟にかへつ趣のある面白い物を得る事が出來るだらうと思はれます(山本汐太郎氏)



觀て來た歐米都市

木南正宜

一

歐羅巴に於て、一定の計畫の下に都市の建設をして行かなければならぬと云ふことに眼醒めて來たのは、大分以前のことで、既に十九世紀の中頃からさう云ふ傾向が著しくなつて來たやうに思はれる、從て歐羅巴の各都市、或は英吉利のシティ・オブ・ロンドンの如き、或は獨逸のアルト・ベルリンの如き、其他二流三流の都市に於ても其中核になる所には道路の狹い古い部分が殘つて居るのが常態のやうであるが、それは都市全體としては極く一小部分に過ぎないのであつて、産業革命以後發達した都市の大部分は何れも一定の計畫に依て築き上げられて居るやうに思はれる、特に其點に就いて整然とやつて居るのは獨逸の各都市である、即ち伯林を首め、ドレスデン、ミュンヘンの如きは都市として最も良く出來て居るものゝやうに思ふ。

又亞米利加は其都市の發生の當時より既に一定の計畫の下に都市の建設をしなければならぬと云ふ自覺が出來て居て、造られたものが多いから、其中核の部分と雖も餘り不規則な場所は無く、全體の市街が幾何學的に出來上つて居つて、道路も規則正しく相當な幅員を有つて居る、而して其中央に在る所謂ビジネス・クオーターは無暗矢鱈に家が高い、紐育のダウン・タウンのビジネス・クオーターでは高いのになると、五十八階もあつて、二十階三十階と云ふやうなのはザラにある譯である、エクキタブル・ビルデイングと云ふ一つの建物には日々二萬人の事務員が入り込んで仕事をして居る、斯の如く多數の人を收容する高層建築がズラッと道路の兩側に建ち並

んで居るが爲に、相當な幅員を有つて、相當規則正しく出來た道路であるけれども、近來交通が非常に繁激になつて、大變困つて居るやうな狀態である、最近の狀況では斯樣な大都會に於ては二重道路を造らうと云ふ計畫があるらしい、市俄古の一部分や、紐育の中央ステーション前の道路なぞは既にさう云ふ風になつて居る　元々相當な計畫の下に出來て居るのであるけれども、時代の變遷に依て、自動車等の交通が頻繁になつて來た爲に、さう云ふ新しい計畫を附加へなければならぬことになつて來たものと思はれる、又華盛頓は商工業は餘り盛な所ではないが、都市の構造としては恐らく世界一であらうと思ふ、道路は規則正しく、幅員も相當あつて、基礎工事も良く出來て居るし、立派な官公署の建物が澤山にあり、住宅區域も非常に整然として居て、立派な公園が多い、而も道路の兩側に植えられた並木が大變能く發育して、恰も森の中に非常に整然とした市街が打立てられて居ると云ふやうな觀がある、尙ほ都會生活の面白く出來るものとしてはロスアンゼルスの如きも其一つであらう、是亦亞米利が一流のやり方で、ゼネス・クオーターは家を高くして、比較的範圍が狹く、其周圍に公官地域とか、住宅地域等を適當に配置して居る、其住宅地域は非常に廣大なもので、家はバンガロー式のものが多いが、二十坪か三十坪位の平屋建の家には必ず百坪內外の敷地が附て居て、家の周圍は一帶に綺麗な芝生で其處には盛り上る程色々な草花を咲して居ると云ふ風に實に心持好く出來て居る、其中でも特に活動寫眞で有名なハリウッドとか、或は亞米利加の富豪連中の集るバッサデナと云ふやうな所は、洵に天國を想はせるやうなものがある、從て人口に比較して住宅區域が非常に廣い、是は一つは土地が廉いと云ふやうな關係もあらうと思ふ。

二

獨逸の各都市は家の高さは都市に依て四階標準の所もあれば、五階標準の所もあるが、四階標準の都市では中央の商業區域から周圍の住宅區域も總て四階で、住宅區域の方は皆所謂アッパートメントハウスになつて居る、斯の如く獨逸の成熟した市街地に於ては四階統制の所では何處までも四階、五階統制の所では何處までも五階と云ふ風に頗る規則正しいものがある、而もさう云ふ成熟した都市に於ては各家に大きな庭園を有つて居ない代りに、公園とか廣場と云ふものが非常に發達して居るし、何處へ行つても、街路樹が整然として立並んで居る、又獨逸の戰後の傾向として、各都市に於ける郊外の森の中などに田園都市風のものを建てるものが近來益々多くなつて來たやうである。

尙ほスカンジナビヤ諸國、即ち瑞典、諾威、丁抹と云ふやうな所は先づ大體に於て獨逸風の都市計畫法を學んで居るらしい。

そこで是等の諸都市と大阪の現狀とを比較して見ると、洵にどうもお話にならぬ程の相違がある、第一家屋が一般に貧弱であるし、道路は狹く、殊に周圍部に於ては甚だ不規則である、先づ以て之を改めて行かなければならぬ、尤も大阪市に於ても中央部には近來どちらかと云へば亞米利加風の高層建築が大分建てられるやうであるから、ビジネス、クオーターは漸次改良され、道路も都市計畫で彼方此方に大道路を開

整して居て、是も今後十年十五年と經過する中には大分面目を改めるだらうし、又周圍の住宅區域も追々改善されて行くであらうが、あのロスアンゼルスや、ワシントン、シカゴと云ふやうな亞米利加の都市に於けるが如き寬つたりした屋敷地は迚も現在の成熟した市内では取り得ない、從て此成熟して居る市内では今後とも商工業にウント腰を入れるやうにして、新市街の方で、目下區劃整理組合などが發達して、各方面に於て土地の區劃整理をやつて居るやうであるが、さう云ふ場合に出來るだけ屋敷地を廣く取つて、各人が成べく裕りのある生活を爲し得るやうに心掛け、區劃整理でもすれば、出來るだけ速く樹木を植え付けると云ふやうなことに努力して貰ひたい、即ち各國の例を見ても、郊外地の區劃整理をする上に於て出來るだけ道路を廣く取ると云ふことは、其方面の住宅區域として永遠の發達を期する爲には非常に有利なことであつて、道路を廣く取り、樹木を多く植え込んで、靑味を有たせると云ふことは即ち郊外地經營の第一の要諦であらうと思ふ。

三

更に建築の問題に就いて氣に掛かる事は、日本の都市に於て、或は大阪の如き何十萬と云ふ木造家屋が建ち込んで居ることである、尤も亞米利加のロスアンゼルス邊りにもバンガロー式の木造家屋は隨分多いやうてあるが、是等は前述の通り相當廣い空地を有し、互に間隔を置いて建て居るのであるから、火災などの場合にも餘程危險が少い、大阪の如きは之に反して木造の家屋がミッシリ建て込んで居るのであるから火災などに對して非常に危險を感ずる、さう云ふ例は大正十二年の關東の大震火災に於て明に示して居る、是は地震國であるとか、ないとか云ふことは別問題として、兎も角一つの都會にあゝ云ふ大きな火事が起り、十何萬と云ふ多數の人が一時に死ぬと云ふやうなことは、世界の何れの國に行つても他に有り得べからざる事であつて、全く日本特有の現象と云はなければならぬ、而も將來是が國防上に及ぼす影響を考へると、實に戰慄すべきものがある、今後の戰爭は飛行機飛行船を中心機能として、陸海軍の如きは寧ろ此飛行隊の活動に根據地を與へ、便宜を供すると云ふ程の役目を果すに過ぎないのであつて、主として飛行隊に依て戰はれるやうなことになつて行くのでないかと思ふ、さう云ふ風になつて來る場合に、東京とか大阪と云ふ日本の大都會が現在のやうな可燃性の狀態で在ると云ふことは甚だ危險なことであつて、國防上から云ふと、飛行機の發達の爲に日本の國は非常に弱くなつたものと云はなければならぬ、幸に今の所他國から攻め込まれるやうな大きな戰さがないから可いやうなものゝ、今後日本が何處かの國と戰ひを交へなければならぬと云ふやうな立場になつた時には、必ず飛行機に依て大都市を襲擊され、大阪とか東京と云ふやうな所が容易に燒き拂はれるであらうことは想像するまでもない、さうなつたならば、此兩大都市は先年の東京の大震災の場合に於けるが如く、尙ほそれ以上の大混亂に陷つて、戰爭も何も續けて行かれるものでない。仍ち是等のことは日常の火災の場合も考へなければならぬことであるが、更に國防上から餘程重要視しなければならぬことであつて、今後大都會に於ける密集區域の建物が改築され、

新築されると云ふやうな場合には必ず不燃質的のものにしなければならぬと云ふことの法律は今からこしらへて置く必要があらうと思ふ、尤も都市計畫の方でも防火地帶と云ふものはあるけれども、あんなものでは飛行機の襲撃などに對して迚も都市の安寧と云ふものを維持することは出來ない、又郊外地で、木造家屋を許して、住宅地を經營すると云ふ場合にも相當に家と家との間隔を保たしめなければならぬ、若し相當の間隔を保たしめないやうな時は是亦不燃質のものにしなければならぬと云ふやうな制度は今から設けて置く必要があるのでないか、是等は經濟上非常に重大な問題で、迚も一朝一夕に出來ることではないのであるから、一日も速くさう云ふ制度を布いて、實行して行くと云ふことになれば、十年經てば十年だけ、二十年經てば二十年だけ、漸次都市の硬度は增大して行く譯であつて、五十年、百年の後には歐米各國の都市に匹敵するやうなものが出來上ることになるのではないかと思ふ、現在のやうな都市の狀態では外國から襲撃を受けるやうな戰爭は日本としてどうしても出來ぬ立場に在るのであつて、國防上の見地から非常に寒心に堪へぬ次第であると考へて居る。

建築創造時代

◎今日は歐米崇拜時代から目醒めて、あらゆる方面に日本獨特のものを創造しなければならぬ時代となつて來た、從つて建築方面に於ても、日本固有の建築樣式の發展せしめなければならぬといふ問題が生じて來た。然しながら火に燒けず、地震に耐へ、且つ昔ながらの古雅な建築をなすことは實際に於て甚だ困難である、何となれば形と材料とは離るべからざる關係を有するからだ。

◎日本古來の建築は木材によつて發達し、歐米のそれは石材煉瓦によつて發展して來た材料が異なれば形も變る筈である、故に木材以外の材料を以て木造に似はしき形を造ることは無理な注文である。例へば歌舞伎座の如き、鐵筋コンクリートを以て御殿式建築をなしてゐるが、それは丁度衣冠束帶を造るに生絹を以てせず、羅紗を以てするのと同じ理である。

◎今日東京市街では石材か鐵筋でなくては許されぬ、然るに一方ではいつまでも歐米の眞似をしてはゐられない從つて不燃性の材料で日本の獨特新しい建築を創造しなければならぬ。即ち日本の氣候、風土、生活、經濟、傳統、趣味に立脚した建築を創造しなければならぬ。これはわが國民の一大試練であると思ふ。（伊東忠太博士）



改造途上の我建築

甲斐逸士

餡入り建築

近來大阪の都市計畫も段々進んで來て、軒切や道路の擴築橋梁の架替へなども大方行はれ、最近には西成大橋のやうな立派なコンクリートの橋も出來上り、建築の方面に於ても可なり高層なものが建つて行くやうであるが、大阪の玄關先なる梅田附近や、殊に今度の御堂筋になる大阪では最も幅の廣い道路の兩側に現在出來て居る建物を見ると、中には鐵筋コンクリートのものもあるけれども、在來の日本の塗屋を銅板で包んだやうなものが多い、あの邊は即ち甲種防火地區であるから、是非純然たる耐火構造のものにしなくちやならぬ筈であるのに、あんなものを殘して置くのはどうしたものであらう、當局者がもつと嚴重に取締り、大阪の玄關先として恥しくないやうな建物を建てさせるのが至當でないかと私共は考へる、どうしてあんなものを殘して置くことを許したのか甚だ疑問になる、尤も鐵筋コンクリートと云つても、そこらに出來て居るものは餘り良いものはなく、非常に貧弱なものが多いから、恰好の上から云へば、そんな貧弱な鐵筋コンクリートのものより或は勝しであるかも知れないが、都市の防火と云ふ意味からは甚だ危なかしいものである、早晩あゝ云ふものは取除けて、純然たる耐火構造のものに直すやうな命令を發したら可からうと思ふ。

のみならず、道路や橋梁のやうなものは段々立派になつて來るけれども、建築の方の進歩はなか〳〵思ふやうに行かないやうに思はれる、第一形の方から云つて、日本の建物は矢張り日本の習慣とか風俗、或は嗜好と云ふやうなものに適したものでなければ可けないと思ふのであるが、形の上から云つても、趣味の上から云つても、どうも日本に適當して居らぬやうに思ふ、是等ももつと多く日本趣味を入れた形にしたら可くはないか、日本趣味と云つても、單に形ばかりでなく

色のことも考へなければならぬし、日本の非常に濕氣が多く雨の多いと云ふやうな點も慮つてやらないと、薄つぺらな鐵筋コンクリートの壁だけではさう云ふものは防ぐことが出來ない、加之溫度の調節と云ふやうなことから云つても、薄つぺらなものでは冬は寒く、夏は暑くて困る、と云ふやうな關係もあるし、構造の方からも餘程考へて掛からぬと、將來非常な悔を建築の上に遺すことになる、地震の方から云へば、檐の無い、即ち頭の無い建物は非常に有利な譯であるけれども、併し雨を防ぐと云ふ、約り上から入つて來る水氣を防ぐには、どうしても軒の出て居るのが可い、若し軒を出さなければ、兎に角壁から水が通らないやうに、壁をウンと厚くして、中にホロタイルでも積むと云ふやうな方法を講じなければ可けない、而も經費の關係からかも知らぬが、さう云ふ方法を講じて居る建物が非常に少い、殊に乙種防火地區邊りに出來る木造でペニや煉瓦を貼り付けたやうな建物は、モルタルとか、タイルとか云ふものから、內部へ浸み込む濕氣を防ぐ爲のマルソイドや、アスファルトフェルト、或はビルデイングペーパーと云ふやうなものを柱の底へ貼り付けるとか云ふやうなことをやつたものが甚だ少い、西洋などは日本と違つて、空氣が非常に乾いて居るから、日本に比べて、濕氣を防ぐと云ふことにはさう重きを置かぬでも可いのに拘はらずそれに就いて非常に入念にやつて居つて、日本では比較的さう云ふ事を等閑に附して居ると云ふやうなことも大に考へなくちやならぬことだらうと思ふ、尙ほ形の方から云つて、日本趣味を入れると云ふやうなことはなか〳〵難かしいことで一朝一夕に出來ないかも知れないが、今日では唯西洋の眞似ばかりして居るので、別に是と云ふ獨得な日本式のものは出來て居ない、それは本當の或一つのスタイルが成立つと云ふのには、矢張り天才と云ふやうなものが出て來なければ現實にならないのであらうけれども、併し又不斷の研究と云ふものがなければ、其天才なるものも出て來ないであらう、仍ち上に立つ相當な建築家乃至大學や高等工業とか云ふ方面の先生達が後進の者若くは生徒に對して常にさう云ふ氣分を鼓吹し、成べくさう云ふ方面に新しい建築家を導いて行くことに努めて居たならば、その中には段々研究を重ね、一步々々進んで行つて、遂には天才を俟たず、そこに自から何等か一つの纏つたものが出來上つて來るのでないかと思はれる。

どこまで立ち上る？

住宅などでは公共的の建物と異ひ、殊に日本の風土に適當したものが必要であつて、在來の日本建築は長年の經驗に依り、殊に日本の如き濕氣の多い場所に適當したやうに相當考へられて出來て居るけれども、近頃造られる文化住宅なるものはさう云ふ點を餘り考慮して居ない、さうかと云つて、在來の疊式の部屋で我々が將來長く辛抱が出來るかと云ふと、自分の考では、是はどうしても漸次腰掛式に變つて行かなければならぬのであらうと思ふ、即ち疊の上に居れば、自然ゴロ〳〵寢ころんだり、胡座をかいたりして、總ての動作が非常に緩漫になるが、腰掛式にすれば、何をするにも敏活になり、衛生上此方が良いことも言ふまでもない、さう云ふやうな點から考へて、早晩腰掛式になるのが當然であるけれども偖て腰掛式にすると、從來の日本流に一つの部屋を色々な目

的に兼用すると云ふことが一寸考へたのでは難かしい、と云つて、西洋流其儘では日本の今日の經濟狀態に於ては贅澤過ぎて、金持には差支なからうが、中流以下のものには向かないことになる、之をどう云ふ風にしたら可いか。抽象的には誰も皆同じやうな意見を有つて居るやうであるけれども、具體的にどう云ふ風にすれば可いかと云ふ案は從來一つも現はれて居ない、仍ち中流以下の勞働者とか知識階級の薄給者に對して如何にすれば最も經濟的な腰掛式の家を供給することが出來るかと云ふことが問題である、之に就いて自分は假に十坪位の建物であれば、先づ十疊敷位な一つの大きな部屋を造り、其周圍に三尺幅位の腰掛を置いて、其上に疊を敷き、下は板張として、其中央にテーブルを置くと云ふやうなことにすれば、それが居間ともなり、食堂にもなれば、客間にもなり、寢室にもなる、即ち疊敷の周圍の腰掛は其上に蒲團を敷けば寢臺になるし、中央のテーブルは接客用にもなり、食卓ともなれば、事務用にもなる、そして冬は何處か一隅にストーブでも置けば、煖を取ることも出來る、又斯やうに一つ部屋で足ることになれば、自然風通しも良く出來るし、光線も能く取入れることが出來て、衞生上にも相當良いものが出來る譯である、新うして總てに兼用する部屋を一つ造れば、あとは臺所に風呂場、押入、便所と云ふやうなものを適當に配置すれば可いのでないかと思ふ。

複雜から單純へ

斯う云ふ場合に屢々起る問題は疊のことであるが、是は非常に便利なもので　自分としては恐らく永久日本に於ては廢たらないものでないかと思ふ、即ち前述の案も此疊を活用する一案であるが、夏など青疊の上に浴衣でも着て引繰返つて居る味は實に何とも言へぬ快いもので、殊に中流以上の家庭で相當の庭でもあつて、椽側の付いた日本座敷の中に坐つて居ると、恰も其美しい庭の中に坐つて居るやうな感じがあつて、そこらの味は迚も腰掛式の建物では味ひ得られない愉快さがある、從て中流以上の相當富裕な者なら、或は西洋式と日本式と兩樣の建物を造り、冬は洋館に居て、夏は日本館に居るとか、或は又相當高い位置で周圍に山でもあるやうな所であれば、下を西洋風にして、二階を疊敷にすると云ふやうなことにすれば、二階の疊の上で前述のやうな愉快を味ふことが出來やうと思ふ、併し平地であれば先づ日本館と西洋館を分けなければならぬ、兎に角そんなことも洋式の建物に日本趣味を溶し込んで行く上に必要なことでないかと思ふ。

大體西洋流の住宅は間取を日本流に餘り細かくすると、小さな家が益々コセ〳〵して、風通しも惡く、日本では不適當だと思ふ、小さな家で全然西洋流にやらうとすれば、矢張り一つの大きな部屋を以て、各種の用途に兼ね使へるやうに造るのが最も良いのでないか、例へば一つ客間を造つても、其處は單り客間となるばかりでなく、食堂にもなれば、書齋にもなり、場合に依ては、ソファのやうなものを伸ばせば、寢臺にもなると云ふ風なものを其處に置いて、成べくこま〳〵した部屋を造らないと云ふ方針にすれば、或は純西洋式でも相當快いものが出來やうと思ふ、從來出來て居る所謂文化住宅なるものが、どうもせゝこましく不愉快なのは、矢張り各用途に向つて、こま〳〵した部屋を幾つも造つて居る結果で

ないか、家が小さければ小さい程間數を減らして、出來ることなら一間にすると云ふ方針でやつて行けば、家は小さくとも、通風、採光の關係も非常に良い衛生的なものが出來やうと思ふ、約り從來は洋式の家と云へば、大きな立派なもの許りで、中流以下の者の住宅に就いて考慮をせず、又實際に建てもしなかつた結果、さう云ふ點に氣が付かないのでないか、大きい家ならば、各部屋を別々に取つた所で、間取さへ良ければ、總ての點に於て支障なく出來る譯である。

要するに日本の建築家はもつと日本特有の或ものを其プランの上からも、構造の上からも、或は形の上からも造り出すことに努めなければならぬ、無論是は從來とてもやつて居ることであるけれども、將來は益々其方面に向つて研究をすることが必要であると思ふ、從來何か新しいスタイルのものを產み出さうと云ふやうな考を有つて居る人は澤山あつて、色々努力もして居られるやうであるが、それも獨逸あたりのセセッションと云ふやうなものが基礎になり、唯其模倣をして居ると云ふだけのことで、一向新味のあるものではない、さう云ふことでは到底何等の發見は出來ないと思ふ。

茶の間の裝飾

周圍や內部の

いろ〳〵の註文

○

茶の間の小壁に押入れをつくることがあるが、便利な樣であまりいゝものでない。第一出し入れに一々踏臺が要るし、下積になつたものを取り出すのが厄介である。普通この中に入れるやうなものは、滅多に用の無いやうなものが多く、何を入れたか仕舞には忘れるやうなことさへあつて、此の押入れがなければ、棄てるなり賣り拂ふなりして處分するやうなものを仕舞ひ込む場合が多いからである。

○

茶の間に長押があると大變に便利である。茶の間の鴨居などに釘を打ち散らすのは不愉快である。

○

茶の間には電燈の外に目立たないところに瓦斯を用意して置くと便利である。停電の折に瓦斯燈が役立つて、至極重寶である。

○

電氣アイロン、電氣スタンド等のために、特にコンセントを適當な位置に設けて置くと便利である。スタンドは子供が勉强する時に與へたい。

○

茶の間の裝飾は、實用的で出來る丈けあつさりとしたいものである。

茶の間の疊を廢して、床を板張りにしたりコルクを張つたりすることがある。第一疊よりに確かに清潔であるが、この場合には椅子式が最も適してゐる。茶の間は所謂食堂ではないのであるから、一方居間としての使ひ途を忘れてはならない。單に食事のみをとる部屋は、最早茶の間ではない。

○

茶の間に普通置くものに長火鉢、茶簞笥、食卓、時計などがある。決して上等なものである必要はないが、茶の間の生要な裝飾となるものであるから、餘り變なものは考へ物である。電燈の笠も同樣である。

ラヂオを客間に備へつける家があるが、來客に聞かせるためでなければ、是非とも茶の間に置き度いものである。

まだ茶の間について書き度いことがないでもないが、紙面がないのでこれ位にして置こうと思ふ、これを要するに、茶の間の向きを選んで、夏は涼しく冬暖かに、明るく便利に設計さへして置いたならば、一家のまどゐにはこれ位重寶な部屋はないと云へる。茶の間の利用が不充分で、其の有難味が解らない多くの場合は、一般に茶の間の向きが惡く、部屋が薄暗くて、夏は暑く、冬寒いものに限られる樣である。



獨墺地方の都市（二）

千九百廿六年九月初旬より行はるゝ豫定の國際住居問題及都市計畫委員會の獨、墺地方諸都市視察豫定記の中より

姪夢裏生

ミユンヘン

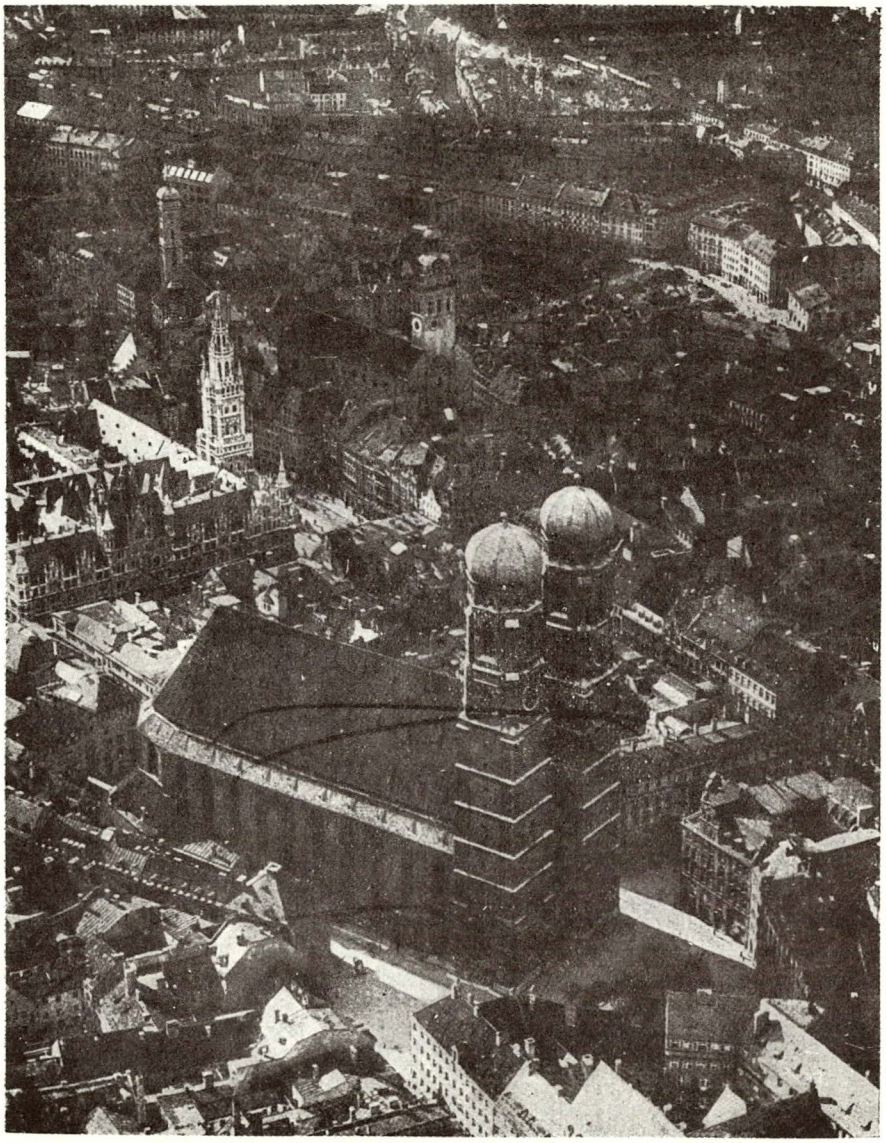
後にはミユンヘン市として發達したものゝその以前には最初小さな聚落であつて、此地に移住した Tegernsee の僧院から來た僧侶の公有の地であつた。それから Henry the Lion が Isar 河に新しい橋を掛ける樣にした當時、大取引に水路が用ひられつゝ特に鹽の運輸が盛であつた。此地はやがて Otto Von Wittelsbach の時代には一つの町を形成した。彼は千百八十年にババリアの公爵に Barbarossa によつて任せられた。そして此地を住居の地と定めたのであつた。

當時から此ゴシック都市は嚴重に木の模型に作られ、四ツの地區に分割されたことが明である。それは上記の商取引の水路と南北に直すぐに走る主要道路の交叉によつて分たれた後世に於て、古い城壁が除れ、又レネサンスのミユンヘンが盛大に趣かんとする時にも二つの路は永久に擴がり行く都市の脊骨として殘るものであつた。

邸宅の偉大な建築は、美しい彫像を以て飾られ、多くの個人の住居も單純で質實であり又すぐれたものであつた、當時を物語つてゐる。そこには又バロク時代から初められた色々の建物があるし、特にすぐれた敎會堂があり、尙良く保存されて居る。

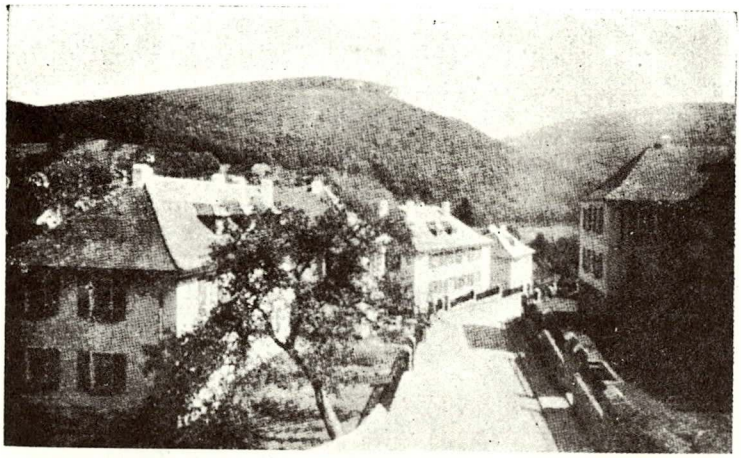
ババリアの Ludwig 一世の時代にミユンヘン市は新しい方向へ向つて進むべくその機運を待つた。希臘ローマ、或はイタリアンレネサンスの樣式によつて建築される傾向が出來て流行し、又自由な藝術的趣味によつて市の中央は建築的に記念物が形成されてその特色を見せた。

兎角してミユンヘンは大都市に發達した。而して附近の町村が同市の內に編入されてから總面積は一二〇〇〇ヘクタアレスになつた。アメリカ人 Thompson, 後に Count Rumford によつて建てられた平面計畫によ——"English Garden"は建設當時から今も尙市中の內部に廣がつてゐるがミユンヘン市の發展に資する點が少くない。之は公園と市の各部の空地



ヘルキンエウラフ ンヘユミ

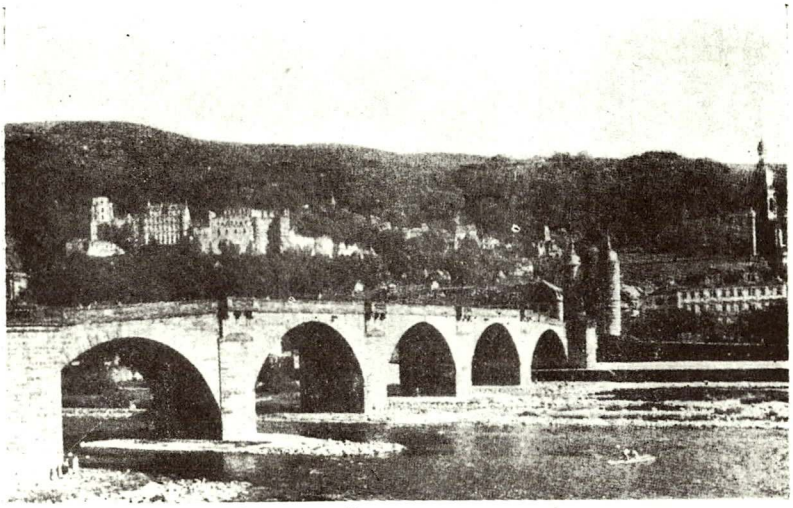
ジュヌヴィエーヴ



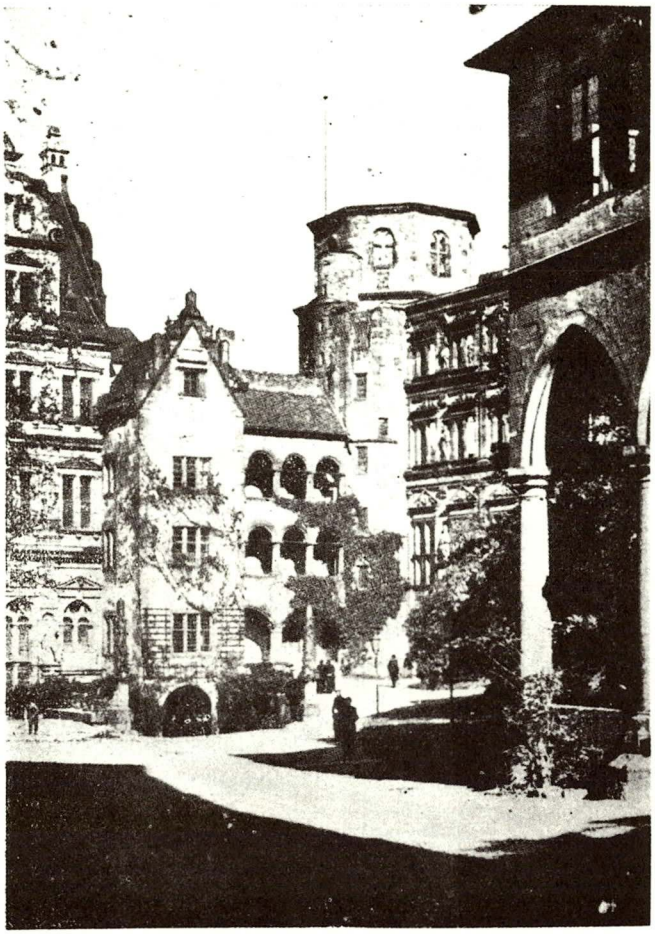
ハイデルベルヒガーデンピレーヂ



グルブスグウア



ハイデルベルヒ城への古橋



ハイデルベルヒ城

の適宜の保存をなす上から便である。

一つの特色ある外觀は市を貫くイザアル川をへり取つてのびてゐる地帶である。ミユンヘン市をとりまく森の地區は過去數年間保存し培養されたものであつて、是等と宅地を小道又は空地で連絡してゐる。住居地區はスポーツ及プレイのグラウンドの設備が出來てゐる。

此市に於ては工業的活動は北及西北の地域にのみ限定される方針を取つた。南部は全く住居地域に當てられた。地帶計畫は九つの地帶を定めて建物の高さ及空地に就て規定し、尙特別法が特に安價な街の構造に對して定められた。而して大動脈をなす幹線道路が近くと遠い市の外周とを結びつけてゐる。

ミユンヘン市は他の普通の大都市の樣な發展の仕方を目的としない、そして南部獨逸の美しい市として固有の特色をどこ迄も保たしめんとしてゐる。二つの塔のある敎會堂（Frauenkirche）の尊い建物は常に市の上に君臨してゐる。ミユンヘンの古い時代からその會堂は、今日の擴張された市の建物の上に遙に高く建てゐる。

アウクスブルグ

アウグスブルグは正にブラウドの過去を持つてゐる。羅馬時代にアウグスタ、ヴインデリコラム（Augusta Vindelicorum）の名の許に建設された地で僧正職の早くからの住地であつた而して一八〇六年自由市となつた。中世紀時代に於ては獨逸の知的、藝術的、或は政治的生活の中心地であつた、そしてその輝しい時代からずつとその特色を變へずに保つてゐる。殆ど盡くる事なき建築、古彫刻、繪畫の紀念物の寶庫はアウグスブルグをして非常に興味あるものとする。特に記憶すべきは "Weber haus" と "Fugger haus" で驚くべきフレスコと Maximilianstraße を飾るブロンズの首像があり、又獨逸の最も美しい道の一つ、"Goldener Soal" を持つ Elias Holl によつて建てられた立派なタウンホール、等がある。Elias Holl は市の建築技師であつてアウグスブルグをして今日見るが如くなした人である。色々の建物やレストレーションを通じて、彼の手によつて此市はレネサンスの都市となつたのであつた。古の城壁と壕の大部分と四つの古い城門は市が自由市となつた時から尙殘つてゐる。茲には美術のコレクション例へば價値の多い繪畫や、美術品文獻の殘つてゐるものが多い。特に注意すべきは "Fuggerei" で最も古い獨逸の勞働者に對するハウジングの方法であるが、四百年以前に出來たものである。市の城壁、壕及よく保存された塔と門は舊市を新市の主要織物と機械工場の工業地區から引き離してゐる。

ハイデルベルヒ

此タウンは屢々詩によつて歌はれ、ネッカー河の上に位しハイデルベルヒ城によつて統制されてゐる所である。城は千三百〇三年頃有名であつたと云はれる。現時殘つてゐる部分は十四世紀から十六世紀に建つたものである。十七世紀の末に城は佛蘭西軍の爲に破壞されたが幸にして城壁は保たれ美しい廢墟の一つをなしてゐる。著名なのは大學で、世界的有名なる學府の一である

又獨逸に於て最も歷史の古いもので千三百八十六年に建て

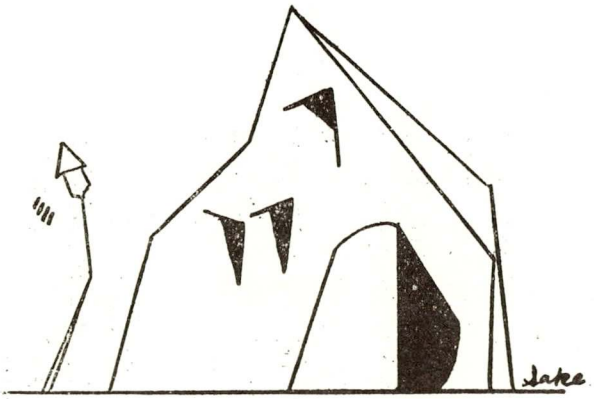
られた市及周圍の美觀は年々數千の觀客を引付けてゐる。しかし乍ら、たとへそれだけ古い建物や文化的特色を保持されても尙七萬五千の住民を有する町に成長し實に今に發達しつゝある。大戰直後ハイデルベルヒは占領された地方からの數限りない避難民の避難所となつたことがある。之が原因となつて適當なる住居供給の一大機運を作つた、大規模の住居計畫が必要に應じて初められた。市當局は家屋及土地財産の組合と同じくそれによつて立案し、又種々の聯合住居組合協會等は各々それによつて支持された。小家屋組立られた大殖民地が人民及退役者の爲に市の委員會の手で Pfaffengrund に建てられた。それは現に三六〇戸の家屋及フラットを含む之に加へて市は最近二ケ年に個人の企圖を補助すべく力を盡し、建築の目的に對し、補助金貸附をなした。

斯くして此市は偉大なる過去の上に發展の企圖の成功を見せてゐる。

住宅

住宅について色々の方面から申しますとなか〳〵複雜のものでありますから今は住宅の經濟的の方面からのべて見たいとおもひますまづこの經濟的と申しましても其の本質的の事であつて材料時間及び勞力の三つを最も經濟的に有効に活用するといふことであります。これは是非とも必要のものであつて經濟的といふのは我等人間の生活を美くかつ健實にあるやうにする事が本質であると考へるので是等の理に基いて住宅に關しては在來日本の住宅につき色々の問題はあるがそれは除外しておき人間が生活する上に極重要なことでありますからこれに向つて細心の考慮を必要とします住宅の建築については在來あつたものを修理改築するものと全然新しく建築するのと二つあり一般的には前者の方が多くて後者の方が半永久的の條件でありますが住宅内部の工夫及運轉に關する計畫につき細心の注意を考へる事であります、殊に此等は内部の計畫が完全になり行く時は向上發達しあしき場合には全く死滅するやうな事もあり最も住宅の運轉をよくし組織的にするときは大きい欠陷が在來の日本住宅にありますが住宅の一般的建築については人の働く線を繼續して動線と云ひ動く線の型及長さは日本在來の住宅では動線が長く且亂脈であり即ち日本人の生活に適せず即ち時間と勞力との徒費であります、殊に日本向きの住宅には歐米風の住宅に比較して一層其感が深い事を根本的に改革して行かないと何時迄もついて廻る例へば少し大きい家くは長い廊下があつてそれを通つて部屋々々に通じる手數がかゝるやうになり其上廣い地面を必要とし部屋の活用性を失つており即ち時間と勞力の徒費が多くあります次に今一つ例をあげて申しますと日本の居間はその組織が特別の用途がなく大體に於いて普通でありまして居間にもなり客間にも書齋にもなります寢室等にあつては床をおきさへすれば寢臺となり一口に申しますと移動的に計畫でありますこの移動的計畫には非常に細心の注意を拂つて計畫すれば眞に經濟的に活用されます。日本向きの住宅についてはこの缺陷は散漫であつて移動計畫には不愉快の多いもので不便が伴ひます、この時間と而して勞力とを適當に活用して近年歐米思想の流れ込んで地面が極度に貴重され都會地には面積の節約が流行してゐるので其の極端の一例をあげて見るときはこの傾向が著しくあります寢臺を鎖とゼンマイとに連結して天井に納めその下を晝間居間や客間になしておきます又今一つの例は部屋の隅に回轉式の臺をおいて丁度日本の廻り舞臺式でありますこれを四つに仕切つておき各々を寢室、客間、居間、臺所の四つとなしておき各道具を設置して回轉して必要に應じて適用致しておりますかゝる計畫はこの極端の一例であるけれ共、近年この移動的計畫が切りつめられて居ります、都會生活者はかくして生活の豫定を作つております部屋の内部工夫を施して行き運轉の繼續の圓滿を計ることは移動的に伴ふ安定であります、次に日本の居間にある障子、襖は自由に取外して一つの移動的に必要であります。この障子襖は今から八百年前に出された生活形式の漸次完成して傳つてゐるものでありますその時代の場所や時間と勞力とを今日の狀態にくらべると全然別の世界でありますたゞ生活形式の一つであり從つて經濟上の問題ではありませんこれは今日時代の生活に矛盾してゐるものと考へるものであります。

（武野藤吉氏講話の一節）



五十年前の米國建築界（一）

葛野壯一郎

本編はアメリカンアーキテクト誌五十年記念號にシー・エッチ・プラックオール氏の記述せるもので、我が建築界の過去及び現在と引きくらべて頗る有益にして興味深いものと考へ譯出したのである。

五十年前には世界は私共のオイスターであつた。而して私共は當時全くかけ出しの若人で有つたが、吾人の前に展開せられた全世界は、凡て私共の取るにまかせられたものと考へられ、又何物にも打ち勝ふと決心せられた。でも今私が過去五十年を振りかへつてみると、私共が所有し得なかつたものゝ多い事に驚くので有る。その當時學校は勢よく開始せられて居つたには居たが、設備の完備したといふ學校は一つも無つた。クイーン・アン式が全國を通じて跋扈して居つたゝ而してイーストレーキが裝飾的可能性の頂上であつた。建築士は五パーセントのコンミッションを受ける事にはなつては居たが、凡てが規定通り支拂れた譯ではない。圖工の專業者といふものは一人もなく、また依託されるような藝術家の團體といふものも無つた。外國に學んだといふ建築士はやつと五本の指に數へる位しか無つたのである。建築に關する新聞や雜誌といふものは殆んど無く、ジ・アメリカン・アーキテクト誌がやつと產聲をあげた位だ。當時米國建築士會は創立後十年たつかたゝない努力中の少年で有つた。而して名義だけは米國と冠して居ても、實はニューヨークに住んで居る少數の好事な建築士の集りで、それは六エッチよりももつと軟らかい鉛

筆で圖を引く事を提言する若人を少しも信頼しない人達であつた。タイプライターは未だ識られては居なかつた。而して仕様書が丹念に手寫されるか、又は蒟蒻版による外はなかつた。此蒟蒻版といふものは、その使命が見苦しい消す事の出來ないインキで圖面を汚す事にあるが如く見へた頗る不都合な發明であつた。青寫眞を營業的にやつて居るものはなく、フオトスタツツに就ては何にも考へられなかつた。製圖紙としてはワツトマンと怖ろしいエッグセルが專ら用ゐられ、謄寫用には嫌なにほひのする油紙が使はれた。私共は用達しに使用する電話も持たぬば、使を出す自働車も無つた。鋼鐵は單に及物用に止まり、建築用としての機械的工作具に就ては何等考へられて居なかつた。鐵筋コンクリートは佛國では既に實用的に成功はして居たが、此國では實用として顧る者も無つた。耐火構造は大方の苦心するところで有つた。私共はエレヴエーターといふものを持たなかつた爲めに、結果一の高層建築も起らず、電氣に關しては實驗室以外に未だ一歩も踏み出して居なかつたから、照明用としても乃至働力用としても少しも利用されて居なかつた。基礎工事といふものに對して私共は頗る朦朧たる智識より持たなかつたので有るが、それでもシカゴ市では軟弱な地盤上に如何にして重い建築物を浮かせるかに苦心をして居つた。蒸氣暖房に通風裝置といふものは確かに有るには有つたが、それは所謂專門家のやつた仕事は何故斯樣に不滿足で有るかといふ問に答へる事が出來なかつた程幼稚なもので有つた。私共は一つのコダックも持たなければ又臘管蓄音器も無かつた。而して今日の標準から考へると、私共の職業は、私共の理想を實現し得るような經驗ある建築者もなければ、又誘致するような大資本もなく極限された注文者と機會の內に働く頗る貧弱なもので有つたので有る。

併し凡てがわるかつたのでは無くて宜い事も澤山有つたのである。よしそれを一々私共は知らなかつたとはいへ、私共から更らに先の五十年に於て種々なる發明があつた筈で有る。でもそれは今日の若い人には到底信ぜられないと思ふ。當時の倫理學では單に仕事を得よといふ事で有つたが、今では意味が違つて汝の仕事を得よとなつて居る。それにも係らず職業の標準は高かつた。而して紳士的契約の下に基礎を置いて居つた。仕事が非常に少なかつた爲め、工事の實施には全くの專門的の者ではなくて排外的倫理を維持するために、親類關係の者とか資本關係の者に必然的に託さるゝ樣な結果となつた。その當時建築士は藝術家と一般に考へられて居つた。現時と同じように或はそれ以上批評家は當時もやかましいもので、その意見としては、新らしい革命的の建築を承認する事よりも、臆病な樣式の墨守に對して一層懸念して居つたように考へられる。ワール・エンド・ヴアンブラントが木製格緣を用ゐ其間を木の板で張つた木造丸天井を造つた時の、メモリアルホールに對する論爭は今でもはつきり記臆して居る。プユージンやサー・チャールス・バリー其他外國建築家の先例が、斯樣な組合せは宜い建築では有り得ないけれども、それにも係らず天井板や格緣としての木材の使用は英國に於ける貴族的邸宅のホールでは普通の事實であるといふ事が辨駁せられずに證明せられた。又老大家と若い者との間にも種々論爭があり、その頃畏敬すべき人で有るとしたナターニエル・

ゼ・ブラツドレーの如きがエレヴエーター無用論を唱へ、その理由とするところが事務用建築としては三階建で充分で有る、三階の階段を昇り得ないような人は家で寝て居るが宜いといふので有り、然も其れがボストンに於ける第一流の建築士で有つたには驚くでは無いか。

その當時私共は全體に於て私共自身可なりよく滿足して居た。而して私共は相當宜い仕事をして居り、又私共が八階建の高い家を建てた時には充分進歩的であると考へて居つた。鐵骨構造が知られたのは其れから十八年乃至二十年後の事であつた。專門家が斯うした新らしい仕方に對して迅速に且つ充分な理解を以て採用したといふ事實は、いかに最眞めにみても私共若いものよりはもつと鑑識に長じ、又建築なるものは常に進歩的であらねばならぬといふ事をよく知つて居た筈の先輩達の力では無つたので有る。恰うど五十年前はアメリカの復興期の初まりで、ヒラデルヒアに開催せられた百年祭博覽會は特筆に値する。それは實にシヴイルウオソーの怖ろしい緊張に續き、又多忙にして繁榮なる國民はあらゆる事物を學び、且つその豫期は全然將來にかゝる事を識つて凡ての藝術や工業の新生命に觸れた事による驚嘆すべき覺醒で有つたので有る。アメリカの藝術や建築は一千八百六十年代は最衰退の時期で有つた。而して殆んど每戰爭の結果として同六十七年乃至七十六年の間は、人々の心や意氣やポケットブツクが、百年祭の勝利によつて先觸れされた新らしい建築の可能性に準備せられて居つたので有る。百年祭後に起つた正義の觀念及びシユウイルキル風の聚集的な國家や藝術に對する影響の棄却を考へる事が出來る。而して私共が初めて其處に示された凡ての發明を見、それによつて鼓舞せられた建築工事を列擧する時に、此時代をアメリカの復興期の初期であると稱する事が如何に妥當であるかゞ容易に知られる。建築はなほ躊躇する美術で有つた。でも其れは一つの事業であり且つ科學である事の鑑識が專門家に起つたのは間も無い事であつた。リチヤード・エツチ・ハントがルーフユエルの下に於ける長いバリーの遊學の香氣を以て先頭に居つた。ピーボデイ及びスターンスも丁度仕事を始めて居つた。プロフエツソル・ワールは當時テックと共に名譽の地位に居た。而して僅少の例外を除いては、一千八百七十六年後の建築は凡て相當の價値を持つて居たので有る。

百年祭として力のあつた其時代には偉大なる獨自性があつた、エツチ・エツチリチヤードソンはシヴイル戰爭の間一身の安全の爲め外國に出て居つた。彼はバリーに在つて仕事を求め、その結果として佛國風を深く知る事が出來たとの話で有る。彼が此國へ歸つてからは其强い想像力と人を信服せしめるやり方が、直ちに第一流の地位を彼に與へた。それでも仕事をやつて行くのは中々樂では無つたので有る。それは當時私共若い者の間には畏敬を以て話された事の一つで有るが、ある時彼はある寺院建築委員の依託を受けて最念入りの最趣味深く建築的な設計圖を造つたので有る。其れは當時彼の持つて居つた唯一の仕事で有つたのであるが、やつと出來上つた其作品を持つて指定の委員會に臨むと、委員會の書記から委員會は當分寺院を新築しない事に決議したと冷やかに告げられたので有る。普通の人間ならば卒倒でもするところだがリチヤードソン氏は左樣では無つた。早速旅館に歸つて暫ら

く熟考した上、個人的に教會の各委員其他有力者を歴訪し其夕再び會議を開かせて新築の承認を論じたので有る。而して其夜遅くボストン行の列車に乗込む時には、ポケットに寺院新築の承認と委託狀を持つて居たといふ事である。彼は明らかに專門家としては珍らしい威壓的な人格の所有者で、多數青年に對する感化は偉大であつた。私共は凡て彼に注意した。勿論多數は直接會つたのではないが、彼の素質を模倣し、彼が使つたように六ビーの鉛筆を用ゐ、彼には最豊富であつたと同じ源泉からの靈感を受ける事につとめ、殊に實際建築的に考へるといふ事を彼れによつて暗示せられた。リチヤードソン氏は其以前或は其後の人とは違つて圖書によるところが多かつた。彼は驚嘆すべき圖書の所藏家で、又如何に研究す可きかを知つて居たので有る。觀察の新鮮な事及び意匠の絶體的に正直な事が、よし其樣式が時代の他の凡てと違つて居たにも係らず、多數の遂隨者を生ずるに至つた。然もなほ彼の天才を以てしても傷ましい拘束は免れなかつた。五十年以前彼によつて造られたトリニチーチヤーチの詳細部を檢査するならば、詳細部の貧弱な事、及び彫刻の專門的熟練の缺けて居る事がすぐわかる。而して建築士の技術の遙かに進んだ後世の附加である玄關と比較する事に於て一層明白で有る。併し技術的貧弱さの如何に係らず、トリニチーチヤーチは其全體に於て或は一般的考察に於て各時代を通ずる紀念的建設物であり、且つ其不充分な詳細部を以てしても其建築的品位は少しも損せられて居ないので有る。

五十年以前は無論黄金時代では無つた。其れは種まきの時代で有り教養の時で有り希望の時代で有つて享受又は收獲の時では無つた。最初に述べたように、其頃の建築家は必然的に好事家で有つた。僅少の例外は有つたが專門家の伍列は過半お手輕なもので殆んど圖面といふようなものを作る事もなく多くの場合注文者との關係は現場監督者に過きなかつた。私共は今日やつて居るような仕事圖といふものを作らなかつた。それは一面左樣した要求が無つたからでも有り又他の一面には仕事圖を作る圖工も居なかつたからで有る。而して百年祭後まで本當の建築らしい建築をしなかつたといふ理由は國家もそれに對して何等の準備をも持つて居なかつたし私共も左樣いふ仕事を取る一切の用意を缺いで居たからで有る。私共が現在の可能性に眼を通じ、如何に容易に若い人の出發點が得られるか、材料や科學的條件の豊富な事　進んだ構造がすぐに準備せられ求めるよりも得る方が早い事を觀察すると、現代は五十年前の遺産相續者で有ることに心付く。昔の小供が立派に成長し、建築は其れの藝術に最正確な科學を加へ、怜悧な實務者の性質をとり、昔のような單なる鑑賞物ではなく、それを好む者には世界に於ける最緻密な仕事で機會の最多いものとなつたので有る。私共は其頃ニューヨークで仕事を持つて居つたクリントン・エンド・ラッセルが五萬弗の報酬を受けた事を耳にした。其れは私共の耳にはまるで夢物語のように響いた。而して相當な拂戻しでもするのじや無いかと思はれた。何故なれば當時の註文者が建築の樣な仕事にそんな大金を支拂ふとは到底考へられなかつたからである。又一千八百七十六年後數年の頃には到底問題とはならない機械的困難の爲めに、十階或は十二階以上の建物は實際不可能で有ると一般に云はれて居つた。今では殆んど無限で有るが

如く高層な建物が出來る。又其れに要する建築費の如きも漠大なもので、從つて建築士の受ける報酬の如きも非常なもので五萬弗位には驚かないので有る。

五十年前は生き甲斐のある時代で有つた。建築は今と同じように其當時も享樂せられた。私共は私共の仕事に對して違つた種類の誇りをもつた。私共は現在よりはもつと繰型や外觀の確實さに就て苦心したもので有る。それは實に喜ばしい生活で有つた。今日の人々ではとても鑑識出來ない程の喜ばしさと仕事振りで有り、其幸福と機會は今の青年には考へる事は出來ない。その時代はいかにも未熟な未完成な時代では有つたが、私共は建築の中に育ち、建築の凡てに關係し直接自分達の手によつて建築の成長をながめた結果、それを鑑賞する事に於て遙かに幸福で有つた事を思はざるを得ない。何故ならば今日の圖工は組織の一部分で全體の仕事を視る事はなく單にある一極部に關係するに過ぎないからで有る。

過去五十年間に於て建築の職業の中で最著しい變化は倫理の問題で有つた。一千八百七十六年頃の建築士は構造に就て多く識る事は、其威嚴をそゆるに足らないといつたような考を懷いて居つた。リチャードソン氏の如きも故意に構造を無視し、其れは建築業者の仕事で建築士の仕事では無いと斷言したので有る。私共は確かに凡てを變化した。而してそれは多數私共の友人であつた機械技師におふ所が多いので有るが併し新らしい建築を工夫し計畫して近代建築の可能性を作り出したのは、ゼニー、ウイリアム・アール・ワール、トリート及びフォルッ、及びアドラー等の建築士の努力であるといはなければならぬ。耐火構造は時代の要求する建築的考案であり、且つシカゴ市及びボストン大火に直接刺激されて發達した。其れは明らかに單なる機械的の問題では有つたけれども高層建築には必要缺ぐ可からざる問題であり、機械技師の態度が主として下の基礎方面の研究に當つて居た結果、建築の終始に關係し全責任を持たなければならぬ建築士が自然かうした單なる機械的の耐火構造に注意を向けたので有る。鐵筋コンクリート構造に就ても同樣であり、それは或る意味に於ては世界の最古い構造法であるがそれが驚嘆す可き發達の高度に達した事も建築專門家の力で有つた。また一千八百七十年代の建築家は金錢上の事に就ては何にも知らないものと考へられて居つた。まるで無責任な詩人の種類で一切金錢の取扱ひを許す可からざるものと見られて居たので有る。建築士の斯樣な態度にも係らず、少數の先覺者は其れが非建築士的であるとのひどい批難を受けたにも屈せず、單なる建築士として以外大建築の工費を司る財務の一面を開いた。建築士の此方面の仕事は今日では明らかに一般の承認を得て居る事と信ずるが、併し米國建築士會の會規には反對に『建築士は請負を保證し得ず』と定められ、それが實際には自分の覺え帳を以て自分の判斷の下に立つ事を豫期されて居る建築士によつて多くの場合放棄せられて居るので有る。又建築士の此態度が何んなに見ても一般の信用を損してるとは考へられない。一千八百七十六年を回顧する時に、建築士が少しも信賴せられないで常に種々なる抑制と批難を受け勝ちで有つた事が思はれる。現在でも凡ての建築士がよいとは言へない。多數の建築工事に關しては中には隨分不名譽な條件を負はされてる者もある。併しそれは一部分で現代の建築士が注文者に對す

る關係は一千八百七十六年代には夢にも想像されなかつたよい狀態に置かれて居る。而して昔ならば絶對に拒絶されたらうと思はるゝ權力と無限の機會が與へられて居るので有る。

アメリカンアーキテクト誌が過去五十年間、米國建築界に功献して居る事は偉大なもので有り、其創刊者ウイリアム・ロシュの名は尊敬に値するもので有る。氏は專門家として日夜勵精し、何等の援助をも受けずに雜誌を發刊したので有るが、それが今日の大をなして專門界に多大の効果を與へ、米國建築界の今日ある所以の一因となつた。建築の發達には斯樣な報道機關の有無が大邊に關係する。その發展は遲々としたものでは有つたが、しかし確實にワール氏の不斷の努力によつて、其抑繪や記事によつて建築知識の普及せられた事は大きい。私共は建築誌によつてのみ觀念を得るものでは無いが、是等の雜誌によつて私共の考へが反省せられ批判と比較する事によつて有用なものとせられる。五十年前の建築が今日のものに比べて不活潑で可能性に乏しいといふのは、重に意見の交換の機會の少なかつた事及びワール氏やリチャードソン氏のような暗示を與へる人の少なかつた事に原因するので有る。（續）



建築美に就いて

石本喜久治

一

是は最近或所で實は梓會と云ふ婦人の集りで一時間ばかりお喋りをしたものを、もう一度蒸し返す譯で、自分自身に取つては決して氣の利いたことではない、又其内容は全く素人向で、所謂專門家の人達には甚だ恐縮の次第であるが、「建築と社會」の記事が近來大變向上して、極めて深遠なる論說のみが滿載されて居る折柄、斯うした茶番も時に取つての慰みでないかと、勸められる儘に敢て二度の勸めをする譯である。

話は例に依て、建築とは何ぞや、から始るのであるが、それは幸ひ本野氏が建築の本質に就いて精細な御研究を發表されつゝあるから、一切はそれで明瞭になることゝ思ふが故に現今普通に建築と稱するものゝ美的方面を短刀直入的に檢討することにして、即ち建築の美に就いて若干愚見を申述べやうと思ふ、而も固より哲學の素養も何も無いので、所謂美學的な言ひ廻し方は出來ないから、單に自分勝手な言葉で進める外はない。

先づ住み心地が好い、使ひ勝手が可い——是も確に一つの建築美の要素である、又豪壯な綻りした合理的なものも、延ひては落付、其他の美的觀念を與へる一つの建築美の要素になる譯である、更に進んで從來の所謂建築美、即ち單に從來の言葉で云ふと、建築の藝術的方面と云つたものが加はれば尙更結構であるが、建築美と云ふものも他の所謂藝術の美と同樣に其認識の轉換が行はれて居るものと思ふ、即ち建築美意識の轉換と云ふことは今日建築の美を論ずる者の應に考へなければならない事柄で、今私が事新しく述べるまでもなく從來二三の人の論說も見たのであるが、今自分一己の考から

建築美の構成を觀ると、先づ物理的構成と心理的構成とに分れるのであつて、物理的とは建築の材料、構造、形式――斯う云つたものであり、心理的とは、建築創作者の個性、或は個性のインスピレーション、努力、技巧、更に進んでは國民性或は時代精神、尙ほ今日に於ては社會意識、世界感情と云ふやうなものが大きな構成要素を成して居ると思ふ。

二

次にそれ等の建築美の構成の所在を考へて見るのに、建築美の所在は空間と時間とに分つことが出來る、先づ空間的な所在は更めて言ふまでもなく、例へば觀賞の距離に依て、日常我々の眼に觸れて、それが繪畫的に見え、又彫刻的に感じ更に運動感覺、音覺、一般感覺等に依る所謂建築的な所在であり、時間的所在とは、例へば建築が廢墟（ルーインス）となつた場合に所謂美的感覺を與へるものであり、又午前、正午、午後、若くは夕方、或は月の夜、其他の一日に於ける時間的な背景に依て美的感覺に變化を來すものであり、雪の日、暴風雨の朝、炎天の晝、其他四季風雨に因る自然現象の影響に依ても建築の美と云ふものが其所在に於て各々異つた美を表現するものであつて、今云つたやうなものは或は空間的若くは時間的の混合に依る場合も含まれて居る。

斯の如く建築美の所在は空間と時間とに規定されて存在するのみならず、更に建築美の範疇は客觀的と主觀的とに依て分類制約されるものであつて、言ひ換へれば、形式的と内容的とでも言ひ得るものである、客觀的即形式的なものに於ては統一、均齊、調和、對照、比例、均合等、又主觀的即内容的には瀟洒、輕快、莊重、雄大、優美、清高などで、而も是等が更に看者の主觀に依て形容され、變化されるのである。

是等の建築美の構成、所在、範疇等を觀て、今建築美意識の方向轉換に就いて考へると、從來は餘りに所謂藝術的な美にのみ偏して居つて、構造の美とか、或は實用上の美と云ふものを等閑にして居つたやうに思へるし、殊にプランニングの間取の如きものは到底美的對象になり得ないかのやうに思つて居つた人達もあるが、自分に取つてはプランニングは大きな美的對象として取扱はれるものゝやうに思はれる。

尙ほ從來の所謂藝術的な建築美と云ふものは、言葉を極めて云へば、殆ど建築其ものゝ美ではなく、建築の表面、若くは内部に施された繪畫若くは彫刻の美であつて、例へば如何に其軒先を飾るべきか、或は柱や梁を粧ふべきかゞ建築意匠家の主要なる眼目であつたのであり、建築を觀賞する人もそれ等の建築とは本質的に何等の係りも無いものゝ美を觀賞の對象に置いて居つたのである、又建築の重要なる要素には違ひないが、屋根の形のみが殆ど建築美の重大なる要素になつて居るが如く思ふのは、我々日本建築の美を論ずる者の常に陷り易く、又捉はれ易い所のものであつて、今日の建築美意識を以てすれば、寧ろ如何に柱の配置を合理的、且實用的に配置すべきか、又梁を架けるべきであるか、窓を設けるべきであるかが、大きなる美の對象となるべきであつて、窓の額緣の刳形（モールディング）や柱のキャピタルの如きものは何等建築美の對象となり得べきものとは思へないのである。

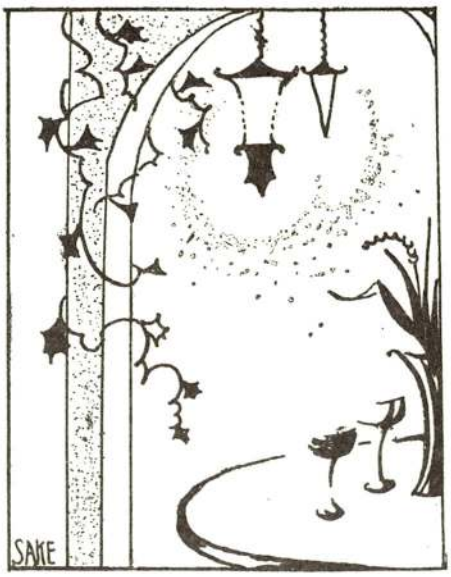
三

尙ほ更に進んで、建築美意識の轉換に就いて云へば、從來の建築は或は宗教、或は王侯などの權威者に捧げた純感情的な建築に於ける美意識で創作され、觀賞されたものであつたが今日に於ては一般資本主義的な經濟組織に於ける利潤を得る爲の投資の對象物であり、若くは直接的な商品として市場に送られるものが前者に代つて盛になり、更に一般公衆の爲の所謂公共的建築物が新しく勃興し、其間に他の文化の變遷に伴つて建築の文化價値も自から變化を來すが如く、建築美意識も亦方向轉換をしなければならない、即ち古くは英國に於ける工藝運動の如き、或は最近のバウ、ハウスの運動の如きが其大きな例であるが、又所謂構成主義の如きもソヴイエツト露西亞に於ける文化價値に伴つたる美意識の方向轉換に基くものであつて、我々の分離派運動も大きく云へば、此同じ流に棹したものと云つても可からう。

斯の如く美意識の方向轉換から來る建築美の所謂形式若くは範疇と云ふやうなものも自から變化を來たして、今日或一つの國際的な樣式が生れつゝあるが如く我々には思へるのである、それは例へば佛蘭西のコルブッシエスーニエー、及びガニス、又ペレーの如きものであり、和蘭に於けるアウト、ルドック、或は獨逸に於けるグロピユース、メンデルゾーン壞地利に於てはホフマンの一派の最近の傾向の如きものである、是等は今日の建築美意識に依る表現の新樣式かと思はれるものであつて、恐らく是等が融け合つたものから、今後の國際的な建築樣式が生れて來るに違ひなからうと思ふ。

尤も是等の今日の建築に於ては猶ほ十分建築美を味ふことの出來ないものもあるけれども、少しく見方を變へたものからは、微かながらもそれ等のものにこそ眞に建築の美を見出すことが出來るやうな氣がするのである、仍ち建築美の見方に就いても我々は又從來のものから變らなければならない事は前に述べた建築美意識の方向轉換と云ふ中にも當然含まれて居ることであつて、今日我々の仲間の堀口捨己君が發表した展覽會に際しての言說の中にも發表して居るやうに、總ての藝術或は美と云ふものが我々人間に離すことの出來ない第一義的に必要なものであつて、初て大多數が人間的に要求する所のものであるが如く、特に我々の所謂衣食住の一つとして、人間生活に最も密接なる關係を有つ住、即ち建築の美若くは建築藝術なるものが大衆に最も緊密なる關係を有つことになるであらうと思はれる、例へば水なら蒸溜水の如く所謂純正藝術として、人生第一義の最高藝術だとして居た從來の繪畫彫刻其他の藝術至上主義的概念が亡んで、本當に人間の飮料として必要な水のやうな藝術概念が人間の大多數に行はれる時、人間の美的慾求を滿足せしめる生活に必要な藝術として、建築が眞の文化價値を獲得するのである、此場合に建築美は特殊な研究者が研究室で研究した榮養素としての繪畫彫刻などを配合按排した綜合的な美を意味することになる、例へば電燈のコード、或は煖房の配管の如きも積極的な建築美の要素になるが、それは電燈のコード或は煖房の配管などを用ひたことに依る第二義的な興味から來る不純な所謂構成主義的な單なる觀賞を目的とした藝術ではない。

斯の如く生活に必須な諸機關を經濟的に、歸納的に計畫して、建築美創作の要素として統一されたる綜合體の建築こそ我々の望む所で、我々の所謂建築美を高調して、構造萬能論或は建築非藝術論の妄を開くのが我々の運動の目的であつたが、今日では一般建築家の覺醒に依て殊更に我々の運動を必要としなくなつたが、尙ほ一般建築を觀賞する者に此建築美を十分に味はしめるやうにしたいものである。



近世劇塲構造（二）

Edward Bernard Kinsila
池田谷久吉譯述

保温と換氣（Heating and Ventilation）

保温と換氣との二つは孰も相互關係を持つて居りまして共存關係上この二つの問題を分離して考へる事は出來ません。保温と換氣とが完全であるといふ事は確に其の劇塲に入塲してゐる人達に非常な愉快さを與へるものであります。

そこで新鮮な空氣といふものは生命に第一に必要なものであるのみならず人間は數日間位は水を用ひずともまた數週間は食物を取らずとも生命を保つことが出來ますが空氣なしでは數分間も生くる事が出來ません。從つて適當な温度を保つた新鮮な空氣を絶えず供給する事は最も必要であります、空氣の流通をよくするといふ事の衛生上に第一義である事は前述によつても證明されるところでありましてこの方面の科學的研究の結果優良な機械設備が完成される樣になりました。此等換氣と保温とを論ずるに方つて先づ第一に保温の事をお話し申上ます。

温度とは物理的に云ふと實體ではありません、それは凡ての物質に依つてなされるところの一つの狀態に外ならないのです。人工的温度調節の要求は主に其地の氣候に依り又社會の人々の習慣に依らねばなりません。

ヨーロッパでは常温華氏五十九度が適當とされてゐます。アメリカでは一般の習慣として約七十度を保つべきことになつてゐます（註、我が日本では六十度として汽車や電車の中の寒暖計に赤線を入れてレッド、ラインと呼んでゐます）

そこで劇塲の保温換氣施設に就いての一般的な要求は次の如き條件であります。

一、温度は一樣に行き屆かせる事と早く拔け去つて温度を浪費しない樣にする事。

二、人の呼吸する塲所に新鮮な空氣を到るところに分散し温氣、冷氣と局部的に流れ出るのを防ぐ設備をするこ

と。

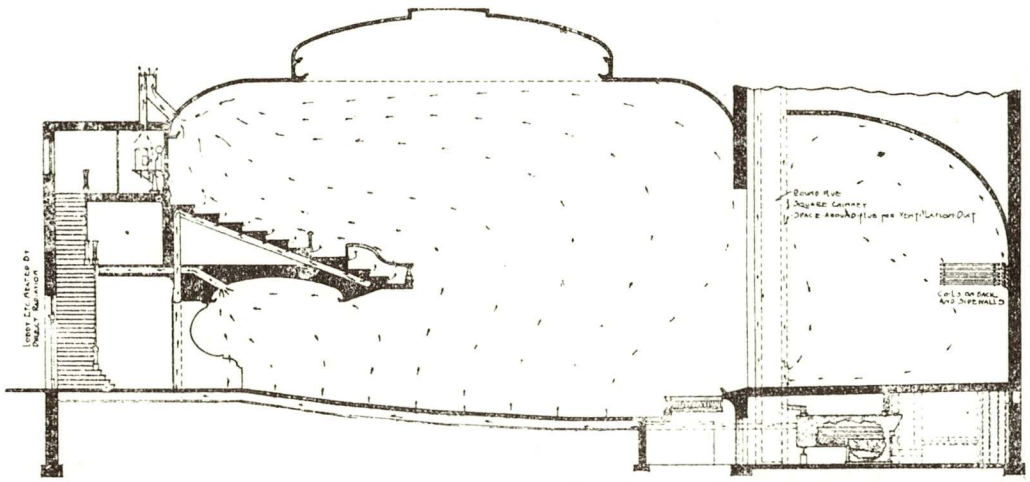
三、不潔な空氣は早速これを凡て除去すること。

保温方法 (Method of Heating)

現今流行の保温方法は二種に分つ事が出來ます。即ち直接的放射と間接的放射とでありまして今我々の考へるところのものは直接放射であります。

直接放射により熱を得るには三つの手段があります、即ち高溫度の空氣又は蒸氣によるか又は高溫度の湯水に依るかであります。

高溫度の空氣に依つて熱を得るには特別な煖房裝置が必要でありますがそれは調節することに大變困難で劇場に於ては實際的には駄目かと思はれます、次に高溫度の湯水に依る熱は非常に數多くの設備がかゝるので最初の費用が多くかゝるが經常費が僅少で維持することが出來ます。然しこれは嚴寒の季節は凍る樣な事があるので劇場では矢張り不適當であります、すると最後に唯蒸氣煖房の方法のみが殘るのであります。



Longitudinal Section of Heating Diagram Indicating Ordinary System for Theatres

次に示す表は各方法の費用を比較したものでありましていづれを取捨するかの撰擇の標準となることゝ思ひます。

	高溫空氣	蒸氣	高溫湯水
最初裝置に要する費用比較	9	13	15
五年間使用する費用の比較	29½	29	27

蒸氣煖房 (Steam Heating)

この表によりまして次の事實がわかるだろうと思はれます即ち蒸氣煖房が前にも申上た通り煖房としては最も適當な方法だといふことになります、これは風の作用を考へないで一樣に溫めることの出來るのと最も安價で最も迅速で而も比較的さめることが尠少なのであります。

直接蒸氣は一般に二つの階級に區別する事が出來ます、重力流通組織と機械的流通組織とがこれであります、著しい特徴は放射器のうちに凝結した水が再びボイラーに歸つて來ることです、第一の重力流通組織では凝結したものは重力によつてボイラーに歸り第二の機械的流通組織では凝結物はレシーバーに歸りそれが

ポンプとかレタウン、トラップとかの動を受ける事になります。

直接的蒸氣煖房も又後者の手段によつて他の組織と結合いたします。

煖房室は觀客席、舞臺廊下、劇場の出口等の下に置いてはならない事に規則で定められてゐますが、それ以外の場所ならばどこでもよいことになつてゐます。

煖房所要費(Amount of Heat Required)

煖房を設計するに當つて先づ第一に其劇場建築物には如何程の熱量があればよいかといふ事を確める必要があります。

一つの建築物の要求する直接放射器の呎數を測定する爲に種々な室の立法容積を次の數で除すことになつてゐます。

	除數
化粧室(片側開放)	30—50
同　(兩側開放)	30—40
觀客席	60—100

窓があり、戸があり其他開放されてゐる所のある場合には其の除數は上に用ひたものなら低いものとなつて來ます。

さて觀客席の温度は機械的設備があつて温くなつた不潔な空氣が絶えず除去され、それに代つて新鮮な空氣が導き入れられる様になつてゐる場合の他は觀客が席につくと減らしたり又は栓を止めたり調節しなければなりません。

蒸氣煖房設備(Steam Heating Plants)

蒸氣煖房設計は三つ部分に分れます。

ボイラー即ち蒸氣發生機、放射器、並に二者を連結するところのパイプの三つであります。

尤もボイラーの中でも管狀ボイラーは煖房には最適であります、ボイラーにも各其の用途に從つて種々の型がありまして水平のもの直立水管式又は管狀ボイラーの火室型のもの等があります。

水平式管狀ボイラーは主として工場の爲に又は發力裝置として用ひられます。

直立管狀ボイラーは何等の煉瓦裝置の要なく他の型式の管狀ボイラーより其の裝置が安價であります。

一般に廣く使用されてゐる鑄鐵製の區劃ボイラーは又大劇場を温めるだけの能力もなく適當のものではありません。

ボイラー据付のため參考として前圖は劇場の煖房を示してゐるものであるが、次の表はボイラー撰擇に際して大きさを決定する一助ともなるものであります。

これはインドのインデアナポリ、アトラス機械工場に依つて書かれたもの。

水平管狀ボイラーの割合

外殼			厚		管			熱面	火床面
馬力	直徑	長	殼	頭	徑	長			
	吋	呎	吋	吋	No.	吋	呎	平方呎	平方呎
15	36	8	1/4	3/8	26	3	8	214	5.8
20	36	10	1/4	3/8	26	3	10	266	8.3
25	36	12	1/4	3/8	26	3	12	318	9.5
30	40	12	1/4	3/8	34	3	12	404	12.0
35	42	12	1/4	7—16	40	3	12	464	12.8
40	46	12	9—32	7—16	42	3	12	491	14.6
45	48	12	9—32	7—16	48	3	12	551	15.3
50	48	14	5—16	7—16	40	3½	14	630	16.0
55	52	14	5—16	1/2	44	3½	14	693	16.7
60	54	14	5—16	1/2	46	3½	14	721	18.0
70	54	16	5—16	1/2	40	4	16	817	20.3
75	60	14	11—32	1/2	62	3½	14	940	21.5
85	60	16	11—32	1/2	52	4	16	1045	22.2
100	66	16	3/8	1/2	64	4	16	1265	25.0
125	72	16	7—16	1/2	82	4	16	1578	29.5
150	72	18	7—16	1/2	82	4	18	1775	36.5

ボイラーのピットや其の他各部分部分の大さ位置等は煖房裝置請負者の自由にまかしても差支ありません。

煙　突　(Chimneys)

煙突は建物の肺臟 (Chimney the Lungs of Building) ボイラーに對して補助として必要なものは煙突であります。

煙突は燃料を適當に燃燒せしめるため必要な通風をよくし燃燒の結果出て來る有毒なものを空高く排泄するには是非なくてはならないものであります。

佛蘭西、獨逸等の如き冗費が社會的並に商業的罪惡だといふ國々に於ては如何なる建物の煙突でも監督官廳に依つて課せられた高さ、巾等の制限を無視する樣な事はありません。

一軒の家の中で其最も重大なものは煙突であると云はれて居ります、そして如何なる換氣方法を用ひ、如何なる燃料を使用するにしても不適當に造られた煙突より大なる浪費を引き起すものはなく、又適當に造られた煙突程節約を大ならしむるものはありません。

扨て燃料を完全に燃燒せる爲には空氣の正しき必要量の供給を第一條件といたします。

煙道の面積 (Flue Area)

煙突の價値如何は其の高さと巾とに依るものでありまして煙道はあまり少さくするよりもむしろ廣く造つて置く方がよろしい、何故なれば通風があまり強い時には煙道は調節辨 (Dampers) に依つて狹縮されますが煙道があまり小さい時には此の調節は出來ない事になります。

通風が適當に加減されない時には石炭の種類を替へて丁度

よい頃合に工夫することも出來ます、即ち粗大な石炭を用ひると通風が強くなり、小さい石炭を用ひると通風は弱くなります。

煙突は凡て屋根の最高部より高く突き拔けてゐなければなりません、そして其の煙突の頂には不用な空氣が流れ込まぬ樣にし又適當な通風を與へる爲通風帽を取り付けられます、その通風帽は取替へることの出來るものが便利であります。

丸い煙突は四角のものよりは成績がよく多くの煙突は耐火的構造のものを內側とし二重に拵へられます。

直徑四呎以上の煙突を築く場合は外側を眞直にして法（Batter）をつけ丸く仕上げるのは最も安價に經濟に出來ます。

非常に高い煙突は頂上から下まで凡て形が不同であり且其の壁の厚さも異つてゐます、煙突の壁は其の土臺に於て最も重量がかゝり上になるに從つて一步一步と其の重さを減じて行きます、また大きな煙突になると外部と內部との二重の間隙を設け內部の高さは大低四十呎か五十呎のところに止めてゐます。

凡ての煙道は出來るだけ廣くし、煙管の入口の下三四呎の點から初まり其の底部には塵や煤煙を取り除く爲に掃除口を必ず設けなければなりません。

さて煙道の設計に就いては次の表から計算することが出來ます。

建築物の總容積	直接放射の平均煙道	圓の直徑	煉瓦煙道の內部
立方呎	平方呎	平方呎	
10.000— 20.000	200— 400	$8\frac{1}{2}\times8\frac{1}{2}$	8 × 8
25.000— 50.000	450— 900	$8\frac{1}{2}\times13$	10 × 12
60.000—100.000	1000—1600	13×13	12×12
100.000—150.000	1600—3000	18×18	16×16

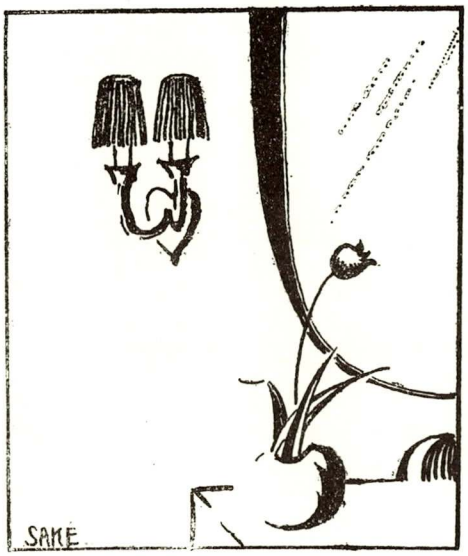
燃料（Fuel）

燃料の價値(Fuel Values)

燃料のよしあしの價値は燃燒に依つて發生する熱量の多少に依つてはかる事が出來ます、熱を取る爲に一般に用ひられる燃料は炭素と水素と灰とそれから其他物質的には其の價値に影響しない程の分量の種々のものより成つてゐます。

無煙炭が自由に灰と混同する事がなければ一四、七〇〇の熱量を出し半瀝靑質の石炭は一三、七〇〇の熱量を、有煙炭は一二から一三までの熱量を出します。

石炭から篩ひ落された粉炭は其の燃燒の價値に於ては普通のものと殆んど同一でありますが、殘滓の百分比は大であります、燃料の費用を計算するに際して次の樣な推定を與へることも安全であります、即ちそれは火の强度は同じ狀態のものに於て燃やし得る所のあらゆる種類のものに對して殆んど同一であらうといふ事であります。（未完）



繩墨餘事

南信

いつ迄もお暑いことでございます、紙上を通して殘暑のお見舞を申上げます。

暑いと言つても秋が立ちそめてから、郊外の夜は、さすがに秋らしくなつて、草びばりが鳴き出します。つるべおとしといふやつで、くれそめたと思ふ間に、いつかとつぷりと夜になります。

或日の事です、少しおくれた歸りみち、大阪の街路に立つてバスを待つて居りました。その日もつるべおとしです、未だ暮方と思ふ間に、いつかとつぷりとくらくなつてしまひました。バスは中々參りません、自働車がとびます、電車が參ります、ヘッドライトの交錯、ポールから出るスパーク。あはたゞしいことです。私は別にいそぐ用事も無いので、ぼんやりと街路の上をながめて居りました。

私は何のつゞきとも無くこんな事を考へて見ました若し人間が圓といふものを思ひつかなかつたら、今日の文明はどんな形をとつて居たゞらうと。私どもは圓といふものを、私どもの周圍に、日々無數に見なれて居ります。私どもが空氣の存在に氣づかないと同じ樣に、殆ど圓の恩惠を忘れて居ります。しかし、こう氣がついて周圍を見まはして見ると、圓といふものが、たまらなく有り難いものに見えて參ります。

死んだ素木しづがよくこんなことを言つたのを記憶して居ります。その家に夜ふけ迄遊んで居た或る青年畫家が『良いや、電車が無くなつたら歩いて歸る』と言つたのに對して『足のある人は電車で歸つた方が良い、足のある人が歩いたつて何んにも考へやしないから』素木しづは少女の時病氣の爲め片足を失つて、『松葉杖をつく女』といふ小說を書いた人です。生れるとから圓の恩惠を浴しきつて居る人達が、圓の事に

殆ど無關心で居るのは、恰度足のある人が、足の事を何にも考へないのと同一轍です。吾々の生活にとつて、圓は、或は足以上で有るかも知れません。

しばらく前の事です。或る先輩が、『お前達の設計するものは圓と直線とだけだから感じがかた過ぎていかん』といふ樣な事を申しました。私はこう答へました。自然の中には曲線しか存在しない、それも複雜な曲線だけしか存在しないのです。人間がその中から色々な曲線をアブストラクトしました。そして最後に達したものは圓と直線とです。つまり圓と直線とは、人間が自然を最も簡單に見た形です。或は人間が創造した自然だともいふ事が出來ます。だから人間が自然へ返濟すべきもの(言ひまはしが少し變ですが)は此の二つの線が基調とならなければならないと思ふ——と。

アール・ヌーボーが生れた頃、自然を模する爲めに曲線を用ゐると言つた樣な主張が在つたとか聞いて居りました。自然を模するといふ事にどういふ意味が在るでせうか、自然は自然であり、人爲は人爲である。自然を模しても人爲は自然で有り得ない。アール、ヌーボーの弱味は自然を模せんとした事に有つたのかも知れません。

草花を描いて自然に近づいたと考へたり、石を張りつけて自然に歸つたと考へたりすることは、丁度鳥の羽を頭にかざつてよろこんで居るのと同じ樣に見えます。自然はそんなに甘いものではないといふ氣がします。自然であらうとする間に自然は逃げてしまふ。あとに殘るのは人間のみすぼらしい作爲だけではないでせうか。自然を忘れて人間だけになつて、人間を忘れて自分だけになつて、自分の持つて居るものだけを出した時、その時に一番自然に近いものが生れて來はしないだらうか。

圓と直線とは人間の持つて居る最もまづしい財です。貧者の一燈です。最後の壹錢です。どんな無器用な人でも、どんな無智な人でも、此の二つの線だけは引くことが出來ます。そしてそれだけに無限の變化を持つて居ります。のびて行きます。

牛が草を食ふことは自然です、車を曳くことは第二の性です。人間が直線を引くことは、牛が草を食ふ事に近いものがあります。人間が唐草模樣を描くことには、牛が車を曳く程の技術を要します。

自然だといふ點では、直線や圓を取扱ふ方が、唐草模樣を取扱ふのに比して遙かに自然です。それだけ人間にくつついて居ります。

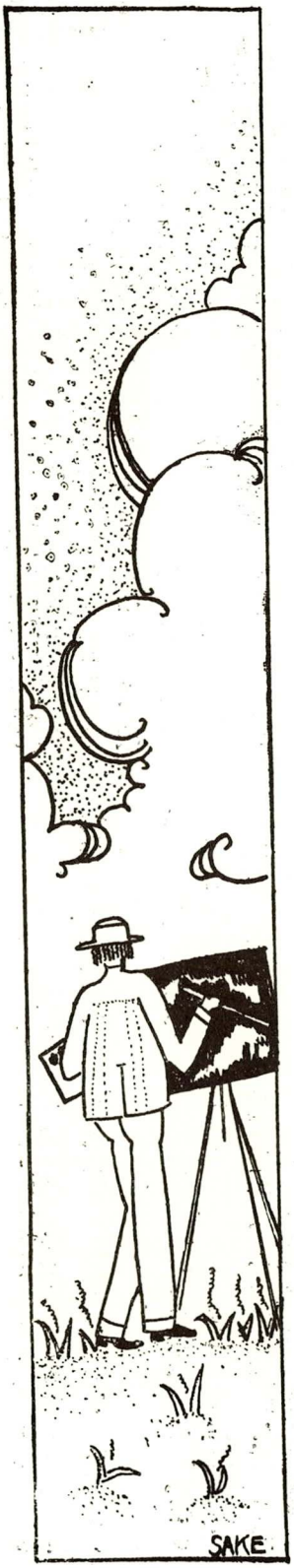
人間が建築を造るのに直線と圓だけではいけないといふ理論を私は信ずる事が出來ないのです。

朝が來ました。朝貌が咲きました。初秋の陽を浴びて、色とりどりの世界です。

くさつた油かすが朝貌の花となる。自然の神秘です。最もまづしいものが、最も貴いものとなる。其處に自然のスピリットが有ります。

最も單純な直線の組合せが、美しい世界を現出するならばそれは自然のスピリットに合致したのです。

朝貌の鉢に鷄卵を與へ、ダイヤモンドを堀るに黄金の鍬を以てするものが有るでせうか。朝貌の鉢には汚土にて足り、ダイヤモンドを堀るには鐵の鍬にて充分ではないでせうか。



建築は藝術なりや將た非藝術なりや、難解の岐路に立てる吾等、敢て諸賢の御指導に質す

神戸高等工業學校
建築科生徒　松浦助

建築が藝術であるか何うかは今更らの問題ではない。けれども、凡てに潑溂たる意氣と、浪漫的な生活創造線上に在るわかいうどの眞劍味ある懐疑と肯定は、その鮮々しき血潮と成りて高か鳴りしつ斯の編中を流れてゐる。問題の當否よりも、吾人は斯の點を賞はざるを得ない。（編輯者）

恐らく此の問題は單に私等學生仲間のみに限らず、現今の日本建築界の新しい人々の口の端には必ず上る問題だと考へます。然し建築藝術論者は藝術的立場より、非藝術論者は又自己の立場より各自説を固持するは止むを得ないことでありまして、之に對する公平なる批判と云ふものは批判者が建築家である以上嚴密に考へれば仲々困難な問題であります。

此處に恩師古塚先生の御好意に依り、淺學菲才をも顧みず、拙文を草して愚見を識者に發表の機會を得ました事は、單に私個人に取つて幸のみならず、同じ惱みを持ち同じ問題に苦しんで居る若人に取つて、天來の福音とも云へるでありませう。そして疑問難問の滿ちて居る建築其のものに對して、少しでも正しい方向、間違のない方向に、私達初學者が導かれたならば之に勝さる幸はないと思ふのであります。

對話體としました事は、從來の論説體から來る堅苦るしさを避けるために、少しでも親みを以て讀めるように、斯の新形式を撰びました。而して藝術論者と、非藝術論者として、AとBを假定して、同一の問題に就いて論爭の形式を取つて見ました。勿論AとBを學生と假定して學生同志の對話として、内容を定めましたために標題に對して迂遠な事柄が無いではありませんが、幸にこの極く貧弱なエッセイが何等かのヒントとなり、同じ問題に惱む學生達のためによき指導者の出でられるのを願ふ次第であります。

A、僕達は中學を卒業して此の高工の建築科に這入つたんだが、建築其のものに趣味はあるが、少しも建築といふも

のが解つて來れば來る程難しくなつて來るね。然し其處に興味もあるといふものだ、兎に角、物を創造するといふ事は愉快なものだよ。

B、うむ。建築は確に創造物に違ひない。色々な制限や種々なコンヂションはあるだらうが兎に角設計者に取つては理想の表現だからね。

A、君は建築といふことに關して中村順平氏の說、即、1. Composition 2. Proportion 3. Constraction. の三要素から創作、即建築創作が出來るのだといふことをどう考へるね。

B、僕だつて建築に三要素がある位は考へてるよ。然し僕だつたら、

1. Composition. 2. Constraction. 3. Proportion.

と遣るね。どんな建築物でも構造が主となつて居ないものは駄目だ、其の意味から僕は Constraction を先にするよ。

A、じやあ君はどんな建築を一番美と感じるね。

B、僕は構造其儘の表現の樣な建築が好きだ、そして其れを一番美と感じるね。僕に言はすれば建築に Ornament などはいらぬものだ、無益な添加物のために反つて建築が醜惡になる樣な氣がするよ。僕に取つては Proportion などは大した問題ではないのだ、只構造本位の建築物が出來て、構造上必要なだけの大さに建築物の各部が出來て居れば、それで結構なんだ、全體の釣合上から大きさを增したり、減じたり、することは禁物だ。

A、じやあ君は君が信じてる建築美と云ふことに對して少しも五感的作用、云ひ換れば精神的の要素は必要でないと云ふんだね。只科學的に Material の strength から割出して計算した大きさが全體と釣り合はうが、合ふまいが、構はないで、それが一番美しんだね。然し僕はそうは思はないよ。建築が苟も Fine art の一部であるからには其處には必ず審美學上の要素、即ち Proportion とか Decoration とかが含まれて居なければ嘘だと思ふ。だからと言つて僕とても Constraction といふものをネグレクトするのでは決してない、しつかりした構造の上に成立たない建築物は片輪だ。

然し美といふものが個人個人の主觀に依つて違ふ爲めに、萬人に一樣な美といふものが求められないために、君と僕とに於てさえも恁んなに美と云ふものに對して見解が違ふんだね。

B、美といふことに對しては、各人の嗜好といふものも大變影響する樣だね。卑近な例だが此處に一枚の若い女の寫眞があるとする、それが僕の好きな顏なら美と感ずるかも知れない。然し君はその女の顏が嫌ひだつたらどんなに目鼻立ちが整つて居ても美しいと感じないかも知れない。要するに美だとか、醜だとか言ふのは、各人の主觀によつて決まるもので、物を見た瞬間作家の强い精神や優れた技巧が觀る人に深い印象を與へるものを云ふのであつて、其の內快よい意味の印象が美で、不快な印象が醜ではないだらうか。

A、そうだ美は觀る人の心に感ずるもので作品の上に實在して居るものではないだらう。それだから一般に共通の美、絕對の美といふものがない限り、一つの建築美に對して同

じ考へなりや同じ好みを持つ人の澤山ある建築が賞美され多くの人に容れられない建築が悪く言はれることになるんだね。（どちらにも設計者に取つては美點があるんだらうが）君は Greek や Roma の建築はどんなに思ふね。

B、勿論、僕は一寸とも美しいとは思はないよ、希臘や羅馬時代の建築家と同樣な美に對する考へを持つて居る人は今でも同じ樣に美しいと感ずるかは知らないが、僕は前に言つた樣に建築物に對して主觀がまるで違ふんだから駄目だよ。

A、建築美といふことに對して、君と僕とはすつかり反對の主義だから仕方がないね、希臘や羅馬の古典藝術の美も君にかゝつては三文の値うちもないさ。

おやあ、建築物を design するとなれば與へられた要求に從つて plan を作るそのことは誰れでもやることなんだが plan が出來て Elevation を作る、其場合に色々な style と云ふものが這入つて來る、それに就いて君はどう考へるね。

B、僕は style も何もないんだ、只だ實用本位の plan から線を上げて出來上つた Elevation が一番いゝんだ。僕に言はすれば、其建物こそ建物の目的に最も適合した、最も純眞な、Elevation を持つものだと思ふよ。

A、君の樣に言へば、style も糞もあつたもんぢやない、そんなものは無用なものだとも言へそうだね。然し僕は僕の主義から言つても style といふものには相當重んず可きものだと云ふ理由を主として居るので、それに對して考慮することも至當な事だと思ふ。

僕は建築物の style には、土地の風俗、氣候、地勢、乃至は人々の趣味、嗜好、建物に依つて傳統的に傳へられて居る因習（之れは小さい意味しか持つて居ないが）と云ふものが非常に影響するものだと考へる。

B、そう云へば、Greek Architecture の雄大壯嚴なのは、希臘人の男性的な國民性の反映であり、羅馬建築の華麗豪奢な風は、羅馬人の華やかな國民性に依ると云ふ譯なんだね。

A、實に其通りだ。建築の style といふものは國民性に非常に大きな影響を受ける、その事は否定出來ない事である。そして建築物それ自身の目的に style といふものが必要で無い限り、言ひ換れば美の表現の一分子としてのみ style と云ふものが必要である限り、美といふものが個人個人に依る見解が違ふのと同樣に、建築物の style といふものも例へそれが同一目的の建築物を設計するにしても、設計者に依つて違ふのは差支へない事だと思ふ。そして縱ひどの樣な Style に依らふとも、設計者の出そうとする、美なり感じなりが、完全に出し切れた建築物は貴いと思ふよ。

B、今君の言つた建物に感じを出すといふことは甚だ不都合なことと思ふ。僕は君達が學校の drawing にしろ餘り感じ本位の設計圖が氣に入らない。

僕は感じなどと言ふものは、寧ろ建築物の純眞さを傷ける迄だと思つて居る。設計圖の Colowing にしても僕に言はすれば Material の色だけで澤山だ。陰影を附けたり煉瓦一枚一枚色を變へたり、餘りに美本位、感じ本位の Colowing は最もいやなことだ、線の引き初めや、引き終りに、力を入れて力强い感じを出す。そんなことは實際の建物には求

められないのだからね、又たとひ感じ本位の建築物を作るとしても、君なら君のdrawingの感じ其儘を、實際建築物に表はすと云ふことは至難なことだ、何故ならば　設計者と施工者が異ふんだから、異つた人に同じ感じ、即ち設計者と同様な感じを、其儘出さすと言ふことはとても出來なからうと思ふよ。

A、君の說にも一理はある、僕等の遣るdrawingが建物として實現すると考へた時は、そのdrawingに餘り感じと云ふものを出し過ぎて居ては、成る程君の言つた通り設計者と施工者と異ふんだから、僕其儘の感じは恐らく建物の上に出し得ないだらう。然うしたらそのdrawingは純眞の設計圖とは言はれないかも知らない。

最も正直な設計には機械のdrawingの樣な方法が歡迎されるだらう。

然し今僕等の遣つてるSchool drawingからあらゆる感じ自在畵的要素、線の咄さ、等々drawingに對する種々の研究的プロセスを取り除いて何の興味もない、Materialの色と單調な線を配合した設計圖にしたら、そして遣るdesignも、やるdesignも、皆そんな無味乾燥なdrawingばかりして居ると、假定したならば、僕等はそれに堪え得るだらうか!?。

學生時代は習作時代だ。そんな事は言はなくても解つてるだらうが、僕達は少しづゝでもArchitectとしての完成に務めて居る筈だ、その習作時代の作品がSchool drawingだ、勿論その時代の作品が現實の建築としての形を取ると云ふことなどは考へ得らるべきものではなからう。

實現出來ないドローイング!!。

斯く考へれば僕達として當然採るべき方法は、幾分にても現實に近き形式方法。——即ち平面的よりも立體的に斯く考へ、それに對して苦心する、そして少しでも自己の理想に近いdrawingを作り出す。

このことは僕達習作時代の學生に取つて開かれて居る唯だ一つの道であり、それが最も現實に近い方法ではなからう?。斯の意味から、僕は單調な、平面的drawingよりも幾分にても現實に近い感じを出した立體的drawingを求める譯けなんだ。

そして又それが實現するWorking drawingなら、君もよく御承知だと思ふが、それこそ君の御希望通りの、否御希望以上に現に出來て居るじやないかね。

B、それもそうだが、君が立體的に感じを出すとして色々な方法を取り入れた場合、勿論その折りはそのdesignが少くとも君の理想の表れであるならば、君の力一杯のdrawingを遣つてるに違ひない、その場合『僕の表現方法として持つた力を盡してしまつた……』そんな感じの跡に寂しさが湧きはしないかね。

A、僕達は前にも言つた樣に習作時代だよ、designにしろ、drawingにしろ、未だ幼稚なものだ、日に日に僕達は進まなければならない、少しづゝでも立派なdrawingが遣れるやうに務めねばならない、僕達の技倆なども少くとも少しづゝは進んで居る筈だ、その意味から言つても、過去のdrawingには僕達はきつと足らない處、拙い處、愚な處を發見するに違ない。

決して僕達は過去の幼稚な表現方法で滿足するものではないよ、次から次へと、技巧を練り、過去の缺點に氣付く時に建築家としての向上があるのではなからうか？。

B、……

A、君と僕とで話した樣に建築美の解譯に、style に就いてそして又 drawing に於て、全く正反對だつたね。

然し建築家としての君の樣な進み方も一方法なら、僕の樣な進み方も一方法だ。

難しい建築と言ふものに對して、快刀斷麻的の明快な解決を與へる樣な偉大な人が出て來なければ、斯の解釋に對しては色々あると思ふ。

要するに僕等は自己の正いと思ふ方向に進めばよいのだそして此の難解な建築と云ふものに對して唯一の解譯方法を見出すばかりだ。

若しも僕の現在まで歩ゆんで來た進み方が、明日にでも全く間違つた方法であり、君の進み方が本當の道だと解つたなら、僕は躊躇せずに、明日からでも潔よく君の旗下に馳せ參じやう。

然し未だ僕の進み方が、少くとも建築家として正しい方法だと信じて居る間は、何處までも眞直に進んで見る積りなんだ。

一體日本に西洋建築の這入つてから餘りに僅かの歳月だ、日本の建築家はその僅の間に餘りに多くのものを飲み込み過たんだ。西洋に於て幾千年の歷史を辿つて發達した建築物を、僅々四、五十年に消化するとは、何んぼ、何んでも無理な話しだよ。だから日本の各都市には半分胃液になめられた樣な Renasaance や、腹下した時に出る消化不良の糞の樣な、Gothic が澤山あるんだね、外國の國民性其儘の表現の stilish な建築物が、丸で異つた國民性を持つて居る此の日本に持つて來て、つくり調和する筈はないよ。僕はそんな毛唐等の徒らの模倣から拔け出た、眞に我國の國民性にぴつたり當嵌つた鐵筋コンクリートの建築物や、鐵骨造などの耐震耐火の永久的建築物が出來なければ嘘だと思ふね。

近來やかましいセセツションの建築も、この境地を拔け出るための新興運動ではなからうか、若しも其んな意味も何もない只奇矯一點張りの一種物ずきからの style なら寧ろ笑ふべき樣式だらうよ。

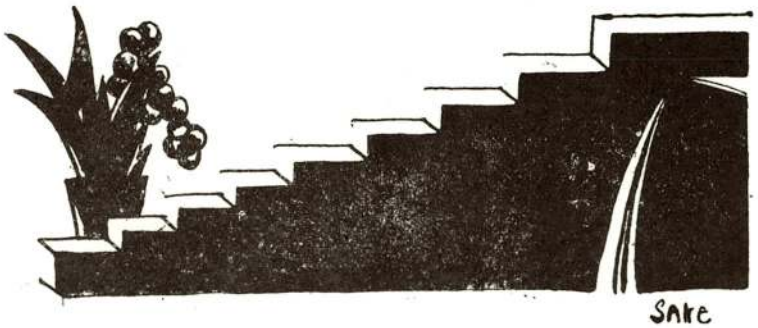
表現派、未來派、立體派、構成派、ダダイズム、超現實派なんでもよい、それ等が新日本を飾るべき建築を產み出す苦闘のプロセスであるならば、僕等は雙手を上げて之に應援すべきだね、苦しみ惱んだ末にはきつと何かが出來ると想ふ。

我國の國民性に合はぬ既成 style といふものから超然と拔け出た、我國獨特の新しい style を構成するために、僕達若い Architect は苦しまねばならない、努力せねばならないのだ。僕達はまつすぐに自己の信ずる道に、正しいと思ふ方向に、進んで行かうではないか。過去の人の企てて居ない世界に、どれだけ僕達の若い力が延ばせるか、それが觀物だらうよ。それが僕達新しい建築家の使命ぢやないだらうか。（完）

（一九二六、八、二）

江商株式會社本店 新築工事概要

ゴーシヨービルデイング



大正十四年一月工を起し翌十五年六月竣工す其期間十八ケ月なり

用的を主としたり

第一階及第二階は江商株式會社本店に於て使用し第三階より第六階迄は一般貸事務室とす

左に其概要を摘記せん

構造及設備の大要

「基　礎」　地盤面以下十七尺八寸堀下げ松丸太杭打込み栗石搗の上鐵筋コンクリート地形を爲す

「柱、壁、梁、床」　鐵筋コンクリート造

「内外壁仕上」　外部は一階以下グラニツト張、一階以上二枚掛長手タイル張、各窓額縁廻りは彫刻テラカツタ張

内部主要なる室は腰羽目付壁紙張り、其他の室はプラスター塗、玄關廣間廻りはテラカツタ及タイル又はグラニット張

「床仕上」　玄關萬成水磨き仕上の敷石、エレヴエーター廣間及會社入口廣間、便所はモザイツクタイル敷

地階食堂、金庫内及同前廣間、理髪室、一階廊下、二階以上のエレヴエーター室はテラツオー仕上

營業室及各事務室床リノリウム敷

各階段及二階以上の廊下YCコルク床緣人造石研出し仕上

「天　井」　プラスター塗、主要なる室は石膏彫刻付塗料にて着色す

「窓及出入口」　外壁の窓全部スチールサッシュにして東南西の三方は鋼鐵製卷上シヤツターを付し入口には鐵扉を付す

室内の間仕切出入口及廊下窓枠類は木製ワニシ塗仕上

階段及エレヴエーター室の出入口には防火戸を付す

金庫の扉は米國モスラー會社製にして書庫倉庫の扉は内地製なり

「階　段」　正面二ケ所、裏一ケ所各鐵筋コンクリート造り中央YCコルク塗、緣人造石研出し眞鍮パイプ手摺を付す

「昇降機」　人員用三基、荷物用一基、リフト一基を設く

「メールシユート」　米國カツトラー會社製を北玄關に設置し各階を通じ投函し得る樣に裝置す

「給水設備」　地階に設備せる電力唧筒にて最上階の水槽へ送水し各所要の箇所へ給水す

「給湯設備」　地階汽罐室にヒータータンクを設備し各所要の箇所へ配給し別に各階湯沸所には瓦斯瞬間湯沸器を設備し飲料用に供す

「便所、洗面所設備」　便所は水洗式にして男女別室とし洋風大便器六個、和風大便器四十一個、洗面器三十七個其他手洗器スロップシンク等を設置す

「汚水排除設備」　便所、排水等總て汚水は悉く

造とす

敷地坪數六百二十八坪餘、間口二十五間、奥行二十五間餘、建坪數三百九十一坪、總延坪二千八百二十坪にして地階共七階建、高さ塔屋上端迄九十尺五寸パラペツト上端迄七十六尺、竣工迄に要せる從事職工數人員約五萬人とす

各室の位置、採光、通風に關しては特殊の注意を拂ひ其他諸般の新設備は事務能率の增進と實

地階淨化槽に導き自然淨化裝置により淸淨なる液體として下水溝に放流する樣設備す

「食　堂」　地階に會社專用幷に一般公衆食堂を設け和洋兩食の設備を爲す

「理髮室」　地階に公衆用として設け米國コーケン會社製廻轉椅子、獨乙製瓦斯瞬間湯沸器等を設備す

「電燈及電動力」　引込線は高壓地下引込とし電氣室に於て變電設備をなし配電盤を經て所要の箇所へ供給す電燈總數六七九燈、コンセントプラグ總數一二九箇所

電動力は各昇降機、給水、排水、排氣、電熱用に供し、電動用變壓器六〇キロワット、點燈用六〇キロワットとす

「電熱設備」　各階湯沸所、地階料理室ニ配管シ何時にても配線の上使用に供す

「瓦斯設備」　地階料理室、理髮室、小使室、浴室、各階湯沸所に配給し地階食堂、料理室には豫備燈として設備す

「電話、電鈴」　局線二百回線を引込み會社用共電式私設交換機八十四回線二座席一基を設備し其他は貸室用又は豫備とす

電鈴は東、北兩入口及室內所要の箇所共三十二回線あり

「換氣裝置」　地階食堂、料理場、金庫、書庫、屋上階に設備せる二馬力の電氣裝置により排氣をなし、湯沸所、小使室及地階食庫には金剛パイプを排氣筒として屋上及煙突內に導き排氣せしむ

「煖房裝置」　地階に低壓蒸氣煖房用セクジョナルボイラー十五連結二臺を据付け各階全部の放熱器に配管し放熱器には獨乙製自動溫度調節器を付す

「避雷針」　塔屋煙突の長針六基、各パラペット突起其他に短針二十八基を設置し之等を全部接續し三箇所の井底に放電する裝置とす

工事關係者

顧　問　工學博士　武田五一氏

強度計算　坂靜雄氏

設計監督　設樂建築事務所

現場監督主任　黑宮五朗氏

現場員　村松英一氏

田中道夫氏

中村英秋氏

工事請負者

株式會社大林組



俳壇

齋藤溪舟選

短夜

短夜の夕顔ふとる肥圃ひ　石浦
明易き草に沈みて缺け茶碗　同
短夜の氷嚢ぬくき病婦哉　同
短夜や雪渓を攀づ先發隊　同
明易き行旅の荷物種々に紫波
短夜の汀に近し常夜燈　同
短夜の一雨過ぎて明けにけり　同
短夜の霧動く見ゆ山の湖　同
よべの雨のいつか晴れそ明易し　稻村
夜泣子の添寢に明けし短夜や　同
短夜を寢そびれ癖となりにけり　同
短夜や汽笛に明けて濱の宿　同
短夜の明けてゐる旅籠障子哉　朧月
麻布團ふみぬいで寢ぬ明易き　同
相宿の氣がね枕や明易き　同
短夜を白けて月の河原かな　東里
短夜の入江の上や月の暈　同
早取りの糸爪の水や明易き　同
天の川桐に流れて明易き　鳳陽
短夜を早や白みけり信貴生駒　同
電燈の笠の埃りや明易き　蒙迂兒
今も尚ランプの溫泉宿明易き　同
短夜の火事沙汰やめば明にけり　左府樓
竹にふる雨の音きゝ明易き　同
帳尻の合ず灯火明けてあり　肝古
よぶ桐に移せし榻も短夜や　同
短夜を松炬して越えぬ宇津の山　李子
短夜の月出てありぬ藻屑燒く　同
短夜の灯消せば走る鼠かな　崖仙
短夜の荒海月は有明けて　同
短夜のハッタイひくも夜なべ哉　明々地
古如意や柱に懸り明易き　同

蝙蝠

蝙蝠や毀ち半ばの濱社　浮鳥
蝙蝠や石切場の洞を出る夕　同
蝙蝠や露臺に出れば街灯る　同
蝙蝠に煙たき風呂の煙り哉　同
橋普請の今日も夜に入る蚊喰鳥　宮人
湯化粧の窓斜かひに蚊喰鳥　同
蝙蝠や柳に纜ひあがりたり　同
蝙蝠や酒造る町の夕暮を　同
子ら群れて辻に遊ぶや蚊喰鳥　稻村
蝙蝠や縫ひやめて出る門の上　同
軒を覆ふ樟黄昏や蚊喰鳥　同
蝙蝠や行水の子を脅やかし　石浦
蝙蝠や露路何事の人だかり　同
蝙蝠やかひば喰ふ馬の鼻嵐　同
細月や蝙蝠のとぶ桑畑　車堂
蝙蝠や砂を流るゝ水夕べ　同
蝙蝠や暗きつぶやき庫に入る　同
抱いてゐる病兒の息や蚊喰鳥　紫波
立並ぶ庫のしゞまや蚊喰鳥　同
奥の間の徠念佛や蚊喰鳥　同
蝙蝠や堰守に夕燒あかし　朧月
蝙蝠や遊びつかれて子ら散りぬ　同
蝙蝠や弟つれて酒買ひに　駒二
蝙蝠や僧訪へば暮の庭掃いて　同

投句を歡迎す

◆課題『初秋』『食ひ進む』（食ひ進む、あるひは食ク進む、これは從來の俳句の季題にはないやうですが、秋涼しくなると、誰でも夏痩せの取返しに食が進むもので す、これを主題として作る事）各題五句まで

◆期日　九月二十日◆發表　十月の本誌上

◆宛先　大阪市北區堂ビル三階日本建築協會

俳話

建築家と句

——試みに一句を投せよ——

溪舟

◎私がこの雑誌の上で俳句を選し始てから、もうかなり永い事になるが、私の遺憾とするところは、佳い句が少いといふよりも、寧ろ投句家が甚だ奮はないことである。私は今、現に四つの雑誌『苦樂』『大毎美術』『活人』『建築と社會』の俳句欄を受持つてその俳句を見てゐるが、本誌は、他の三つの雑誌に比較して、一とう投句家が少いやうである。

◎そこで、右の四つの雑誌の性質について種別をしてみると、『苦樂』は大衆文藝を標傍した娯樂雑誌。『大毎美術』は書畫の機關雑誌。『活人』は修養雑誌。『建築と社會』は建築藝術と社會生活に關する記事を掲げてゐる雑誌である。即ちこのうち『建築と社會』は、何ういふ人達に讀まれてゐるかを考へてみると、私は詳しい事は知ぬが、いづれ建築家あるひはさういふ仕事に携る人、又はそれに趣味をもつてゐる人が多いのだらうと思ふのである。

◎建築は立派な藝術であり、また一面大衆藝術味の豊かなものであるとも考へられる。しかるにその建築の專門雑誌たる本誌の讀者に、俳句に趣味をもつ人が斯やうに少いとは何うも合點のゆかぬ事だといふ外はない。何故に建築家あるひは建築趣味家に俳句黨が少いか、それは判斷し難い疑問である。が、私は思ふにそれは少いのではない、たまたま本誌の讀者には、俳句に趣味はあつても手をつけた人が少いなめではないかと考へるのである。

◎しかし、有ゆる吟咏創作の中で、俳句は一とう入り易い文藝である。やつてみれば誰にでも出來る藝當なのである。殊に建築家の如き、詩に實生活を兼れた仕事をしてゐる人々には、俳句は甚だ適切な興味ある文藝である。

◎私は建築にはマルで門外漢であるけれど、しかしこの仕事は、一つの纏りを要する藝術であらうと思ふ地下室から階上の頂廊にいたるまで、部分々々が別々な趣致、韵致に動いて、騒がしく不統一であつたら、それは決していゝ建築ではなからうと思ふのである。最も佳い建築は、部分々々が綜合的にある諧律の調和均等を有し、詩としても情操が高く、實用としても健全であつてこそ始めて左樣であると許しうるものでなくてはなるまい。

◎俳句は、最もこの均等した照應を必要とし、我々の實生活に觸れてゐる事を必要とするのである。

◎しかし、議論や理屈は何うでもよい。要するに私は、本誌の讀者達に對して、試みに一句でもいゝから奮つて投ぜられたいと切望してゐるのである。句は十七文字といふが、それが十八にならうが二十にならうが、また十五でも十三でも構はない、あなたの眼に映じ、心に觸れた事を短かい形ちに、めちや〳〵に吐き出して、紙に書きつけて送つて下さればそれでいゝのである。

◎うまく云はうとするから難かしいのである。盲ら蛇に怯ぢず、盲ら滅法出放題、ヘタを承知で吐き出したらいいのである。それがそのままでパスするか、あるひは何んな風に訂正されて出るかが、あなた方にとつてもマルで興味のない事ではあるまいと思はれる。

◎今度の課題は『初秋』『食ひ進む』である。

初秋となつたら赤とんぼとんだ
袷着たいと思ふ初秋
ラヂオの唄も初秋らしい
また癒らぬ初秋のカッケ
こんな事位ゐは子供にでも云へると思ふ。そんなツマらん事なら、俳句にはなるまいと云ふ人もあるかも知れないが、私なら斯う直してみる。
初秋の庭に來てとぶや赤とんぼ
初秋の風ざ冷え單衣吹れけり
初秋の籐椅子の冷えラヂオきく
朝草を蹈む足疲や秋立ちぬ

◎『食ひ進む』ならば、
食ひ進むと帶がくひこむ
痩せ男の五杯飯食ひ進む
食い進み食ふとすぐ馬にのる
食ひ進みごろりと寢てしまふ
これを直してみると次のやうになる。
大腹の帶ゆるむるや食進み
新漬や四五ぜん進む病起き
食ゞ進み肥えたる股に鞍試し
食ひ進み空き腹時の晝寢起

◎切に讀者諸子の投句を希望す。

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

（毎月壹回一日發行）

大正十五年八月三十日印刷
大正十五年九月一日發行

大阪市東淀川區中津町一九八番地
發行兼編輯人 江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷人 大阪活版所

大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング
印刷所 日本建築協會

大阪市西區京町堀羽子板橋北
發行所 電話北四二九一番 振替口座大阪三九九七五

特約販賣店 柳々堂書店 電話（土佐堀二四四〇番） 振替口座二〇八四番

ゼネバ國際聯盟建築に關する懸賞設計の綱領並に規定

本冊子印刷總數　四、〇〇〇部
英文出版數　一、一〇〇部（一號——一、一〇〇號）
佛文出版數　二、九〇〇部（一號——二、九〇〇號）
此の飜譯は原本、二七四號に依る。

注意

本誌特別附錄として國際聯盟會館新築懸賞應募規定を邦譯添附せることはそれ程必要であるか無いかは別問題として、この國際的事業を協賛する意味に於て本協會々員諸君の應募の一助とも考へて急に邦譯することゝ致しました。

譯は餘りに忽卒な內に慥へたので、譯語の適切でないとか誤譯もないとは保し難い。若し氣付かれた不合理の點があれば原本を御參照下さい。原本は本協會に備へてあります。

尙原本には敷地の各樣の實寫。測量平面圖及斷面地質圖等が添附せられてゐるのですが、本誌附錄からはこれを略してゐます。若し必要な方は本協會事務所に就て御覽を願ます。

目次

第一章　主要綱領

一、緒言
二、國際聯盟機關の概要
三、位置
四、構内への通路
五、方向
六、地質と基礎
七、建築物
八、事務局の説明
（A）各階段に於ける事務室の説明
（B）委員室
九、總會大會議室、理事會室、並に附屬室の説明
（A）總會大會議室の説明
（B）附屬室
（C）建築費

第二章　懸賞應募者に呈する書類

第三章　應募者より提出すべき設計圖面及び書類

第四章　懸賞規定

第五章　懸賞金、選外賞與、設計圖案の實施、及び展覽

第六章　審査員會の組織並に義務

第一章　主要綱領

（一）緒　言

國際聯盟は、第五回、第六回總會、並に一九二六年三月に開かれた臨時總會々議の決議に基き、聯盟建築の設計圖案懸賞募集を擧行す

聯盟は、聯盟の主要なる諸機關に對し、最近代式（モースト・モダーン）にして、實際的設備を整へるのみならず、尚又廿世紀の平和の理想を其の樣式（スタイル）と外觀（アウトライン）に於て象徴する樣、意匠せられん事を望む。

此の建築物の位置は極めて雄大なる位置なり。最も高き部分は、ローザンヌ街道に接し、ゆるやかに傾斜せる敷地は芝生を以つて蔽れ、或は木蔭多き並木道を通じ、斯くてゼネバ湖畔に至る。湖畔に界する部分は四百米以上あり。湖畔に添ひたる小道は（聯盟の所有に屬し、擴張し得るもの）其處を散策するものをしてモン、ブランの高峰を仰がしめ、奇觀壯觀の快を姿にせしむ。

國際聯盟建築は斯の如き、雄大絶美なる環境の中に、設計せらるゝものとす。

（二）國際聯盟機關の概要

懸賞の對象たる建築物は、ゼネバにある國際聯盟の諸機關を其の內に容るゝに足るものたるべし。尚、是等諸機關をして其の事務を遂行し、且、國際問題を討議するに相應しき靜肅、平和の雲圍氣の中にて會合商議し得るやう考慮すべし。

是等諸機關は左の如し。

（a）總會、國際聯盟の各國代表者は、定期に集りて總會を開く、總會は主として公式集會に大ホールを用ひ、多數の出席者あるべし

（b）理事會、總會よりも遙かに小なるものにして、現在は十人より成る。一年數回、公式に、時としては非公式に會合す。

（c）事務局、國際聯盟の事務を總括し、永久的團體として活動す。諸集會を開催し、國際委員の代表、世界の新聞記者、及び國際聯盟事業に興味を有する人々に應接するを職とす。

（d）國際勞働會議、總會以外の時、定期に會合し、（a）にて述べし六ホールにて會議を開くものとす。

× ×

此等各種の運用すべき建物の各部分は、聯盟の仕事に從事し、又は各種の會合に出席するもの、爲に極めて便利にして、而も秩序を保ち混雜を防ぐものたるべし。殊に各國代表者及び事務局の入口は、新聞記者及び公衆等の入口とは區別し、惑ふことなく各自の場所に出入し得るやう設計すべし。

（三）位　置

一、Aなる位置は總面積六六四〇六平方米にして、茲に國際聯盟建築を建造す。西はローザンヌ街道に接し、東はゼネバ湖に臨み、南はモン、ルポー公衆公園、北はBなるバルトン所有地に界す。

一、バルトン所有地は、Aなる位置と、國際勞働局との中間にありて湖水に近接し、將來聯盟の所有となるべく。其時に於ては、モン、ルポー公園より國際勞働局を包含する全地面に渉りて、ここごとく聯盟の所有に歸し、將來、聯盟の凡の活動發展に伴ひ其の土地を供せらるゝに至るべし。

一、併し現在の所、バルトン所有地には何等の建物を建造し得ず。又此の所有地が何れの時、聯盟の有に歸すべきやも豫測し難し。故に建築物はバルトン所有地を侵害することなく、Aなる位置にのみ建造すべきなり。

一、尤も懸賞應募者は、將來此の所有地か獲らるゝものとして、幷し後日附加建築物がBなる位置に建てられる事あるも、本建築物は其の位置にありて國際聯盟建築物に相應しき表徴の焦點として顯著にして衆目を集むる程のものならざるべからざることを留意せられ

ねばならぬ。從つて懸賞建築物はAなる位置ニBなる位置ニの配合宜しきを顧慮し、Aなる位置に設計すべし。

一、一般の地形、傾斜、土質、並びに排水に關する洋細事項を呈示する敷地の平面圖は應募者に供す。

（四）構内への通路

一、馬車、自動車、徒歩者及び電車に依る訪問者は、通常ローザンヌ街道の入口より出入するものニす。

一、重要なる集會中は、各國代表者の自動車はモン、ルポー公園より出入する事を得、公園は既存の植込中出來得る限り廣く利用して構内に取入れ得るものニす。

（五）方向

建物の方向は應募者の任意ニす。但し注意すべきは、冬季中北東より寒風吹き荒さむ事ニ、湖水を隔て、美しきモン、ブランの高峰を眺め得る事なり。

（六）地質と基礎（ファウンデーション）

應募者は自己の判斷に待ちて該地質に最も適當したる基礎方式（ファウンデーションシステム）を立案すべし。此の爲、ボーリングの結果及び土地の地質學的斷面圖を供す。若し基礎が堅固なる地底に達し得ざる場合は、例へば、應募者は鐵筋コンクリート床（ブラットフォーム）を使用し得。但し此の場合床面の許容應壓力度は約、一平方糎に付き〇、七五耗ニす。

（七）建築物

一、國際聯盟の建築物は二個の主なる部分より成る。廻廊（ギャレリー）又は柱廊（コロネード）により聯ねられたる分離せる二個の建築物に配置するか、若しくは、各部分に出口を有する單一の建築物に配置すべし。

第一の部分は、總會大集會室、理事會室、及び夫等の附屬室よりなる。（大集會室は、國際勞働會議にも使相せらるゝが故に、其の建築物は聯盟書記の事務をして、其の會議中妨げられざるやう配置すべし）

第二の部分は書記の事務室に充つ。

一、是等の建物の二部分は、土地の傾斜を考慮し、地下室（ベースメント）に種々の雜務を取扱ふべき附屬室を建造すべし、

次に是等二部分の第一階（グラウンドフロープ）は出來る丈、同一水準（レベル）の上に建造すべきなり。但し此の條件は任意のものニす。

一、應募者は、設計の實用的價値ニ美觀ニを考慮し、任意に第一階及各階を配置すべし。

一、暖房裝置（ヒーチング）、照明（ライチング）、電動力、換氣（ベンチレーション）、音響（アユースティック）、給水、排水等は一貫せる組織系統にて建物の兩部分に使用すべし。

一、ローザンヌ街道はカントンへの直通要路にして最も多く自動車運輸に使用せらるゝ道なれば、其塵埃を避くる爲、少くとも街道より十五米以上隔て、配置すべし。

（八）常設事務局

一、事務局は聯盟の永久的機關なり。事務總長之を指揮す。現在四八〇の職員より成る。

一、事務局は總會、理事會、委員會の開會に關與し、夫等の集會に必要なる準備を整へ、又豫め聯盟の諸機關によりて採用せられたる議決、決定事項を研究し、且、之を實行するものニす。

一、事務局は多數の課及び管理部ニに分たる。

一、主なる部門は左の如し。

（a）事務總長及事務次長の職務

事務總長は一般事務の指導に任ず。代理總長及び二、三の事務次長の援を受け、聯盟内部の管理及び行政の職を行ふ。

（b）國際局

國際聯盟と國際條約二十四條により聯盟の權能の下に置かれたる凡ての國際局との交渉關係を取扱ふ。又、國際協調會 International Cooperation の國際委員の書記として働くものとす。

(c)政治課

聯盟の取扱ふ國際的政治問題を研究す。

(d)法律顧問

聯盟の取扱ふ問題の立法方面に助言を與ふ。又論文の登錄、出版に關與す。

(e)管理委任並に小數民族部（アドミニストラテブ コンミツシヨンズ ミノリテーズ クエツシヨン セクヨン）

Saar Basis Danzig 自由市等の管理、並に國際關係を有する小數民族問題を取扱ふ。

(f)軍備徹廢課

世界の安寧と軍備徹廢問題とを取扱ひ、又、武裝の下に通商を營むもの、及び民間で軍器を製造するものを監視し、軍事年鑑の出版をなす。

(g)經濟財政課

經濟委員會並びに財政委員會の書記より成る。凡て財政、經濟の問題に關し、理事會並に總會に對し、專門的助言を與ふ。又是等問題に關する定期出版をなす。

(h)保健課

保健委員會の書記より成る。公衆衛生に關する諸問題に專門的意見を附して理事會並に總會に提出し、各國の保健運動と密接なる關係を保ちて此等の問題に關する諸報告を取集め公衆保健問題に對し、世界的に一致したる意見の決論に到達せしむるやう努力する任務を有す。

(i)情報局

新聞社と關係を保ち、記者の爲に記事を提供し、國際聯盟の宣傳に携はる諸機關と聯絡し、又、聯盟に關する輿論を事務局に通告す。

(j)委任統治課

委任統治委員の書記として働く、統治國よりの年報を調査し、理事會及び總會の要求により、被統治國に關する調査準備をなす。

(k)社會問題並に阿片課

兒童の幸福、及び保護に關する社會問題、並に婦人、小兒の賣買禁止、又淫褻なる出版物の禁止、阿片の不正賣買禁止等を取扱ふ

(l)通信及び交通運輸課

通信及び交通運輸の爲に設けられたる勸告委員の書記として活動し、交通運輸問題に關する國際會議を準備し、其決定事項を實施するものとす。

(m)會計監督

聯盟の會計官は財務の指揮、及び豫算の編成、及び出納の監視をなす。

(n)ラテン、アメリカ局

聯盟事務局とラテン、アメリカ共和國との關係を掌る。

一、主なる執行部は左の如し。

(A)常設部

總會、理事會、及び委員會の實際的設備、建築物、備品、給與品の準備、其他下級職員に關する問題を取扱ふ。

(B)要覽、出版、販賣部

記錄の選擇、並に出版、聯盟より出版する書類、パンフレットの印刷、販賣をなす。

(C)飜譯及び通譯部

英語部及び佛語部に分れ、凡て事務局にて出版せらるゝ書類を是等公式國語に飜譯す。又總會、理事會、協議會、委員會にて通譯をなす

(D)記錄部

受信、記錄、聯盟書類の保管に任ず。

(E)分配部

聯盟國に公式文書を送附し、總會、理事會、委員會に必要なる書類の分配をなす。

(F)速記タイピスト溜り

六十人自至八十人より成る。事務局の速記タイピストの働きをなす。

(G)複製部

聯盟の公式文書を複製す。

(H)圖書部

代表者、事務員、並に國際問題を研究する人々に閲覽せしむ。

(A)事務局の配置(各階別)

一、地下室(Bosement)

(a)書類の保管室(少くも一〇〇〇平方米以上)

(b)外套室(Cloak Room) 男百人、女二百五十人——三百人分を收容し得るもの。

(c)洗面室、便所等

一、第一階(Ground floor)

(a)分配部支部(Distribution Branch)(21)

(b)內部仕事場(Internal services) 郵便、電信、銀行等。

一、第二階First floor)

(a)事務總長室(Secretary-general office)(1)

(b)代理總長室(Deputy Secretary-general office)(2)

(c)事務次長室(Offices of the Under Secretary-general)(3)

內部管理を掌る。

(d)事務次長室(4) 國際局の事務を應掌す。

(e)事務次長室(5) 政治課の事務を應掌す。

(f)ラテン、アメリカ局(Latin-America Office)(15) 二階とするも可。

一、他階

(a)法律顧問室(Offices of the Legal advise)(6)

(b)管理委任並に小數民族問題部(Administrative Commissions and minorities question Section(7)

(c)軍備撤廢課(Disarmament Section)(8)

(d)經濟財政課(Economic andFinancial Section)(9)

(e)保健課(Health Section)(10)

(f)情報局(Information Section)(11)

(g)委任統治課(Mandates Section)(12)

(h)社會課(Sosial Seetion)(13)

(i)交通運輸課(Transit Section)(14)

(j)財政管理課(Financial Administration)(16)

(k)內部仕事場(Internal Services)(17A及び71B)

(l)要覽、出版、販賣部(Precis-writing, Publishment and Sales Department(18)

(m)飜譯通譯部(Interpreters and Transloters Department)(19)

(n)記錄部(Registry)(20)

(o)圖書室(Library)(22)

(p)速記タイピスト溜(Pool cf Short hand-typists)(23)

(q)複寫部(Duplicating Department)(24)

(r)事務員室(Room, of the use of the Staff)(25)

(s)食堂(Restaurant)(26)

(t)會計監査員(Auditors)及び技師室(Experts)(28)

(注意)

各階には小書記室、手洗、便所等を充分用意すべし。

各部各室間、又大會議室と事務室間は最も迅速に交通し得るやう昇降器、荷物昇降器、空氣輸送管等を應用すべし、又重要書類の發送及受信、及び急使の爲出來る丈本玄關と異る入口、或はコートヤード構庭を設くべし。又煖房、及び電氣係りの溜りを同上入口或はコートヤード構庭を使用すべし

(B)委員會室(Commites Room)

十一の委員會室を要す。其中六室は大集會室の豫定位置に置き、他

の五室は出來る丈、左の條項に當てはまる樣配置すべし。

(a)總て事務局の第一階に設く。

(b)總て、事務局及び大集會室の中間の第一階に設く。

(c)二室を事務局の第一階に、他を事務室と大集會室の中間の第一階に設く。

(d)二室を事務局の第一階に、他を大集會室の第四階に設く。

(九) 總會大會議室、理事會室並に附屬室

(A)總會大會議室(Asembly Hall)

一、總會大會議室は、其の形狀は任意なれども多人數を收容し得るものたるべし。但位置は第一階とす。

一、總會大會議室の音響設備は可及的完全を期し、換氣、照明設備を完備すべし。但プロポーションに注意すべし。

一、配置は次の如し。

イ、中央の部分は、階段形に、或は傾斜せしめ、代表者四〇〇を收容し得るものたるべし。又代表者は机に二人づゝゆつくりと座し得る樣、設計すべし。(スケッチ參照)

ロ、議場の正面に議員席を見下し得る高座(Dias)を設けて議長、事務總長、通譯席とす。

ハ、以上の座席の左右には是等の取次用達をなす多數の書記あるものとす。(但、左右に各十人の座席及机を配置すべし)

ニ、議長の後側には四五脚の椅子あるものとす。(但、机不要)

ホ、議長席の直下には、登壇(スピーカー)者の立つべき、又は投票すべきプラット、フォームを有す。

ヘ、必要の時は登壇(スピーカー)者に近く委員會代表者並に通譯の着席する事あり。(夫等委員の報告について討議する間は委員代表に机を備へ、且つ通譯者四五人にも机を備ふ)

ト、此プラット、フォームは代表者席より二つの階段を登りて容易に達し得るを要す。

チ、此のプラット、フォームの脚下に、速記者と言傳者(ベルパサム)と(約十人)の爲にテーブルと机(デスク)とを置き、議長席の背後、及び總會會議室の外部の諸室との通交を容易ならしむべし。

一、職員席(Official platform)(42)

高さは議場の最上列と同一になすべし。之を左の部分に分つ。

(イ)議長席に對して對稱(Symenetty)なる四ケの部分。議長席に近き二部分は、事務局の書記の爲に(左右五十人宛)他の二部分は代表者の書記の用に供せらる。

(ロ)議長、及び事務總長の友の爲の二ケの部分(Enclosure)

(ハ)外交官席、最高處にあるべく二百人を收容し得るもの。

一、新聞記者席(Press Gallery) プラット、フォームの上方に置き、六百名の記者が自由に心地良く執筆し、又會議中容易に着席、退場し得るものたるべし。

一、公衆席(Pobbic gallery)(42) 千人を收容し得るものにして、プレス、ギヤレリーの上部に置き、會議の傍聽を容易ならしむべし總てギヤレリーは廣く便利なる廊下に通ずべきなり。

一、總會大會議室に隣接せる附屬室

代表者が自由に、心地良く漫步し得るギヤレリー及びロビー(41)を配置すべし。其處にて彼等は書記、新聞記者等と談笑し得るなり。

一、他の附屬室は左の如し

(イ)廣き議長私室(Private)(43)

議長席より自由に出入し得るもの

(ロ)事務總長私室(44)

(ハ)廣き書記員私室(45)

(ニ)議長、事務總長に隨行する人々の爲に數ケの小室(46)

(ホ)スピーカの演壇の下に言傳者(ベルパサム)及び書記員の爲の廣き場所(Office)(46)

(ヘ)便所、化粧臺、個々の手洗鉢等(47)

一、右の他左のものを必要とす。

第一階

(イ)委員室、長方形の大委員室(二ツ)二室共に二百平方米の大さのもの。議員の出入口よりも寧ろ公衆の入口より達し得るギヤレリーを設け、百人を收容し得るものたるべし。(50)

(ロ)電信室、廊下又はロビーの端に設くべし。

第二階

一、理事室、湖水に面せる處に設くべし。

公式理事會議室(51)は長方形にして三方をギヤレリーとなし、少くとも百二十人を容るゝに足るものたるべし。之は一般公衆の爲に用ひるものとす。

理事長室(53)

非公式理事會議室(52)

一、委員室、公衆室に近く設く(54)

一、新聞記者室、記者ギヤレリーに近接して設け、十五個の電話室を備ふ。電話室は小さきテーブルと電話裝置を備ふ。(55)換氣を良くし、永居するも不快を感ぜざらしむる事、並に各室共完全なる防音設備をなすべし。

一、電信室(56)

一、無線電信室(57)

一、新聞記者控室(58)

一、小室、數個(59)出來得れば約二十平方米の室、二十室を設けたし

第三階

一、委員室、公衆室に近接して三室を設くべし。出來得れば湖面に面すべし。(60、61、62)

一、大事務室(large office)(63)

一、小事務室(Small office)(64)

第四階

一、休憩室(65) 湖水に面して設くべし。而して總會に携はる人々が容易に出入し得るやう配置すべし。

一、厨房、食器置場、兩便所等(66)

地下室

一、雜用室(General Services) 代表者用入口(29)及び他の入口(33、34、36)に附屬せる外套室(31、35、37)及び、洗面所、便所等(39)又公衆控室(32)階段、(30、34、36)及び昇降器室。

又總會々議に必要なる書類の倉庫(38)を設け光線及び乾燥とに注意すべし。

一、玄關、入口等。議員の出入する玄關は大ホール(40)に通じ、其入口の側には外套室(31)及び議員の用に供する室を備ふ。此部備は人員及荷物用の昇降器を設け、又廣き階段を備ふべし。

(B)附屬室

建物に近接した道路の交通を整理して、待合ふ諸車に場所を與へる爲、Aの位置にあるローザンヌ街道に接する構内に、自動車二十五臺自轉車百臺を收容し得るガレーヂを有する附屬舍を建設すべし。

又此のガレージには、自動車運轉手の爲に待合室を設け、監督世話係りの爲に設備を整へ、更に約七十五臺の自動車を置くべき戸外置場又はギヤレリーを設く。

此附屬屋は出來る丈小さくして、本建築物及び其周圍の概觀を妨げざる樣設計すべし。

(C)建築費

建築費は總額瑞西貨一、三〇〇、〇〇〇フランを超過すべからず。此の内に設計者の報酬及び煖房裝置、電氣裝置、冷溫水裝置、昇降器換氣裝置等の設備費全部を含む。

第二章 懸賞應募者に提供せらるゝ書類

國際聯盟國諸政府は、此の說明書を一定數無代價にて受くる事を得

更に送本を望まるゝ時は、一部瑞西貨二〇フランにてゼネバ國際聯盟委員に申し込まるべし。

應募者に提供する書類は左の如し。

(一)新しく所有地となりし國際聯盟の位置を示せるゼネバ市の配置圖。

(二)建築用敷地圖、縮尺五百分の一

(三)ロの附錄地質

(四)地質斷面圖並にボーリング圖

(五)寫眞十枚(敷地を各様に寫寫せるものなり)

(六)必要なる各室表

(七)ヂスクの配列を參考の爲に示せるスケッチ

(八)定價表を添へたる仕樣見積書

(九)瑞西建築協會の採用せる建築設計報酬規定

(一〇)國際聯盟組織の說明書

(一一)應募者の提出すべき(a)プログラム及び(B)圖案發送の期日表

(注意)

新しく建造せらるべき位置に現存せる建物、樹木等は、取拂はるゝものなり。

第三章 所要圖書

配置圖　縮尺五百分の一

各階平面圖　縮尺二百分ノ一

立面圖(三方)　縮尺二百分ノ一

同(湖水に面せる側)　縮尺百分ノ一

斷面圖(縱、橫四)　縮尺二百分ノ一

總會議事室詳細圖

平面圖……一、　縮尺五十分ノ一

斷面圖……縱、橫二、　縮尺五十分ノ一

透視圖……二、

(中一は鳥瞰圖)

見積書及仕樣書(應募者に供したる定價表に依り採算せられたる)

說明書　意匠の概要、構造、煖房裝置、並に換氣裝置

(タイプライターで記せ)

國際聯盟の現行規則には二つの公式國語(英、佛)を使用する規定あるも、圖案原作者の識別を拒ぐ爲、本懸賞に於ては、只佛語のみを以つて、圖案に記入する規定こす。

說明書は、佛語の經驗なき時は英語にて書く事を得。此の場合、英語にて書きたる說明書は聯盟の書記によりて佛語に飜譯せられ、之を原文に代へるものこす。之は審査委員會に提出すべき書類を同一國語にせんが爲なり。

(注意)

設計圖は裏張して、インディアン、インキで墨入の事。

斷面圖及立面圖は線仕上げ、或は單彩仕上げの事。

透視圖の仕上げは任意こす。

寸法はメートル米法の事。

第四章 懸賞規定

國聯際盟國內に居住せる建築家は總て此の懸賞募集に應募する事を得。但、締切期日は一九二七年一月廿五日。

應募建築家並に同建築事務所は、一個以上の圖案を提出し、又此の懸賞綱領並に規則に違反するスケッチや圖面を送附し得ざるものこす

若し圖案が、此の規則に照して不完全のものなる時、又審査員に於て、其の設計を實施する場合呈示せられたる明細書にて施工出來ずと見なしたる場合は、審査を受くる事を得ず。

應募者は左の事項をなすを要す。

(a)提出されたる圖案は自己の製作である事、又自己若しくは自己直接の指導の下に製圖せられし事の宣言書に署名の上添附すべし

(b)應募者は施工監督の技術者たり得る證明を爲すべし。

(a)にて述べし申告書には應募者のクリスチヤン、ネーム（受洗せし時教會より與へられたる姓名）Ser Name, 及び Style（尊稱）又正確なる住所を記入すべし。

此の說明書は(B)にて要求せし證明書と共に狀袋に嚴封し、表には原作者、或は合作者の選びし符號番號（Ideutibications Number）及び『申告』の外、記載すべからず。而して符號は六自至八の字數よりなるものたらざるべからず。又符號番號は各圖面の右手下に同一に記入すべし。又見積書、設計說明書も同樣なるべし。署號、番號ならざる符號を記入すべからず。

見積書、設計說明書は同一の狀袋に封入し、『見積書』『設計書』及び符號番號を記入すべし。

但し符號番號はいづれも其大さ、長さ四センチメートル、高さ一センチメートルを超過すべからず。

凡ての設計圖、宣言書、證明書、見積書、說明書は一つに取纏めて小包となし、荷札には明拆に『懸賞建築設計』と書し、ゼネバ國際聯盟書記官長宛に送附すべし。

建築事務所より提出したるものは、事務所の名の他、原作者の名を記入すべからず。此の場合、事務所の記號、印（スタンプ）、ジール（封緘）を小包に捺印する事を得、但、何等の識別し易き記號を記入すべからず。

小包郵便物は、懸賞に供せられたる時日表に從つて送附せらるべし

國際聯盟事務局に到着したる時、各圖案に登錄番號を附し、小包の外皮に記入す。

開封する時、同一登錄番號の印刷せる小紙片を各圖面及び書類の符號番號に貼付す。

國際聯盟の職員、審査員及び準審査員は此の懸賞に加はる事を得ず

左の項目に相當するものは受附ず。

(a)規定の時日までに到達せざるもの

(b)圖案、小包或は封筒紙に、姓名、暗號其他應募者を表はし得るが如き原作者の記號を記したるもの

(c)圖案にして、枠づけられ、又はガラス(garzed)張りせられたるもの

圖案にして左に該當するものは應募資格を認めず。

(a)添付せる宣言書の不正を發見したる時。

(b)製作者にして己が作者なる事を示し、又は直接或は間接に審査員の判定に影響を及ぼすが如き行爲ありし時

此の懸賞募集は國際的性質を帶び、且應募者の質問に應ずる時日無き爲、此の綱領規則の外、他の文書または特種の說明書を供し難し。故に應募者は此等の事を能く了解して此綱領規則の條件に添ふものたらしむべし。

國際聯盟は本綱領に關し、事務總長を代表者として應募者と交涉せしむ。

第五章　懸賞金、選外賞金、設計圖案の實施、圖案の展覽

一、審査員の審査の結果、最優秀なりと認めたるものに、總額瑞西貨一六五、〇〇〇フランを左の等級に從ひて贈與す。

第一等賞	三〇、〇〇〇
第二等賞(A)	二五、〇〇〇
同　(B)	二五、〇〇〇
第三等賞	二〇、〇〇〇
第四、五等賞	一五、〇〇〇(宛)
第六、七等賞	一五、〇〇〇(宛)

此外、選外佳作に對し、總額瑞西貨、二五、〇〇〇フランを審査員の査定に從ひ分與すべし。但、此場合、一人二、五〇〇フラン以上

す。

一、若し懸賞金の內、之を得るに足るもの無き時は、其の金額を選外賞金に追加すべし。

一、第一、第二、第三等の賞金を得たる當選者の圖面、見積書、圖案說明書は國際聯盟の所有に歸するものとす。

一、聯盟は又懸賞金、又は選外賞金を得たる圖案を出版するの權利を有す。

圖案の實施

一、聯盟は第一等に當選し、聯盟に依つて採用せられたる圖案の原作者は對し、彼の圖案の修正及び變更を要求する事あるべし。

一、聯盟にしてその圖案の施工又は決定を見ず、施工に要する詳細圖の製作せらるゝ以前に、作者と商議を續くることなき場合は、作者は瑞西貨五〇、〇〇〇フランをその賠償として得るものとす。

報酬

一、建築施工に選れたる建築家（仕拂はるべき報酬は、建築家が認めたる建築總工費（設備費を含む）の五パーセントとす。

一、此等は、建築家の製作せる總てのものを含む。瑞西建築協會の規準に依るものとす。

圖案の公衆展覽

一、懸賞金、並に選外賞金を贈與したる後、總ての圖案は二週間以上公衆の展覽に供す。

一、懸賞當選者の名は彼等の圖案に記入せらるべし。

一、選外賞與を受けたるもの、名は、もし要求なき時は公表せざるものとす。

一、展覽會後、賞金を得ざる圖案及び其嚴封せる書狀は、事務總長の代理者に依り秘密に開封す。

一、若し必要なる時は、展覽會期日を延長する事あるべし。展覽會後第一、第二、第三等當選者の外は、圖案を聯盟の負擔にて原作者に返附すべし。

第六章　審査員會の組織並に義務

一、審査員會は左の九名より成る。

M. H.P. Berlage (the Hague)
Sir. John J. Burnet (London)
M. Charles Gato (Madrid)
M. Joseph Hoffman (Vienna)
M. Victor Horta (Brussels), President.
M. Charls Lemaresquier, (Paris)
M. Karl Moser (Zurich)
M. Attilio Muggia (Bologna)
M. Ioar Tengbom (Stock holm)

一、審査員の中、止むを得ず審査に關與出來ざる時は、該當審査員と同國の補缺審査員をして其の位置を代らしむ。

一、補缺審査委員は

M. W. Kromhout (RenKum-Arnherin)
Mr. H.S. Good hart-Rendel (London)
M. Pascual Bravo (Madrid)
M. Engen Stein bof (Vienna)
M. Franz de Vestel (Brussel)
M. Gabriel Heraud (Paris)
M. Carmille Martion (Geneva)
M.G. B. Milani (Rome)

M. Erik Lallerstedt (Stock holm)

一、審査員會の記錄は、聯盟の事務總長の任命する書記之をなすものとす。

一、審査員の義務左の如し。

(a)懸賞募集の綱領を作る事

(b)圖案を審査し、明細書の條件に適ひ、技術上、又施工上最滿足と思はれるものを選擇する事

(c)當選者並に選外佳作者を決定すること

(d)審査の結果、實施すべき案を決定する事

(e)事務總長より國際聯盟諸政府委員に出版交附すべき報告書の作製

(f)懸賞應募者の姓名を他に漏さぬやう保證する事

一、斯くて審査實行委員は懸賞募集締切後小包を開封す。

一、圖案が開封せられた時、實行委員は見積書、說明書を封入したる狀袋を開き、各書類に頭文字を附す。

一、實行委員は最終の審査が終了するまで作者の姓名を封入せる狀袋を封緘のまゝ保管す。而して鍵のある室にて凡ての圖案を一人々々熟視精査するものとす。

一、審査に關係なき人、又聯盟の職員にあらざるものは、事務總長に依つて審査委員會の許可を受くるにあらざれば、該室に入ることを得ず。

一、審査委員會は其室の條欵を定むる權能を有す。又事務遂行上必要なる處置をなす事を得。

一、審査委員會の決定は最終的のものなり。

一九二六年四月十七日

ゼネバ　國際聯盟

要求番號	記事	番號	大約ノ面積	他室との連絡	注意事項
46	議長及書記官長の屬官用の小室(適當に)	×	各室20sq m		
47	便所、化粧室、手洗所及個人用手洗器				
48	發言者の壇の下に書記官及速記者事務の充分とり得る場所	1			Ad48. 此室は中二階上に設けられる要あり。
49	受電事務室	1	25sq.m	41	Ad49. 一般廊下の一端に設くべし(41)
50	百人の許容席を有する二階公衆席(Public galleries)を持つ委員室 (Committee rooms) (記事參照)	2	200sq.m.each		Ad50. 是等は潮水側より出來得る丈け離れて設け、若し可能なれば代表用の他に今一つ出入口を要する。
	二 階 (1st. Floor)				
51	二階公衆席を有する公用理事會室 (Room for the public meetings of the Council) 但し公衆席數百廿席	1	20m×10m.		Ad51 } 湖水側
52	理事秘密會議室	1	80sq.m.	51～53	Ad52 }
53	理事會議々長私室	1	30sq.m.	52	
54	委員室 (Committe room)	1	140sq.m.		Ad54. 公衆の便なる樣。
55	50個の電話に接し得る廣い廊下、各電話機には小形机を設備し得るに充分なる廣さを有し、各室共各已に通氣孔を有し、音響の漏れざる隔壁を設備すべし。			}	Ad55. } 議事堂裏傍聽者の使用し得る室なるを要す 〃 56. }
56	電信局用の室	1	50sq.m.	55	
57	無線電信室	1	40sq m.		
58	傍聽者用記事室	1	180sq.m.		Ad58. 電話室と反對の側に
59	適宜の人數の入り得る小事務室	20	20sq m.each		
	三 階 (2rd Floor)				
60	委員室 } 長方形とする	1	200sq.m.	}	Ad60. } 公衆に便なる樣出來得るなれば湖水側に
61	同 }	1	180sq.m.	}	〃 61. }
62	委員室 }	1	160sq.m.	}	〃 62. }
63	事務室	1	80sq.m.		
64	豫備事務室 (剩餘に生じたる部分出來る丈け多くにとる)	×	30～40 sq.m each		
	四 階 (3rd Floor)				
65	休憩室(Refreshment room)	1	200sq.m.		Ad65. 湖水の側に。若し可能なれば、バルコニー (ロッジヤ、ヴエランダー、テレース) を附する望む。
66	休憩室には臺所、同物置(Sculleries)、流場、其他附屬設備一式	×			

一般注意事項 { 各階共男子用及婦人用手洗器、洗面所、便所等の設備を要す。應募者は各階共 } { 各室及事務間に生じたる剩餘部の割當ては40より少くあつてはいけない。 }

要求番號	記事	番號	大約の面積	他室との連絡	注意事項
	地下階 (Basement)				
	一部は鋪道 (Pavement) に一部は鋪道下 (即ち半地下階の意) にとる。				
29	聯盟各國代表委員用の主要玄關	1			Ad29 二個の昇降機 (Lift) を設備すべし而して各機共乘員十人定員とす。各階 (地下室共) の主要出入口に近く設くるものとす。
30	グラウンド、フロワーの廣間と連絡ある主階段を備ふる廣間 (Entrance hall)	1			Ad30. 是等の二つの廣間 (halls) は一つの廣間に連接 (United) せられる要がある
31	クローク、ルームは 600 人が使用し得る樣充分の大きさとする (聯盟各國代表用)	1			
32	公衆用待合室	1	100×120 q.m		Ad32. 訪問者用 (Visitors)
33	職員 (Staff) 用出入口	1			Ad83. 各階用としての二個の昇降機を設備すべし
34	新聞記者席 (The press) のある階と直接の聯絡ある階段を有する記者用の出入口	1			
35	新聞記者用クローク、ルーム (600人用)	1			
36	公衆用ガレリーに直接通ずる階段のある公衆用出入口を一つ又は二つ	1~2			Ad36. 總ての出入口は此建物に入る人々を監視し得易き樣配置すべし。
37	會議に入る公衆用クローク、ルーム (1,000人用)	1			
38	能く干燥し、通氣良好なる物置として使用し得る部屋を出來得る丈け多くとること。	×			Ad38. 建物の後部に書類運搬用の二個の昇降機を要す。
39	男子及婦人用手洗所、化粧室、便所、廊下及事務階段を充分に取設くること。 注意 是等の室は修理其他のため外部から容易に近寄り得る樣配すること。	×			
	一階 (Ground floor)				
40	主なる大廣間	1			Ad40. 記事 description 及A 30參照。
41	Galleries or Lobbies	×		42 40 49	
42	プラツト、フォームのある議事堂 (Assembly hall)	1		41	Ad42. 詳細記事參照、各廣間の扉は兩開きとなすべし。
43	議長 (President) 用大私室 (Large private room)	1	70sq.m.	41—42	Ad43. etc. 廊下 passage は事務室 43. 44. 45. 及 46 を通じ一般廊下、Corridor) 或はロツビーと連絡する要がある。
44	書記官長 (Secretary general) 用私室	1	40sq.m.	43-42-25	
45	書記官 (Secratariat) 用私室	1	70sq.m.		

N°	Description	Number of rooms	Number of units	Area in sq m	Floor	Communicating with	
	Basement						*Perhaps on two levels, one level with the pavement and the other lower. In addition to the area intented for cloak-rooms, water closets, lavatories, etc. and possibly for storage of library books, the remaining space (at least 2000 sq m.) should be arranged so as to be utilised as store rooms for documents belonging to the Distribution service*
1	Secretary General	8	11½	253	1st		1 1 1 1 1 4 b LM 1 1½
2	Deputy Secretary-General	7	8	176	1st		1 1 1½ 1 1½ LM 1 1
3	Under Secretary General in charge of Internal Administration	9	10	220	1st		1 1 1 1 1½ 1½ LM 1 1 1
4	Under Secretary General & Director of International Bureaux Section	10	10½	231	1st		1 1 1 1 1 1 1 1½ LM 1 1
5	Under Secretary General & Director of the Political Section	14	15	330	1st		1 1 1½ 1 1½ LM 1 1 1 1 1 1 1 1
6	Offices of the Legal Adviser	20	21	462	1st Floor if possible otherwise 2d		1 1 1 1 1 1 1 1 1½ LM 1 1 1 1 1 1 1½ 1 1
7	Administrative Commissions & Minorities Questions Section	14	14½	319	Middle floor(s)		1 1 1 1 1 1 1½ LM 1 1 1 1 1 1 1
8	Disarmament Section	12	13½	297	Middle floor(s)		1 1 1 1 1 2 1 1½ LM 1 1 1 1
9	Economical & Financial Section	38	39	858	Middle floor(s)		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1½ LM 1 1 1 1 1 1 1 1½ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
10	Health Section	38	47	1034	Middle floor(s)		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1½ 1½ LM 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 1 1 4
11	Information Section	36	37½	803	Ground floor or Middle floor(s)		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1½ 1 1 1 1 1 1 1 1 1½ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1½
12	Mandates Section	8	8½	187	Middle floor(s)		1 1 1½ 1 1 1 1 1
13	Social Section	14	15	330	Middle floor(s)		1 1 1 1 1 1 1½ LM 1 1 1 1 1 1 1 1½
14	Transit Section	11	11½	253	Middle floor(s)		1 1 1 1 1 1½ LM 1 1 1 1 1
15	Latin American Office	4	6	132	1st Floor if possible otherwise 2d		1½ 1½ 1½ 1½
16	Financial Administration	16	24½	539	Middle floor(s)	3 17	1 1 1½ LM 1 1 1½ 1 4 1 1 2 1 4 1½ 1 1
17	Internal Services a) Office of Chief of Internal Services & Personnel Department b) c) General Services	10 12 7	10½ 13½ 10	231 297 220	a) Middle floor(s) b) Ground floor c) Upper floor(s)	3.16	a) 1 1 1½ LM 1 1 1 1 1 1 b) 1 1 1 1½ 1½ 1½ 1 1 1 1 1 c) 1 1 4 1 1 1 1
18	Précis-writing, Publishing & Sales Department	25	28½	627	Upper floor(s)		1 1 1½ 1 1½ 1 1 1 1 1 1 1 1½ 1 1 1 1½ 1½ 1 1 1 1 2
19	Interpreters & Translators' Departm't a) English b) French	12 12	12 12	264 264	Upper floor(s)	23	a) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 b) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
20	Registry	9	24½	539	Upper floor(s) or Ground floor		1 1 8 d 2 2 2 4 1 3½
21	Distribution	16	25½	561	Ground floor		1 1 1 1½ 1½ 1 1 2½ 1½ 2½ 1½ 3 a 1 1½ 3 a
22	Library			3000	Top floor or Ground floor		*1 room (1 unit) for the Librarian. 1 room (1 unit) for the Assistant Librarian. 2 rooms (2 units each) for newspapers 3 rooms (2 units each) as staff offices. 1 large room (400 sq.m.) reading room, 2400 sq.m approx for the Library proper*
23	Pool of shorthand-typists	27	29	638	Upper floors	18 19 24	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2
24	Duplicating Department	14	19	418	Upper floor(s)	23	2 4 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
25	Rooms for the use of the Staff	6	6	132	Upper floor(s)	26	1 1 1 1 1
26	Restaurant	6	19	418	Top floor	25	10 f 2 2 2 1½ 1½
27	Committee Rooms	5	40½	892	Ground floor or Assembly Hall		9 e 3 a 8 a 8 d 7 c
28	Auditors and Experts	10	10	220	Middle floor(s)		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

注意項目

上記表示せる各室の單位廣さは：4m.×5.50m.＝22メートル角。

但し、上記表示の一室は長さ 5½m.（エレヴエーションに垂直に）幅 4m.12 にして、長さ 5,50m.幅が單位廣さよりも大なる室の場合は、例へば 1½ 單位（unit）＝5,50m×6m; 2（units＝5,50×8m; 3 units＝5.5om.×12m.

以上の單位廣さ中には壁の厚さを含まない。それ故に、構造上必要なる壁の厚さを以上の寸法に加へて設計する要がある。

以上表示せる寸法は要求せる各室の廣さを示せるものなれ共次の場合に限りこれを例外こす。

(a) 號中一室は約 9,00m.×7,33m.
(b) 號中一室は約 8.00m.×11.00m.
(c) 號中一室は約 10,00m.×16,00m.
(d) 號中一室は約 9,00m.×19.00m.
(e) 號中一室は約 9,00m.×22,00m.
(f) 號中一室は約 14.00m.×16.00m.

表中 LM こ表示せる室には手洗所（aprivate lavatory）及造り付け煖爐（a fire place)を取り設くべし。

The Distribution Service（配達事務取扱所）は Ground Floor に取設け、印刷事務支所（Duplicating branch）は約 1,00m.×1,25m. の大さを有する荷揚機（Lift）の設備を附屬せしめておかなければならない。各階に於て、以上表示せし單位廣さよりも小さな室が出來たなれば、それは給仕室（Messengers）こして取つておけば好い。そして、是等の室は約 1,00m.×1.25m. の大さを有する荷揚機の傍に取る要がある。

追加事項 No1. 室は音響や車馬の雜踏から出來得る限り離れて設けなければならぬ。
No.11 室は、直接又は間接に議場內（The press）こ連絡便宜なる樣設けなければならぬ。食料類（Provisions）は No11室の事務室こ新聞記者專用の直接せる出入口を設けて、その他の事務室この雜踏を避けねばならぬ。
No20. 室の事務は約單位一室の廣さに於て防火構造こせねばならぬ。
No21. 室は同室下の地下室こ共に配達事務室(Distributionservice)に當てるものこす
No27. 室の詳細は綱領（Programme）を參照すべし。

ANNEX VII.

SUMMARY OF ESTIMATES AND PRICES

(Competitors are requested to use this form in drawing up their estimates.)

Annex VII は見積書であります。競技應募者は、その應募圖案に添附すべき見積書を、この形式に據ることになつて居ります。

形式は日常我々の使用してゐるものと大差はありません。例へば次の通です。

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
番號	仕事の種目	數量	單價	小計	摘要

尙末尾に應募者はその圖案の建築物の全容積（地下室及屋上階共）の立方米を求め、その數量を記入し、且つ、その立方米當りの單價を附けておかねばなりません。

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	I Earthwork				
1.	Excavations in open, in black mould, gravel and sandy soil, transport and spreading above, over a radius of 100 meters . . . . . m³		6.—		The prices are fixed in Swiss francs.
2.	Excavations of trenches for foundations and runways, at all depths and in all soils . . . . . m³		10.—		
	Earthwork Total				
	II Masonry				
3.	Cement concrete for foundations: m³		52.—		
4.	Concrete for walls of cellars and basement or basements without plastering . . . . . m³		65.—		
5.	Rough masonry in local stone faced with hydraulic lime and without plastering . . . . . m³		55.—		In French Switzerland, walls are usually built from the foundation upwards in rough masonry, local limestone is usually employed. This method is cheaper than building in concrete or brick. If the frontages are faced with cut stone it is recommended that brick or concrete blocks be used for filling up behind the cut stone.
6.	Extra for cement-mortar for masonry work . . . . . m³		2.—		
7.	Filling up in brickwork behind the cut stone. . . . . m³		60.—		
8.	Brickwork for piles, recesses, chimneys, etc. . . . . m³		90.—		
9.	Brickwork . . . . . m³		70.—		
10.	Masonry in concrete blocks or slabs m³		90.—		
11.	30 cm. perpenders in plastered brick m³		30.—		
12.	15 cm .. .. .. m³		20.—		
13.	12 cm .. .. .. m³		16.—		
14.	Flint smoke flues in the thickness of the walls . . . . . m.l.		25.—		
	Carried forward . . .				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	Brought forward . . .				
15.	Chimney stacks outside roof including coping . . . . . m³		300.—		
16.	Cement facing for front of masonry work against soil . . . . . m²		6.—		
17.	Making damp course around walls flush to soil with stone packing m²		30.—		
18.	Fine lime plastering for all interiors excepting perpenders . . m²		2.—		
19.	Plastering the front walls . . . m²		5.—		
20.	Cement plastering of damp places m²		10.—		
21.	Cement plinths flush to wall for basement interiors . . . . . m.l.		5.—		
22.	Bottoming stone flooring and coping for the basements and interior well floors . . . . . m²		15.—		
23.	Building of coal shoot the whole job				
24.	Dry tan spread under floors to a depth of 6-7 cm . . . . . m²		1.50		This item may be tan or scoria.
25.	Laying of cut stone for whole of basement and floors . . . . . m²		30.—		
26.	Building of staircases in cut stone or artificial stone . . . . . m.l.		10.—		
27.	Cement under pavement . . . . . m²		5.—		
28.	Boring of holes, various repairs and closing up of holes again for various purposes during the construction of the building for the whole job				
29.	Various				
	Carried forward . . .				

No	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	Brought forward				
	Masonry, Total				
	III. Cut Stone Supply and Cutting of Stone (For laying Stone see 25. Masonry.)				
	Hard Swiss Stone				
1.	Laufen stone m³		360.—		Jura limestone
2.	Neuchâtel stone m³		340.—		
3.	St Triphon stone m³		450.—		Very hard grey limestone
4.	Colombey stone m³		450.—		All the stones from Nos 1 to 6 can be used for bases, facings, stairways, flooring.
5.	Valais granite m³		350.—		
6.	Tessin granite m³		400.—		
	Semi hard Swiss Stone				
7.	Corbières sandstone m³		350.—		The semi-hard stones cannot be used for bases, sustaining walls, steps and faces of stairways, but can be used for facing frontages, columns, and door and window frames
8.	St Marguerite sandstone Bollingen Zug Menzingen m³		420.—		
9.	Othmarsingen and Wurenlos marine molasse-sandstone m³		450.—		
	Stones Nos 7 and 8 shade from gray-blue to gray-yellow and have a small grain				
	Stones No 9 are large grained of a very beautiful clear gray and have been used for several important buildings in Switzerland (banks, Law Courts, blocks of flats etc.)				
	Carried forward				

	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	Brought forward				
	Swiss and Italian marble		410.80		
10.	For covering inside walls m²		50.80		
11.	Outside steps in granite m²		140.—		
12.	Stairway facing in marble m²		200.—		
13.	Polished marble facings for concrete stairways m²		100.—		
14.	Tessin granite rise for stairways m l		40.—		
15.	Concrete stairways with granite steps m l		50.—		
16.	Granite door sills m l		40.—		
17.	Same in marble m l		60.—		
18.	Marble frames m²		100-150		
19.	Marble plinths m l		45.—		
20.	Polished marble notch boards for principal stairways m l		130.—		
21.	Marble plinths for principal stairways m l		80.—		
22.	Plinths in hard limestone m l		40.—		
23.	Sandstone plinths m l		15.—		
24.	Unspecified work, installations, touching up, etc; the whole job				
25.	Various				
	Cut Stone, Total				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	IV REINFORCED CONCRETE				
	Floors of stories in reinforced concrete, including framing, flags, columns, supporting pillars, fore and rear bottom plates:				
	Basement				
	Ground floor				
	Stories				
	Attics				
	Lofts				
	Various:				
	Reinforced Concrete: Total				
	V. FRAMEWORK.				
	Reinforced-concrete framework, including ribs and covering flags from ridge to eaves: the whole job				
	Various:				
	Framework: Total				
	VI. VARIOUS PAVEMENTS AND FACINGS.				
1.	Marble pavement . . . . . m²		100.—		
2.	Marble pavement or friezes and linoleum passage way . . . . . m²		65.—		
3.	Granite pavement . . . . . m²		40.—		
	Carried forward				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	Brought forward				
4.	Pavement in Solnhofen tiles . . m²		35.—		
5.	Special brick tiled pavements . m²		28.—		
6.	Mosaic flooring with borders . . m²		30.—		
7.	Artificial stone pavement . . . m²		18.—		
8.	Flagged pavement in Salerno tiling m²		16.—		
9.	Glazed tiled facing . . . . . m²		30-50		
10.	Doorway frames . . . . . m²		140.—		
11.	Various:				
	Pavements and Facings: Total				
	VII. ROOFING AND ZINC WORK.				
1.	Tiled roofing . . . . . m²		12.—		
2.	Ridges and eaves . . . . . m.l.		8.—		
3.	Snow protector in 3/4 galvanised piping . . . . . m.l.		7.—		
	Eaves packing . . . . . m.l.		20.—		
4.	Double asphalt roofing, 20-22 mm. thick, for roofs or terraces . . m²		8.—		
5.	Zinc roofing . . . . . m²		12.—		
	Lead roofing . . . . . m²		20.—		
	Copper roofing . . . . . m²		32.—		
6.	Carry away pipes and rain-gutters m.l.		12.—		
7.	Cast-iron bases . . . . . m.l.		20.—		
	Carried forward				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	Brought forward				
8.	Chimney-stack and ventilator-piping; cowls . . . . . each		20.—		
9.	Various :				
	Roofing and Zinc Work; Total				
	VIII. Joinery and Attached Ironwork.				
1.	Double glazed windows for basement, in oak, with ironwork . . . . m²		80.—		
2.	Double glazed oak windows for the stories . . . . . m²		88.—		
3.	Glazed doors . . . . . m²		90.—		
4.	Single glazed oak windows . . . m²		46.—		
	Inside Joinery Work.				
5.	Outside oak doors . . . . . m²		80.—		
6.	Inside oak doors . . . . . m²		52.—		
7.	Panelling of halls and offices, ceilings, cornices, walls, galleries, facing of pillars and columns :				
	In deal . . . . . m²		30.—		
	In oak . . . . . m²		45.—		
	In cherry wood or walnut . m²		60.—		
	In Macassar wood . . . . m²		70.—		
	In mahogany . . . . . m²		70.—		
8.	Fronts and returns of cupboards :				
	In deal . . . . . m²		23.—		
	In oak . . . . . m²		45.—		
	Carried forward . . .				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	Brought forward . . .				
9.	Cloak-room cupboards complete with metal-work . . . . . each		40.—		
10.	Wainscoting . . . . . m²		30.—		
11.	Various :				
	Joinery and Attached Ironwork; Total				
	IX. Parquet and Sanitary Flooring.				
1.	Parquet flooring in first-class oak, including friezes and joists . . m²		30.—		
2.	Waxing and protection . . . . m²		2.—		
3.	English (pitch-pine) floors . . . m²		22.—		
4.	Sanitary flooring . . . . . m²		12.—		
5.	Cement concrete levelling under sanitary floor . . . . . m²		4.50		
6.	Various :				
	Parquet and Sanitary Flooring: Total				
	X. Linoleums.				
	5 mm. cork linoleum, with 3a mm. under-linoleum . . . . . m²		24.—		
	Carried forward . . .				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	Brought forward . . .				
2.	Jaspered linoleum including underlinoleum . . . . . m²		18.—		
3.	*Unjointed Flooring:*				
	Sanitary flooring, natural colour with magnesia basis, on concrete 15 mm thick . . . . . m²		12.—		
4.	Various:				
	Linoleum; Total				
	XI. Roller Blinds.				
1.	Possibly for all wooden windows; m²		32.—		
2.	Canvas outside blinds with ironwork for all offices, closets, halls, etc ; m²		25.—		
3.	Small lantern blinds with mechanism m²		30.—		
4.	Small inside blinds . . . . . m²		15.—		
5.	Various :				
	Roller Blinds; Total				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	XII. Plastering and Painting.				
1.	Plastering ceilings . . . . . m²		7.—		
2.	Ordinary ceilings . . . . . m²		4.—		
3.	Party walls in double-faced glazed brick . . . . . m²		8.—		
4.	Facing walls with plaster . . . m²		1.40		
5.	Staff-plaster covering for cornices, girders, including mouldings and decorations . . . . . m²		30.—		
6.	Ceiling decorations . . . . . m²		20–60		
7.	Recesses between walls and ceilings . . . . . m.l.		3.—		
8.	Whitewashing with size ceilings and walls . . . . . m²		1.—		
9.	Silicate painting on mortar or cement . . . . . m²		1.50		
10.	Oil painting, 3 coats, on metal-work, various radiators, woodwork, plastering, etc. . . . . m²		2.50		
11.	Caseine painting in offices, etc. . m²		3.—		
12.	Papering of offices, etc . . . . m²		3.—		
13.	Decorative painting (various):				
	Plastering and Painting; Total				

No.	Nature of Work	Questions	Price	Amount	Remarks
	XIII GLAZING				
1.	Glazing in first-class semi-double glass, except outside bays . . m²		8.—		
2.	Special glass for inside . . . m²		15.—		
3.	Wired glass for roofing 6–8 mm thick . . . . . m²		17.—		
4.	Beaten or striated glass, 4–5 mm for lanterns and ceilings . . . . m²		10.—		
5.	Various:				
	Glazing Total				
	XIV LOCKSMITH'S WORK.				
1.	Iron lantern work or iron ribbing, instead of reinforced concrete .		15,000		
2.	Entrance gates . . . . . each		20,000		
3.	Panels of entrance gates		1 500		
4.	Panels of secondary entrance gates		300		
5.	Staircase balustrade in forged iron, for principal staircase . . . m l		150 —		
6.	for secondary staircase . . m l		75 —		
7.	Iron balustrade . . . . . m.l		50.—		
	Carried forward . . .				

No.	Nature of Work	Questions	Price	Amount	Remarks
	Brought forward . . .				
8.	Window gratings . . . . . m²		70.—		
9.	Interior iron staircases: Width of stair 0,70		110.—		
10.	» » » 0.90		120.—		
11.	» » » 1.00		130.—		
12.	Terrace, courtyard, etc., railings: m.l.		60.—		
13.	Ceiling windows under lanterns m²		60.—		
14.	Chimney-sweepers' doors, collars, chimney and heating ladders, etc.; the whole job				
15.	Bronze and forged-iron candelabra: each				
16.	Iron or steel roller blinds for basement windows, archives, etc.		90.—		
17.	Various:				
	Locksmith's Work: Total				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	XV LIFTS				
	Passenger lifts, including cabins each		20,000		
	Service and goods lifts, including cabins . . . . . each		10,000		
	Doors on each story, lift-wells and installations, various				
	Lifts: Total				
	XVI. SANITARY APPLIANCES				
	General appliances . . the whole				
	Sanitary appliances . . "				
	Installation of appliances "				
	Gas . . . . . "				
	Various:				
	Sanitary Appliances: Total				
	XVII SEWERAGE AND DRAINAGE				
	The complete installation				
	XVIII VACUUM CLEANING				
	Installation of machinery for vacuum cleaning complete installation				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	XIX. CENTRAL HEATING.				
	Hot-water heating of buildings: complete installation				
	Ventilation and hot-air heating: complete installation				
	Electric heating apparatus for hot water . . . complete installation				
	Various:				
	Central Heating: Total				
	XX. ELECTRICITY AND LIGHTING FIXTURES.				
	Installation, including connection with mains, standards, distribution and general apparatus:				
	Lamps and plugs . . . . . each		60.—		
	Chandeliers and candelabra for the halls, principal vestibules, etc.: each		500 to 3,000		
	Do. for chief offices and landings on each floor . . . . . each		400.—		
	Chandeliers for secondary sites, each		100.—		
	Ordinary lighting: complete installation				
	Various:				
	Electricity and Lighting Fixtures: Total				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remark
	XXI TELEPHONES AND ELECTRIC BELLS				
	Installation of telephones in telephone boxes, in offices, and also for the porters and huissiers, etc. complete installation				
	Installation of electric bells complete installation				
	Various:				
	Telephones and Electric Bells Total				
	XXII OUTSIDE WORK				
	Excavation and filling up for levelling terraces m^3		6.—		
	Sustaining walls m^3		70.—		
	Walls bordering gardens and lake m^3		80.—		
	Stone balustrades m l		100.—		
	Cut stone of notch boards m^2		450.—		
	Granite steps m l		35.—		
	Granite stair-heads . . . . . m^3		125.—		
	or Concrete slab stair-heads m^2		20.—		
	Reinforced-concrete girders to carry steps . . . . . the whole job				
	Carried forward				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remark
	Brought forward				
	Avenues and paths: the whole job				
	Plantations and laying out of garden: the whole job				
	Reinstallation of harbour for small steam and motor vessels: whole job				
	Various:				
	Outside Work: Total				
	XXIII. SPECIAL WORK.				
	To be specified by competitors:				
	Total				

No.	Nature of Work	Quantities	Price	Amount	Remarks
	XXIV WORKS OF ART.				
1.	Ornamental and monumental paintings on walls and ceilings; complete work				
2.	Monumental and decorative sculpture in various materials, relief work, statues, etc.: complete work				
	Works of Art: Total				
	XXV. FEES AND CONTINGENCIES				
	Architects' fees				
	Fees for works inspectors and costs of their offices				
	Contingencies				
	Fees and Contingencies: Total				

Recapitulation		Sums
I.	Excavations	
II.	Masonry	
III.	Cut stone	
IV.	Reinforced concrete	
V.	Framework	
VI.	Paving and various facings	
VII.	Roofing and zinc work	
VIII.	Joinery and ironwork	
IX.	Parquet and sanitary flooring	
X.	Linoleums	
XI.	Roller blinds	
XII.	Plaster work and painting	
XIII.	Glazing	
XIV.	Locksmiths' work	
XV.	Lifts	
XVI.	Sanitary appliances	
XVII.	Sewerage and drainage	
XVIII.	Vacuum cleaning	
XIX.	Central heating	
XX.	Electricity and lighting fixtures	
XXI.	Telephones and electric bells	
XXII.	Outside work	
XXIII.	Special work	
XXIV.	Works of art	
XXV.	Fees and contingencies	
	TOTAL	

The building or buildings is or are: **cubic meters.**

(In order to calculate the cubic space, competitors should conform to the following rule: the whole of the building or buildings shall be calculated to its or their real cubic measurement as from the finished floor of the basement story to and including the lofts.)

According to the estimate summarised, the **price per cubic meter is**

建築設計に對する料金規定書

（附錄第八號）

（S.I.A.スキス、エンジニヤー及アーキテクト協會）

建築設計(Architectural work)に對する料金規定。（會員に適用すべきもの）

A、建築物の分類

料金の目的に對して建築設計（Architectural work）は次の如き四つの範疇に別かたれて居る。

〔範疇一〕

農家、上屋、倉庫、工場、職工住宅、住宅と學校建築の群(Groups of dwelling-houses and School building)の非常にシンプルな建築を含む。

〔範疇二〕

二個連續又は一個建の住宅(Back-to-back or detached dwelling-houses)學校、病院、官廳、及公共建築、ホテル、建築の內ある等しき styleを持つて取り扱はれて居る、範疇一の如何なる建築よりも上等なる施工をなせる建築物を含む。

〔範疇三〕

町嚮に施工せる住宅、ビラー及ホテル、タウンホール、教會、劇場官廳及資產家の公共建築及記念的性質を帶びたる建築物。

〔範疇四〕

裝飾本位のもの、構造(構造部分の重要でなきもの)斯くの如きものの內外部裝飾、住宅室內裝飾、教會及附屬家具、總ゆる種類の記念碑、泉水、サンマーハウス、商店の正面等。

B、設計料金規定

料金は一般に建築工費のパーセントに從ふ。從つて以下に揭ける指示に從ふものとす。

C、Architects work の種類

一、略圖作成又は略設計 Rough drawing or sketch plan:——Preliminary design, 若し要するならば Rough estimate。此のスケッチは plan をよく了解し得る程度の十分なる Scale で提出されねばならぬ。然しそれは詳細部のいかなる手法にまでも適用するのでは無い。

二、決定設計 Final plan:——

平面圖の準備。力學に對する規則や規準に從つた百分の一以下にあらざる Scale の Section 乃 Elevation No.1の如き Rough estimate を要す。

三、仕事圖と仕事の詳細 Working drawing and details of work 設計原圖及工事施工に要するトレイシング。構造的及裝飾的なる詳細圖。

四、工費見積 Estimates:——

工費の詳細なる見積計算。

見積書は工事仕樣書により變更することもある。

五、實行と監督 Business management:——

請負の割り當て。一般指揮及特別なる監督部分を除きし工事監督。

六、調查 Checking:——

工事の調查及工費の查定。

工費の會計審查と工事完成後の決算の準備。

D、特別注意事項

（a）設計料は規定によつて支拂はれること。

一、料金は工事實費を基準とす。一部設計の場合には其等設計の見積を基準とす。即ち見積に依つて與へられたる額を基準として決定す

Description of architect's work	Cost of Value buildings, etc.							
	1 to 10 thousand	10 to 25 thousand	25 to 50 thousane	50 to 100 thousand	100 to 250 thousand	250 to 500 thousand	500thonsand to one million	upmarqs of one million
Category I								
Rough drawing or sketch plan	—	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2
Final plan	—	1.0	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4
Working drawings and detaili of work	—	1.6	1.5	1.4	1.3	1.2	1.0	0.8
Estimates	—	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3
General direction and suppervision of work.....	—	1.8	1.7	1.6	1.5	1.3	1.2	1.0
surveying of work and checking of accounts.....	—	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3
Total.....	—	6.0	5.5	5.0	4.5	4.0	3.5	3.0
Category II								
Rough drawing of sketch plan Final plan	—	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.3
Working drawings and details of work	—	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5
Estimates	—	2.0	1.9	1.8	1.7	1.5	1.4	1.2
General direction and supervision of work.....	—	0.8	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4
Surveying of work and checking of accounts.....	—	1.8	1.8	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3
Total.....	—	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3
Sategory III	—	7.0	6.5	6.0	5.5	5.0	4.5	4.0
Rough drawing or sketch plan	—	1.1	1.0	0.8	0.7	0.6	0.5	0.5
Final plan	—	1.3	1.2	1.2	1.1	1.0	0.9	0.8
Working drawings and details of work	—	2.4	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.6
Estimates	—	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4
General direction and supervision of work.....	—	2.0	1.9	1.8	1.8	1.6	1.5	1.4
Surveying of work and checking of accounts.....	—	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3
Total.....	—	8.0	7.5	7.0	6.5	6.0	5.5	5.0
Category IV								
Rouge drawing or sketch plan ...	2.4	1.8	1.6	1.4	—	—	—	—
Final plan.....	2.8	2.4	2.0	1.7	—	—	—	—
Working drawings and details of work	4.4	4.1	3.9	3.8	—	—	—	—
Estimates	1.0	0.7	0.7	0.6	—	—	—	—
General direction and supervision of work.....	2.8	2.4	2.2	2.0	—	—	—	—
Surveying of work and checking of accounts.....	0.6	0.6	0.6	0.5	—	—	—	—
Total.....	14.0	11.0	11.0	10.0	—	—	—	—

二、料金の總額は工事遂行の方法如何に關せず變更せざるものとす。
例へ施主が自身で工事をなす場合又は施主の都合上工事を數名の請負人に分割請負に付するも、其工費總額には影響せざるものとす
三、設計料總額中には常に rough drawing 及 Sketch plan に對するものを含む。
施主は Final plan が始められる準備前に於て其等の準備設計 preliminary design に對して取捨することを得。
四、若しも Architect が幾分か差異ある數種の sketch plan を求められるならば、撰ばれたるもの以外の rough drawing に對しては規定割合の50%を得る資格あり。
五、上記規定の工費低廉なる特別なもの、場合、設計圖が完成すれば上記規定中に定めたる最低級の最大設計料に等しい。
例へば 50,000 francs より 55,000 francs の工費の〔範疇一〕の建築に對して設計料は 2,750 francs である。
即ち 50,000 frances の總高の 5.5percent の割合である。
六、〔範疇四〕に對する料金はリッチなる裝飾を有せるもの。或は特別なるスタイルで取り扱はれて居る〔範疇一、二〕に於ける凡ての建築の內部に適用す。
七、料金の割引は同じプランを持つて建築せられる數個の建築物の場合に許可せらる。然し此の割引は Business management 及 checking の項目には影響せず。
八、若しも是等設計が一般の請負者 building contractor に委ねられる場合には料金に於ける割引はなし。此場合請負者は設計技師に適用する estimate や specification と等しき料金を得ることを得
九、施主の要求に依り同じ建築物を請負者の數に分割して施工する場合 checking の料金は最初の 請負者を除く殘りの各請負者に對して 10% を增加す。
十、sketch plan の數が同一の目的に於て數種要求せられるときは、いずれも仕事の順序より生ずる變更、或は其の他の理由による變更をなし得るものとす。
十一、特別なる場合に於ては Estimate は作成し得ず。例へば必要なる working drawing が Architect の手一杯なる仕事の爲めに緊急をを要するべき特別なる時に準備されざる場合此の Estimate 不作成は料金に於ける割引に該當せず。
十二、修繕、改築。一部增等に關する料金規定は(working drawing の準備を含む) 25% 乃至 30% を增加す。
plan よりの抜萃は別個に支拂ふべし。
十三、上記明細の如き Architect の勤務に對する請求及支拂は專ら Architect より請求せしめるものとす。
十四、特別なる監督を要する場合、設計技師の同意を得て、其監督に任ずるときはその監督に對する費用を施主に請求し得るものとす。その目的に對する約束の仕事の事務は仕譯簿の作成に、構內(yard)に對し、仕事の日々の支拂に對し、材料の使用に對し、計算の檢查に對して責任を負ふべきものとす。
仕事に對する事務は Architect の仕事の都合よき順序に依り專ら行ふべし。
十五、特別監督料が Business management 及 cheking の項目を以て設計料にて支拂はれるならば 50% を增加するものとす。
十六、彼に委員せられたるもの、代りに施主によつて他の設計技師或は請負者に手渡しされたる工事の成就せるときには建築設計料は、20% を增加されるものとす。
十七、復製の費用及 plan の印刷、明細書、豫備の建築見積書の印刷の費用及請負人の割當に對する費用は施主に請求し得るものとす。尙此規定は必要であると考へられる Model を作る場合にも適用せらる。
設計技師より交附する仕事圖は請負者當事者及特種一部を施工する者にのみ交附し、交附圖は一部に限るものとす。
十八、Drawing は總て Architect の所有物として殘置するものとす

施主が final plan の copy を要する場合には Architect に請求の自由を有す。

而して施主は施工したるが如き plan の清書に對しては Architect に支拂ふべき料金の要求に應ずる義務を有す。

若し然らざれば建築設計者の所有となるべし。plan は他の同樣なる建築物の建設に當り流用せらるゝやも圖られず。

(b) Work に就ては料金規定に關係無く支拂れること。

十九、土地の調査、價格査定、測量等の Work は規定に影響無し。

基礎工事の場合には以下の割合を以て支拂はれるものとす。

半日に對し	20 乃至 30 francs
一日に對し	30 乃至 50 francs

二十、相談、報告、期待される意見等に就ての辯論及書類に對する料金は後繼工事の高及事件の重要さに從て決定す。

此の同じ規定は 10,000francs (〔範疇四〕に於ける規定以下に來る工事を除く) 以下の工事に適用す。

二十一、Architect が彼の住居から同一場所に行く可き旅費は上述の料金に加算されるものとす。

旅費は Architect の時間勤務の料金に 50% を加へて支拂はれるものとす。

何故なれば如何なる旅行に於てもこの規定に一致することに依り他の方法で支拂はるべき仕事を必要とせるに依る。

料金前拂の割合は Architect に責任ある所の工事に於ける進行に比例して支拂れ、殘高は彼の責任を完全に盡せし時に支拂はるものとす。

スキス Engineer and Architects の會員は如何なる種類のコンミツション或は請負者からの手當を受けることを禁ず

千八百九十八年十一月二十七日

委員會に於て決定す

此の料金規定は Enginers 及び Architects のスキス協會支部にも適用す。

Zurich, March 1899

中央委員會の代表者

委員長 A. Geiser 印

書記 W. Ritter 印

千九百二十一年中央委員會に於ての決定事項

Architectural work に就ての料金規定に對する追加に就いて (No 102)

建築物に對する近來の發達に鑑み中央委員會は次の事柄に於ける Architectural work に對する料金に關する規定の追加を決定す。

(1) 建築物の分類

此の規則は建築物の或る範疇に包含せられて居たる種類に對して要求せらるるものである。特に數多く建設されない病院や小住宅は夫等の建築物が分類されて居るものよりもよりハイヤーな範疇に分類さるゝを正當とす。或は少くとも中位に位する〔範疇二〕の內に分類されるものとす。

(2)是等工事の工費に於て、現在增加されるべき建物の工費に關する增加請負に就ての改造清算に對するそれ等の差異を說明すべき順序は一方に於ては建築物の工費の增加と他方に於ては賃銀に於ける增加を意味す。

それは Architect の料金の割合に或パーセントを增加すべく都合よきことである。

現在に於て其場合に適用すべき定まつた規定は 15 percent の增加である。

(3)百萬フランクの經費を要する工事に對する規定に定められたる料金割合は又より大なる經費の工事に一般に適用すべきである五百萬以上の建築工事の場合に於て又は建築物が連續して出來る場合には幾分の料金割引は爲してもよし。

(4)鐵筋コンクリート工事に對する Static Calculations や engine

ering plans の費用は了解さるべきである。
而して此の費用は工事請負人に請求すべし。
(5)同一の plan で建設される數個の建築物の場合に於ける Article D.7. に就ての規定に對する割引はたゞ 500,000 francs 以上の工費のものに適用さる。
斯る割引は Business management や Cchecking の項目に對しては規定しある割合を超えない場合に用ひらる。
而して斯かる割引の高は同一の plan で建設せらるゝ建築物の數に比例し、而して責任を負ふべき附帶項目に比例す。
六、Article D.12 の規定に於ける增加は盡されたる務に對して料金の總額を適用するとき了解せらる。
然れども一部の增築及修繕に直接に關聯せる工事にのみ適用す。
七、設計技師の時間 Aaceitect's time に關する料金の規定(article D.19)に關しては下の如く決定さる。

半日分に對し　40 乃至 60 francs.
一日分に對し　75 乃至 100francs.

國際聯盟の組織に關する說明書

（附錄第九號）

國際聯盟及び其の法令並に組織に就いて

本文の目的とする處は、應募者に國際聯盟なるもの及び其の各種の機關、活動狀態、並に其の活動方法に關する一般的智識を與へんとするにある。

一

國際聯盟とは或る條件に從ふ限り如何なる國と雖も是に參加する事を許可せられ且つ國際聯盟規約なる一成文法によつて歷史上最初に支配せらるゝ各國家の永久的聯合を指すものであつて、此の規約には國際關係の新組織を設立すべき若干の規則を定めてある。

國際聯盟に加入せんとせば以下の諸條件の具備を必要とする。先づ一國の自治國なる事。次に國際間の義務を遵奉せんとする誠意ある意圖を他に向つて充分に保證する事。次に陸海軍力に關する聯盟の規約を承認する事、最後に聯盟への入會は少くとも國際聯盟總會の三分の二の贊助を得て之を爲す事。

國際聯盟は一九二〇年に四十二ヶ國の會員を有してゐたが現今では五十五ヶ國を包含してゐる。（即地球の全人口の約六分の五に當る）是を見ても如何に此の聯盟に加入せんとする傾向が普遍化されつゝあるかといふ事が充分に觀取され得るのである。

此の新機關を完全に理解せんとせば、聯盟が明白に國家主權なる原理を標榜せる國際的社會を建設せんとしつゝある事實を悟らねばならない。國際聯盟は其の構成分子たる各國より離れて存在し又は各國に超越して存在するが如き特別の機關では無いのであつて、是は實に國際的なる意義を有し斷じて超國家的生命を保持するものではない。聯盟の會員は各國なるが故に其の聯盟の事業は又各國の代表者によつて行はれるのである。されば一國或は其れ以上の國々の提案によるの外聯盟としての發案權は成立せぬ譯であり又各國の手を經なければ聯盟としての事業は遂行され得ないのである。各國は多數にて或は單獨にて責任ある聯盟の當局者であり、而して聯盟は各國が聯盟の手を經て遂行せんと決する事業を計劃する機關なのである。

國際聯盟規約

國際聯盟の會員たらんとせば各國は國際聯盟規約を承認しなければならない。此の規約は總ての會員の遵守すべきものであつて、又各種の平和條約への前提文を成すものである。然して此の平和條約は二十六ヶ條より成つてゐる。是は國際關係に確固たる法的根據を與へんとする一の試みであつて、其の眞の目的とする處は平和の維持及び國際協力の增進の確保是である。

國際聯盟が從來存してゐた是に類似のものと異る點は國際條約（即聯盟規約）の締結により又各國が永遠に協同し得るが如き機關を創設する事によつて聯盟の言明或は事業遂行の手段を實際的有效的ならしめ、以て平和に對する一般の要望を實際化せんとする處にある。

規約に規定されて居る樣な國際聯盟の政治的行動は或る特定の規則に從つて爲されるものであつて、其の規則に依れば國際聯盟會員の要求ある時には平和てふ一層高尙な見地に立脚して、紛爭を惹起してゐる當該諸國を調停せんとして國際間の紛議に斡旋の勞を取る事を許すといふ事になつてゐる。であるからして國際聯盟は混亂に代つて平和の增進を圖らんとするものと言へる。

斯の如く一方に於て聯盟に關係ある紛議の調停をなしつゝ、又他方

國際聯盟は仲裁制度及軍備制限を認める平和條件を制定して、斯くして永久的根據の上に世界の平和を確立しやうと努力しつゝあるのである。

然し乍ら紛爭の發生した時是に對して斡旋の勞を取るべき國際紛爭の調停法或は又仲裁制度—この制度により平和保證をなす—其の仲裁制度も將又如何に忠實に實行されたとてもかの軍備制限でさへも紛爭のあらゆる原因を除去する事は不可能である。過去に事例を徵しても幾多の戰亂は紛爭勃發の懼れの無いとは限らぬ國際生活の全範圍中に存する異れる國々が文明の世とは云へ未だ相互間に密接なる協力を確立する手段の無かつたが爲めに發生したのであつた。此の手段こそ國際聯盟が國際生活に於けるあらゆる枝葉の關係にまで其の組織並に活動方法を漸次擴張して以て世界に寄與せんと努力しつゝあるものなのである。

國際聯盟の任務の一般的持性

世界平和の維持及び國際的協力の增進は今に初まつた主張ではない大戰前既に國際關係に何等かの新形式を與へる必要を感じて居た、理想家輩とは別に、各國政府は屢々外交上是に關する會議を開催して居た。

然し乍ら時々行はれて居たこれ等の會合は寧ろ間歇的であつて且つ何等一般に適用さるゝ法的規則によつて支配されてはゐなかつたのである。加之協議は殆んど祕密に附せられる事が多く、爲にそれに對する輿論の增大を妨げる結果を誘致したのであつた。

然るに國際聯盟は是等の形式を有する運動に代ふるに一般的であると同時に確定的である手續を規約中に定め又永久的なる數個の機關よりなる言はゞ一種の組織を創造したのである。而して其の機關の各は特別なる活動部門に相應する事になつてゐて、是等の機關は問題の種類數量の增加するに比例して增加し輿論の向ふ處十二分に活躍して居るのである。此の平和の維持及び一般の協力の二特性は國際聯盟の總機關即總會、理事會、委員會、專門委員會及び祕書局の總ての機關に應じて等しく觀取し得る主義主張である。

國際聯盟の機關と其の活動

國際聯盟は總會、理事會の二大政治機關によつて支配せられ此の二機關は決議準備として先づ問題は委員會及び祕書局の手を經由せしめる。

總會及理事會は各國の代表者達により構成せられ、是等は各國政府の指令に基いて行動をする。然し此の二主要機關の間には種々の重大なる差異が存するのである。

總會は國際聯盟の加入國の代表者よりなつて居て、各國は其の國土の大小に關せず三名以上の委員を總會に送る事を許されず又投票は一票のみと限定されている。然し實際には代表者及委員の加はる爲めに總會に於る一國の委員數は專門家を加算して十二名にのぼるのが通常である。總會は每年九月に開催せられ、總委員會を選任する。而して此の委員會は幹事長を加算して十二名の幹事よりなつている。總委員會は六大委員會に分たれ總會より總會迄の中間期間に開會せられる。尙多くの場合此の六委員會は更に幾多の小委員會に再分せられる。此の六委員會の各は總會に參加する各國の會員數だけ委員數を有するのである。

本文にてはヘーグ會議に於る萬國仲裁々判所に就ては述べず。

總會及六委員會は公開せられる。即此等の集會には新聞記者の入場傍聽を許可するのであつて、(一九二五年に於ては、約四百名の記者達の第六回聯盟總會の傍聽あり)又一般人士の國際聯盟の事業の果して如何なるものなるかを知悉せんとして世界各國より參集したもの、入場をも許可したのである。斯くして總會及委員會開催前後には各國委員及一般人士間に一種の接觸が年々永久に行はれるのである。總會の創設と其會合の世界化とは總會をして愈々民主的ならしめると同時に又それをして國際聯盟に於る最高の地位を獲得するものたらしめる。

年々の會期中總會は實に世界の輿論を代表するのであつて又其の存在と增進が聯盟の成功に必要欠く可らざる彼の國際的良心の發揮せられるのも又實に此の總會に於てである。

總會の權限は國際聯盟の行動の範圍に屬する問題或は世界平和に關する問題にまで及ぶ。事實上總會は聯盟の活動の總指導力ともなつて居るのであつて、聯盟の各異れる機關の遂行する年々のプログラムを作るのである。

國際聯盟理事會

其權限は聯盟總會と同じく聯盟の行動の範圍に屬する問題或は世界平和に關する問題にまで及ぶのであるが、聯盟理事會は總會に比しては稍々小なる機關である。斯くの如くであるから實際上理事會は總會の決議の實行を監督し現下の事務を取扱ひ諸問題に附隨する政治的紛爭を調停する作用をなすのである。

現今にては理事會は十ケ國委員より成り其の中四ケ國は永久的のもので(日英佛伊)他の六ケ國は永久的ならざるものである。而して其の委員總數は十四名にまで增加する事が出來るが各國は事實上其の外務大臣を以て委員として是に送る慣例を採つて居る、此の傾向は漸時に顯著に趨きつゝある。理事會は三ケ月に亘つて開催されるを以て是に出席する外務大臣は定時集會に於いて各相互國間に於ける各種問題を討議し得る機會を有するのである。尙理事會ならざる國と雖も特に自國に重大なる利害關係を有する事項の討議には代表を送る資格を有すとせられて居るが又從來殆んど會期毎に右の權利を行施しない國は無かつた。實際一般に先づ一週間繼續する理事會の開會中少ない時は十ケ國多い時は十四ケ國が常任理事に加はつたことがあつた程である。

理事會に於ける各代表者には又自ら專門家及祕書が附屬する。加之理事會の補佐委員會(例へば財政委員會、經濟委員會、專門家特別委員會等)は又同時に理事會をして專門的事項に關する意見を聽取せしむる爲に開催せられる。又國際聯盟の代表者—例へばダンチツヒに於ける聯盟の幹部委員或はザール地方統治委員其他一も屢々理事會には出席する事もあるのである。

理事會の會合の大多數は公開される。即記者及國際聯盟に派遣されたる外交上の代表者並にゼネバを通過する著名人士等の入場を許可するのである。然し乍ら又理事會は屢々公開せられぬ時もあり、かゝる際には理事國委員の外に祕書局の役員のみの參加を許すのである。理事會は又祕密會の時もある。此の場合には理事會委員及祕書局長のみが出席する。

委員會

總會の如く理事會は各國間に起つた審議事項を處理するに慣れた政治家或は外交官の何れかより成るが是等は又聯盟の取扱ふべき各種各樣の問題の總てに悉く精通して居るとは限らぬ。尙此の外に總會は年に一回開催せられるのみであり、理事會又屢々開催せられるとは云へ一週間も繼續しない事は一再ではない。故に事業の性質及び繼續を確保する爲には國際聯盟は幾多の委員會を創設するを要する。而して是等の委員會は總て補助機關である。即ち、是等には決議能力無く單に理事會及總會に於て討議せらるべき諸事項を審議するのみである。是等の委員會は多數ある。是等の中、永久的のものとしては例へば陸海軍航空機委員會、委任統治委員會、阿片委員會、少年幼兒健康保全委員會、智的聯合に關する萬國委員會の如きものである。規約により聯盟は軍備縮少案を樹つべき準備及び委任統治下の諸地方の行政の監督及び婦女子及び小兒賣買並に阿片賣買に關する規定の適用狀態の監督等の義務を要求せられて居る。理事會は是等の場合にそれ〴〵特別委員會を創設するのであるが又其の各委員會の任務としては諸審議事項の成り行きを精密に檢討する事がそれである。

永久的ならざるものは臨時委員會であつて、例へば軍備制限臨時混合委員會、封鎖委員會、規約補正委員會、軍備縮小會議準備委員會、經濟會議準備委員會、國際法改善委員會等である。而して是等總ては

或目的の爲めに設置せられたものであるから其の任務が消滅すれば又自ら廢止される。

加之常に理事會は專門的智識を要する審議事項に直面する事が多く是等諸事項は專門家の援助及び審議事項の實狀に附いての豫備調査を受くるに非れば解決する事が出來ないのである。斯くして理事會は委員會を創設し、其の目的を達すれば是を廢止するのである。例へばアーランド島調査委員會及アルバニヤ調査委員會、メーメル委員會、モヴール委員會等の如きは是である。

是等委員會は其の委員數は遂行すべき任務に從つて變化する。例へば陸海航空軍常備專門委員會の如きは當該諸國に依つて任命された專門家より成つて居る、又委任統治委員會の如きは特別の資格を以て理事會に任命された專門家のみより成り、是等專門家達の所屬國の如何はこれを問はぬのである。

專門委員會

これには三個ある。即通信運輸委員會、經濟財政委員會、及健康委員會これである。

專門委員會に關する一般的義務は聯盟規約第二十三條中の三項目に制限せられて居るが抑々かゝる專門委員會を設置するに至つた動機には次の如きものがある。

即國際問題中には專門的智識を要するものであつて而も政治的紛爭を惹起する懼れあるものは多數に存在するのである。

然して國際聯盟によつて創設せられたる專門委員會の目的とする處は實にかゝる紛爭の惹起せられるに先立つて、是等專門問題に附き善處し、當該紛爭國外の諸國中特別の資格を具有する專門家或は紛爭相互國中でも責任を以て係爭問題を處理し得る人士ならば是等人士の援助を得て當該問題の解決を爲す事是である。是等專門家は國際聯盟專門委員會に參集し、あらゆる政治的見地より離脫して諸問題を討議し以て解決を得必要なる各國の協贊を經て是等の實施を監督するのである

是等の各異れる專門委員會は既に屢々理事會によつて召集せられ且つ時によつては三十ケ國乃至五十ケ國にのぼりし加盟國の出席を得たる會議をして、遂に萬國協約を締結せしむる結果を誘致したのであつた。斯くして年々少くとも平均一二の會議は聯盟主催下に開催せられつゝある實狀である。

專門委員會及其他諸委員會は一年に各々數回の會合を催す。故に何れかの委員會の開催せられていない週は殆んど絶無と稱しても敢へて不當ではないのである。

是等の殆んど總ての會合は國際聯盟の下にゼネバに於て開催せられ尙其の大多數は公開されるのである。斯の如くにして專門委員會及び諸委員會の事業を通じて國際聯盟は國際協調の全範圍を主宰するのである。

國際聯盟秘書局はゼネバに於る聯盟の下に創設せられた機關で秘書局長の監督下にあり更に一人の選任書記長及び二人の秘書次長の補佐を受けて居るものである。秘書局の他の役員は審議事項に應じて各部に分割配屬せられるものであつて斷じて國の相違等の見地に據つて分割されるものではない。然して此の部の大多數は上述の委員會或は其の他諸機關の秘書部を構成するのである。此部の中、重なるものは幹事の指揮を受け其他の若干は部長の支配を受ける。是等役員の下に幾多の部員が存し此の部員は其の階級及び資格に應じて又二部に分たれるのである。

聯盟秘書局の其の他の部は主としてタイプライター係、速記係其他の事務等の附屬部員より成る。部員として分割されてゐる役員總數は七十六名で總書記を含む總附屬員は約五百名に上る。秘書局の重なる部は次の如きものである。―政治部、財政經濟部、運輸部、行政委員會(ザール及ダンチツヒ)未成年者部、委任統治部、軍縮部、健康部、社會部(阿片、少年幼兒保護)智識聯合及國際局部、規則改正部、報告部である。

尙其他國際聯盟財政部、飜譯及通譯部、摘要記載部、出版部、登錄部、圖書部、分配部、內務部、速記部其他がある。

各部は秘書局長の下に指揮せられ、各部獨特の事務に關聯して、總ての公的事務にも亦責任を有し、其の事項に就て開催せられた集會及會議の準備を爲し、且つ是に參加しなければならぬのである。而して秘書局は理事會及總會を組織すべき責任を有し且つ其の義務として命令により聯盟の總文書を公に用ひられる二ケ國語で調製及公表し、且つ聯盟議事錄をも調製發行し其の他總ての材料及統計を完備する事を要するのである。

各國の中若干はゼネバに於て所謂「國際聯盟に派遣」せられた常任代表者を有するが秘書局は又絕へず是等各國の專門家及代表者との接觸を保たなければならぬのみならず又次の如き各種の形式に於て世界の輿論とも接觸しなければならぬのである。即ち、これには新聞記者團（世界の各種新聞及其の代理店を代表する記者中四十名內外はゼネバに居住す）及び主要なる國際機關及聯合の代表者其他聯盟の事業に興味を有する人士等を列擧する事が出來る。

二

國際聯盟中の萬國勞働會議組織に就て萬國勞働會議は國際聯盟組織中の一部であつて、聯盟の創設せられた根底を爲すところの聯盟規約（平和條約第一章）によつて設立せられたものでは無く、平和條約中の特別の章（第十三章勞働篇）によつて成立したものである。而して其の目的とする處は第十三章の緒言に明白に記載されている。

茲にそれを再錄すれば＝

國際聯盟は世界平和の確立を標榜するものにして且つ謂ふ所の世界平和は社會的正義に立脚する際にのみ始めて實現し得べきものなるが故に且つ又從來勞働條件は實に世界の平和及階調を危機に瀕せしむるが如き大なる不安、危懼を發生せしむべき似而非正義、壓迫、不便を包含せしものなるが故に茲に最高規約會は正義人道的公憤及世界永久平和確立の見地よりして次章を承認せんとするものなり＝とある。

此の言に續いて次に第三百八十七條より第四百二十七條に至る諸ケ條があり、其の中に緒言に述べた目的の達成手段として設置せられた制度の機構並に手續が記載されてある。

是等のケ條中の最初の第三百八十七條の規定に據れば先づ永久的の勞働會議組織を設置し國際聯盟加入國は此の會議に參加すべきものとし、且又聯盟の會員たるものは後に至り勞働會議員を兼ねるべきものとなつてゐる。又次の三百八十八條は規定して勞働會議は次のものよりなるとし、

1、各國代表者總會議

2、統治局によつて支配さるゝ萬國勞働局

を擧げてゐる。斯くの如くであるから萬國勞働會議は又自ら其秘書局（萬國勞働局）及び其の理事會（統治局）及其の總會を有するのである。萬國勞働局は既に新總會々議所及秘書局の今般新に建設せられるべき地點の殆んど眞北ジュネーブ湖畔に其の事務所を有してゐて、又是等の事務所は其の中に統治局の會堂をも包含してゐた。

然し乍ら是等は勞働會議の會堂は有して居ないから勞働會議所は新國際聯盟ビルディング中の大廣間に於て開催すべき事となつてゐる。

萬國勞働會議は五十六加盟國よりなり各加盟國は會議に四代表を派遣する權利を有して居るのである。卽各國政府代表の二名と資本家及勞働者中よりの一名づゝ合計四名がそれである。尙各代表はそれ〳〵隨行員を同伴し得るのであるが實際には代表及隨行員の數は現行の豫定表の四百名を超過する事はない。

日本建築協會會報

會報

一、會員逝去の件

會員郡富太郎氏は七月十一日御逝去の通知に接しました洵に痛悼の至りに堪へません本協會は早速弔狀を贈り哀悼の意を表しました

一、紹介

1、メートル協會設立の件

今回大阪府廳内にメートル協會が創立されました該協會はメートル法度量衡の普及を圖るを以て目的とし左の事業を行ふ由而して會員は名譽、特別、正準會員の四種に分たれてあります委細は同協會に付御照會下さい

一、メートル法度量衡の普及上適切有効なる方法を調査攻究し其の實行を期すること

二、度量衡自治取締の發達を圖ること

三、度量衡器共同購入に關する斡旋を爲すこと

四、斯業に關する必要なる雜誌及會報を發行すること

五、講話會又は講習會等を開催すること

六、計量の利用、應用の普及に關する施設を爲すこと

七、メートル法度量衡使用に關する指導を爲すこと

2、國際聯盟會館設計懸賞募集の件

右の件に付去る八月十六日付端書を以て不取敢御通知申上ました通今般ジエネヴアに於て建設さるゝ國際聯盟會館の設計懸賞募集されますに付て該募集規定の原本(英、佛語各一部)を當協會に備へ付けてありますから閲覽御希望の方は午前九時より午後五時迄(日曜祝祭日を除く)の間に御來所の上御覽下さる樣願ひます尙別項に右募集規定の一部を飜譯の上揭載致してありますから御參照下さい

會合

○定例理事會

△日時　八月三日午後五時―九時三十分

△會場　本協會々議室

△出席者　和田理事　小川理事　須川理事　池田谷理事　酒井理事

△議事

一、建築法規に關する委員會設置の件

池田谷理事より建築法規に關し研究調査及講習會開催に付其計畫を說明して之れに關する委員會設置の提案あり協議の結果建築法規に關する調査は既設置の法政委員會に於て又講習會は敎化委員會に於て研究實行の方法を採るを妥當なりと決し九月上旬兩委員會の開催を當該委員長に要求することに決定

一、實費精算式施工に關する委員會設置の件

本件は去る三月例會の議事として衆議に諮り贊成を得たるも出席會員所定數に滿たさる爲決議するに至らず其後の例會に於ても出席者少數の爲遂に決議するを得さるを以て愈々通信決議となすことに決す

一、其他左の諸件に付協議せり

1、藏前工業會大阪支部有志一同代表淺村三郎氏外二名より依賴に係る件

2、外務省文化事業部及報知新聞社より本協會事業大要其他に關し照會に付回答案の件

3、メートル協會設立に付紹介の件

4、會誌交換に關する件

5、本協會事務所借室期間滿了に付追加契約に關する件

6、會員銓衡

○轉勤轉居

會員の部

伊崎　秀一君　尼崎市別所村二六〇ノ一〇二

楠田　實君　兵庫縣六甲村高羽縣公舍三九

古塚　正治君　西宮市市庭町四二(町名變更)

吉川　勝君　西宮市大日本麥酒株式會社建築場大林組出張所

松永　次松君　東京市區劃整理局工務課第四出張所

(宅)東京市外大久保町四大久保二四三

東條　正男君　大阪合同紡績株式會社工務課

有田　桂太君　福岡縣鞍手郡頓野村上頓野

高木　與吉君　市内東區今橋一ノ五集英小學校建築場大林組出張所

地方會員の部

内藤　栞君　名古屋市東區東外堀町四

小原　義助君　市内港區五條通一ノ一二

矢部　芳夫君　市内此花區上福島北一ノ八五谷田屋方

瀨戸强三郎君　東京市丸ノ内郵船ビルヂング三階竹中工務店東京支店

終身贊助員の部

作山　義弼君　市内港區南境川三丁目横河橋梁製作所

普通贊助員の部

安田　繁藏君　大同生命ビルヂング金澤支店建築場竹中工務店出張所

寺澤　林吉君　愛知縣丹羽郡大口村小口四六一

内浦　寅吉君　市内東淀川區三津屋町二

田平　宗美君　京都市上京區東竹屋町熊

藤原　節雄君　東京市本郷區駒込千駄木町汐見橋辜常小學校建築場大林組千駄木町出張所

石原　政三君　東京市外代々幡町代々木本村八二四

松岡　誠一君　東京府下中野町新町三八三三

田中　重楠君　京都市下京區西院大竹町三八

森本　勝藏君　府下南河内郡柏原町一〇四ノ二金治方

及川藤四郎　福島縣若松市榮町三ノ三四七本田方

吉成　完造君　兵庫縣西灘村上野一八七中村方

石田　晴治君　市内住吉區住吉中學南側

小山方

酒井　捷治君　德島市前川町福島紡績德島工場内大林組德島出張所

○建築事務所開設

會　員

德政　金吾君　德政建築事務所大阪府下吹田町一一三七

中村　庸二君　中村庸二建築事務所東京市日本橋區蠣殻町一ノ一

清水　榮二君　清水建築事務所神戸市北長狹通五ノ九三

○退會者

地方會員の部

小泉甚一郎君

普通贊助員の部

福見亮爾君、若林鍊三君、上久保九市郎君、大山啓次君

○死亡

會　員　郡富太郎氏　大正十五年七月十一日逝去

○住所不明

左記の方の勤務先又は現住所御存知の方は乍御面倒協會事務所迄御通知をお願ひ致します

田中俊助君

丸小野貞治君

小崎春記君

句井一男君

藤岡正一君

役員及職員

會頭　岸岡安

副會頭　宗兵藏

理事長理事園部文雄

主記理事　和田貞治郎

同　理事　小川安一郎

主計理事　澁谷五郎

同　理事　須川廉太郎

編輯理事　古塚正治

同　理事　光安梶之助

同　理事　池田谷久吉

同　理事　八木幸次郎

同　理事　酒井勇三郎

編輯係　江村恒一

庶務係　鷲田夏治郎

西谷節

會計係　大和榮儔

鷲取陽

山口スエ

會員	四〇三	會員（地方）	一九八
名譽贊助員	七〇	終身贊助員	五三
特別贊助員	二八	普通贊助員	四八一
合計（八月二十日現在）		一二三三	

●第九集　第九号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
大野正営業所
浅野スレート
日本スレート販売大阪支店
日本化学産業
東洋コルク工業
伊丹商店大阪出張所
カール・ツアイス
道下石材店
高垣商店
南満鉱業
浅野物産
浅海商店
ベニス工房
米本商店
田村商会
東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
原田商会
KENSEISHOKAI
玲光社

鈴鹿工務所
日本セメント防水剤製造所
岡本好文園
木下謹三商店
日本洋瓦大阪出張所
平岡襖紙店
河村青写真調製所
桐田商会
日本工剤
阿部鉄工所
岡田建築材料店
日本建築紙工
島田硝子製造所
日本ペイント製造
穴原商会大阪支店
中村グラニット商会
山中商会
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
三菱造船神戸造船所
シーベル・ヘグナー商会
政正

中村岩次郎商店
佐久間建材工業所
渡辺久雄商店
森川組
宮田鉄工所
大福海上火災保険
伊奈製陶
HANKEN SEISAKUSYO
三井物産
小野田セメント製造
永柳商店
城口研究所
出浦建築事務所
橋本建築事務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
横河工務所
片岡建築事務所

竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
設楽建築事務所
遠藤於菟
遠藤、南建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
亀谷開作
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎

山本組
松村組
藤木工務店
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
木村工務所
徳政工務店
大阪耐火リノリウム工業
須賀商会
栄進社
松尾鉄骨橋梁
新田ベニヤ製造所
山本窯業商店
田中昌司商店
常盤貿易商会
高島屋呉服店
デゥエット商会

早苗会
日米建築資料社
大阪鉄扉製作所
萩原煖房工務所
東洋リノリユーム
田中源太郎商店
建築金物商会
